

御名 御璽

明治二十九年十一月十九日(官報十一月二十日)

内閣總理大臣伯耆松方正義
外務大臣伯耆大隈重信

日本國皇帝陛下及獨逸帝國ノ名義ヲ以テスル獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下ハ日本國及獨逸國間ノ
交際ヲ皇張増進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達
セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益
ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ獨逸國駐節帝國特命全
權公使子爵青木周藏ヲ獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下ハ其ノ國務大臣外務大臣男爵「アドルフ、マル
シャル、フォン、ローベルスタイン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀
ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ通商航海條約ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タル
ヘク而シテ其ノ身體及財産ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁
判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民ト同様ニ代理人、辯護人及代人ヲ選擇シ且
使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内國臣民ノ享有スル總テノ
權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權及各種動産ノ占有ニ關シ及生前行為ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財産ヲ遺言
又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財産ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一
方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同様ノ特典、自由及權利
ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課

金ヲ徵收セラル、コトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由、及法律、命令及規則ニ
從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利、竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラル、所ノ適
當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク
總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ賦課スル所ノ一切ノ取立金ヲ免カレ又一切ノ強募
公債及軍事上ノ賦款或ハ取立金ヲ免カレヘシ

第三條

兩締盟國版圖ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ
兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ於テモ總テ買賣ヲ許サレタル各種ノ生産
物、製造品及商品ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲
シ、或ハ代理人ヲ以テシ、又ハ一人ニテ之ヲ爲シ、或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ビテ之ヲ爲ス
モ隨意タルヘク又家宅、製造所、倉庫、店舗其ノ他ノ構造物ヲ占有シ或ハ之ヲ借受ケ之ニ居住シ且住
居、工業及商業ノ爲メニ土地ヲ借受クルコトヲ得、尤内國臣民同様其ノ國ノ法律、警察規則及稅關規
則ヲ遵守スヘシ

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ各地、諸港及諸河ニシテ商品ノ輸出入ノ爲メ開カレ又ハ將來開カレ
タル場所へ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ且安全ニ到ルヲ得且商業、工業及航海ニ關シテハ政府、官吏、公
吏、一私人或ハ團體若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、所ノ稅金、賦課

金或ハ關稅ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス内國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク内國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ但シ常ニ各其ノ國ノ法律命令及規則ニ從フヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ有スル家宅製造所、倉庫、店舗及住居、工業若ハ商業ノ爲メニ供スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス

右建物等ハ猥ニ侵入搜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ諸計算書ヲ検査點閱スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律、命令及規則ニ從ヒ右侵入搜查ヲ爲シ得ヘキ條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

日本國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ獨逸國ニ輸入シ又獨逸國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ關稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ關稅ヲ課セラルヘキコトナカルヘシ

又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ第三國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止シ又ハ其ノ禁止ヲ存續スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止シ又ハ其ノ禁止ヲ存續スルコトナカルヘシ但シ此ノ未段ノ取極ハ公衆ノ衛生、畜類ノ安全或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラスモノトス

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ニ輸出スル一切ノ物品ハ他ノ各外國ニ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ將來賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ關稅又ハ取立金ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ

非サレハ他ノ一方ノ版圖内ニ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過稅ノ免除並ニ倉入、輸出獎勵、便益及税金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ商人、工業者及注文取集旅商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有稅物品ニ對シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メラレタル期限内ニ賣捌カレスシテ再輸出スルコトナリ而シテ右再輸出ノ爲メ及稅關倉庫ニ送戻ス爲メニ必要ナル定式ヲ履行スルニ於テハ輸出ニ關スル一切ノ取立金ヲ免除スヘシ但シ右見本ノ再輸出ニ付テハ最初輸入ノ際其ノ輸入地ニ於テ其ノ税金ニ均シキ金額ヲ預ケ入ル、カ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第九條

又見本帖、見本ノ一部及見本ニシテ唯々見本用ニ適スルニ過キサルモノハ前項ニ掲載セシヨリ以外ノ方法ニ依リ輸入セラルヘキト雖モ其ノ輸入稅ヲ免除スヘシ

第十條

日本國ノ諸港ニ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦獨逸國ノ船舶

船ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ關稅或ハ取立金ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ關稅取立金等ヲ課セサルヘシ又獨逸國ノ諸港ニ獨逸國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同様ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ獨逸國船舶カ右様ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ關稅或ハ取立金ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ關稅取立金等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトト問ハス必ス之ヲ施スモノトス

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同様全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ兩締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト獨逸國船舶ニ依ルトニ拘ハラズ又其ノ仕向先ノ兩締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルト問ハス兩締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ輸出獎勵並ニ稅金拂戻ノコトヲ以テスヘシ

第十一條

國、官吏、公吏、一私人、團體若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラル、所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラズ同様ノ場合ニ於テ同一ノ條件ヲ以テ内國船舶又ハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一ナルヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、碇泊所及川河ニ於テ船舶ノ繫留又貨物ノ積卸ニ關シテハ内國船舶ニ許與セサル特典ハ均シク他ノ一方ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十三條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、命令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ獨逸國ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國ニ於ケル獨逸國臣民ハ此ノ事項ニ關シテハ各右法律、命令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ將來許與セラレタル諸權利ヲ享有スルモノトス

獨逸國ノ二箇以上ノ港ニ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國ノ二箇以上ノ港ニ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル獨逸國船舶ハ輸出入ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ニ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及稅關規則ニ從フヘキモノトス

但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄ノ通り獨逸國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス尤大阪、新潟及夷港ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ内國船舶ノ拂フヘキ賦課金ノ外何等ノ賦課金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ修覆ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官廳ヨリ其ノ事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最寄地方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ヘ通知スヘシ

獨逸國ノ領海ニテ難破シ若ハ淺瀬ニ乗上ケタル日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ獨逸國ノ法律、命令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又之ト同ク日本國ノ領海ニテ難破シ若ハ淺瀬ニ乗上ケタル獨逸國船舶ニ關スル一切救助ノ手續ハ日本國ノ法律、命令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ

右難破若ハ乗上ケタル船舶並ニ其ノ部分及其ノ他一切ノ備付品、附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物並ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ得金、並ニ該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辦領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ難破救助手當ヲモ籠メタル物品救揚費及物品保存費ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救揚ケタル貨物及商品ハ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲ス場合ニハ普通ノ取立金ヲ納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ關スル船舶ニシテ他ノ一方ノ領海ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辦領事ハ其ノ自國臣民ヲシテ必要ノ補助ヲ受ケシムル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右條ノ補助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十五條

本條約ニ於テハ獨逸國ノ國法ニ從ヒ獨逸國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ獨逸國船舶ト見認メ又日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認ムヘシ

第十六條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與シタル一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶或ハ臣民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ發明、見本(實用ニ供スル見本共)雛形、商標、製造標、商社號及其ノ他ノ商號ノ保護ニ關シ法律ニ定ムル所ノ條件ヲ遵守スルトキハ内國臣民ト同一ノ權利ヲ享有スヘシ

第十八條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意スヘシ
日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官廳ハ之ニ關シテ其ノ市區施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ關スル共有資金若ハ財產ハ之ヲ右日本國官廳ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地内ニ於テ現ニ因テ以テ地所ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラレヘシ而シテ右地所ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲモ附セサルヘシ

右居留地内ノ地所占有權ハ將來ニ於テハ從來或ル場合ニ於ケルカ如ク領事官廳若ハ日本國官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要セスシテ其ノ占有者ヨリ自由ニ之ヲ日本國人若ハ外國人ニ賣渡スコトヲ得ヘシ

原借地券ニ依リ領事官廳ニ關シタル職務ハ日本國官廳ニ移ルモノトス

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無借料ニテ日本國政府ヨリ既ニ貸與シタル各地所ハ總テノ租稅及徵收金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ヨリ生スル諸權ニハ從フヘキモノトス

第十九條

本條約ハ兩締盟國ノ一方ト現ニ關稅同盟ノ關係ヲ有シ若ハ將來右關係ヲ有スヘキ國ノ版圖内ニモ適用スヘシ

第二十條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ千八百六十九年二月二十日締結ノ條約並該條約ニ附加スル一切ノ諸約定ニ代ルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無効ニ歸シ隨テ獨逸國裁判所カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ獨逸國臣民カ右期日ニ至ル迄享有セシ所ノ特典特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ自ラ消滅ニ歸スルモノトス而シテ此等ノ裁判權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十一條

本條約ハ第十七條ヲ除クノ外ハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テ之ヲ實施セムト欲スル旨ヲ獨逸國皇帝普漏西國皇帝陛下ノ政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經テ之ヲ實施スルモノトス尤本條約ハ千八百九十九年七月十七日以前ニハ實施セラレサルモノトス又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間効力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス
本條約第十七條ハ本條約批准交換ノ日ヨリ實施セララルヘシ而シテ兩締盟國ニ於テ別ニ取極ヲ爲サ

サルトキハ本條約ノ他ノ條項効力ヲ失フニ至ル迄其ノ効力ヲ存スヘシ

第二十二條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ伯林ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ
千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ本書ニ通ヲ作ル

子爵青 木 岡 藏印
男爵フオン、マルシヤル 印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ躋ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト獨逸帝國トノ交際ヲ永久親睦ナラシムコトヲ欲シ明治二十九年四月四日伯林ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ

間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年八月二十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國 璽

外務大臣侯爵西園寺公望 印

議定書

下名ノ全權委員ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ左ノ約定ニ同意セリ
第一條約第一條ニ付

日本國政府ハ内國ヲ開ク迄ハ獨逸國臣民ニ對シ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即獨逸

帝國臣民カ在東京獨逸國代表者若ハ日本國開港場ニ駐在スル獨逸國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月ヲ超ヘサル期間何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地方官廳ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ内地ニ旅行スル獨逸國臣民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保續スルモノト知ルヘシ

第二條約第一條及第三條ニ付

兩締盟國ハ其ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ内國臣民ト同様不動産抵當權ノ取得及占有ヲ許スコトニ同意ス

第三條約第五條ニ付

兩締盟國ハ本日調印シタル通商航海條約批准交換後六箇月ヲ經タル後本議定書ニ附屬スル輸入税目ニ掲ケタル物品ニシテ獨逸國ノ生産品又ハ製造品ナルトキハ之ヲ日本國ヘ輸入スル場合ニ該税目ヲ適用スルコトニ同意ス尤兩締盟國ノ間ニ千八百六十九年締結ノ現行條約ノ有效ナル間ハ其ノ第十九條ノ規定ノ效力ヲ妨ケス又右條約消滅後ハ本日調印シタル通商航海條約第五條及第十六條ノ規定ニ準據スヘキモノトス但シ日本國政府ニ於テ純良ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版彫刻畫、寫真及其ノ他ノ猥褻ナル物品並ニ日本國ノ發明、商標又ハ版權保護ニ關スル法律ニ違背スル物品及其ノ他衛生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルノ權利ハ本議定書又ハ其ノ附屬税目ノ爲メ制限セララルコトナカルヘキモノトス

該税目ニ掲ケタル從價税ハ之ヲ實行シ得ヘシト認メラル、限リ、ハ兩國政府間ニ成ル可ク速ニ締結セララルヘキ追加條約ヲ以テ日本國現行本位銀貨ニ換算スヘキ從價税ニ改ムヘシ

右換算ノ基礎ニハ本議定書ノ日附ヨリ前六箇月間ニ於ケル日本國稅關報告ニ明載スル平均價格ニ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚地ニ至ル迄ノ保險料及運費ヲ加算シ又手数料アルトキハ

之ヲモ加算シタルモノヲ以テスヘシ

然レトモ兩締盟國ハ附屬税目第二號第十一號、第十八號、第十九號、第二十號、第二十一號、第二十二號、第二十三號、第二十四號、第二十五號、第二十八號、第二十九號、第三十號、第四十號、第四十一號、第四十四號、第四十七號、第四十八號、第五十六號及第五十九號ニ掲ケタル物品ニ關シテハ日本國ト大不列顛國トノ間ニ協定シタル從價税ヲ從價税ニ換算スル方法ヲ獨逸國ヨリノ輸入品ニ對シテモ準用スルコトニ同意ス

從價税ニ改正スル迄ノ間及其ノ改正ヲ爲サ、ルモノハ附屬税目ノ末尾ニ掲ケタル規定ニ從ヒ從價税ヲ取立ツヘシ

附屬税目ニ掲ケサル物品ニ對シテハ本議定書批准交換後六箇月ヲ經タル後ハ千八百六十九年條約第十九條ノ規定及本日調印シタル通商航海條約第五條及第十六條ノ規定ノ效力ヲ妨ケスシテ日本國普通國定稅則ヲ適用スヘシ但シ右國定稅則並ニ後來之ニ改正ヲ加フル場合アルトキ其ノ改正ヲ獨逸國ヨリ日本國ヘノ輸入品ニ適用スルニハ六箇月以前ニ公布スヘキモノトス

前記ノ各税目實施ニ至ルトキハ現今日本國ニ於テ獨逸國ノ物品及商品ニ對シテ施行スル税目ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

此ノ外總テノコトニ付テハ現行條約及其ノ附屬諸約定ハ本日調印シタル通商航海條約ノ實施セララル、ニ至ル迄ハ無條件ニテ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第四條約第十七條ニ付

兩締盟國ハ他ノ一方ノ臣民カ發明、見本(實用ニ供スル見本共)雛形、商標、製造標、商社號及其ノ他ノ商號ノ保護ニ關シ法律ニ定メタル條件ヲ遵守スルトキハ各、其ノ版圖内ニ於テ該臣民ニ右ノ保護ヲ與フルコトニ同意ス

尤兩締盟國ハ專賣特許、見本、商標、製造標ノ保護ニ關スル雙方ノ關係ニ付別ニ條約ヲ締結スルコ

トアルヘシテ右條約ヲ締結スルニハ相當ノ商議ヲ開クヘシ
 又日本國政府ハ日本國ニ於ケル獨逸帝國領事裁判權ノ廢止ニ先タチ版權(思想上ノ所有權)ニ關
 スル列國ニベルン條約ニ加入スヘキコトヲ言明ス
 第五條約第二十條ニ付

日本國內ニ於テ獨逸帝國領事官廳ノ執行シタル裁判權ハ本日調印シタル通商航海條約ノ全部ノ
 實施ト同時ニ自然ニ消滅スルニ拘ハラズ兩締盟國ハ右條約全部ノ實施ノ時ニ當リ裁判中ニ在ル
 總テノ事件ニ關シテハ其ノ判決ニ至ル迄該裁判權ヲ繼續スルコトニ同意ス
 下名ノ全權委員ハ本議定書ヲ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シテ
 右條約批准セラル、トキハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦均ク
 兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス
 又本議定書ノ規定ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ其ノ效力ヲ失フヘキコトヲ約ス
 右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ
 千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵青 木 周 藏 印
 男爵フオン、マルシヤル 印

附屬	日本國ヘノ輸入税目	目	從價稅率
號	品		
一	綿布類		百ニ付十
	綿天鵞絨類		

二	本税目ニ掲載セサル各種ノ純綿布及亞麻、大麻若 ハ羊毛其ノ他ノ紡績シ得ヘキ物料ヲ交ヘタル各種 ノ綿布但シ綿ノ重ナル	同	同	五十
三	鉛(塊、錠ノ別ナク)	同	同	五十
四	化學製品及藥品	同	同	五十
五	赤燐	同	同	五十
六	次硝酸蒼鉛	同	同	五十
七	貌羅謨化物	同	同	五十
八	規尼涅	同	同	五十
九	格魯兒酸制篤亞斯	同	同	五十
十	「ダイナマイト」	同	同	五十
十一	沃度制篤亞斯	同	同	五十
十二	硝酸制篤亞斯	同	同	五十
十三	撒里矢爾酸	同	同	五十
十四	金屑線	同	同	五十
十五	電線	同	同	五十
十六	鐵線、鋼線及經夾「インチ」ノ四分ノ一ヲ超ヘサル 細竿鐵、細竿鋼 鐵及鋼鐵 塊 軌條	同	同	五十

十七	條、竿板	同	七半
十八	鐵ノ	同	七半
十九	鋼ノ	同	七半
二十	電鍍板(波形ト否トノ別ナク)	同	七半
二十一	葉鐵及葉鋼	同	七半
二十二	筒及管	同	七半
二十三	鐵道客車及同部分品	同	七半
二十四	鐵釘	同	七半
二十五	鐵螺旋釘、鐵牝牡螺旋釘(電鍍シタルモノ共)	同	七半
二十六	窓玻璃(尋常ノ)	同	七半
二十七	無色及無著色ノ	同	七半
二十八	有色、著色及砂磨ノ	同	七半
二十九	染料及彩料類	同	七半
三十	「アニリン」	同	七半
三十一	「アリザリン」	同	七半
三十二	「ログヴァート」越幾斯	同	七半
三十三	色油	同	七半
三十四	織絲類	同	七半
三十五	綿ノ	同	七半
三十六	織物用亞麻、大麻、シユートノ	同	七半
三十七	羊毛、梳理シタル羊毛共	同	七半

三十三	織物用ノ	同	八
三十四	其ノ他ノ	同	八
三十五	此稅目ニ掲ケサル各種ノ織絲	同	八
三十六	絹綿繻子	同	八
三十七	苦草	同	八
三十八	帽子(フェルト、楯トモ)	同	八
三十九	護膜製品	同	八
四十	麻布類	同	八
四十一	熟皮	同	八
四十二	靴底皮	同	八
四十三	其ノ他ノ	同	八
四十四	鐵道機關車及同部分品	同	八
四十五	牛乳	同	八
四十六	「コンデンスド」又ハ「エヴァポレーテッド」	同	八
四十七	「ステリライズド」	同	八
四十八	紙類	同	八
四十九	無味香油	同	八
五十	無味香蠟	同	八
五十一	「ポルトランドセメント」	同	八
五十二	時計(懷中時計ヲ除ク)及同部分品	同	八

明治二十九年十一月 勅令 無號

各種ノ毛布類(ウルステッド、絲ノ織物トモ)純毛ト他物ヲ交セタルト別ナク但シ毛ノ重ナル

五十一	「フランケット」	同
五十二	「フランネル」	同
五十三	縮緬吳呂	同
五十四	羅紗	同
五十五	「イタリアン、グロース」	同
五十六	他ノ織物	同
五十七	亞鉛	同
五十七	塊錠、板	同
五十八	薄板	同
五十九	精糖	同

從價稅算定ノ規定

本稅目ニ從ヒ納ムヘキ從價稅ハ其ノ物品ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ保險料及運送費ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトス

日本國皇帝陛下及獨逸帝國ノ名義ヲ以テスル獨逸國皇帝普滯西國皇帝陛下ハ相互ニ領事官ヲ接納シ且右領事官カ日本國及獨逸國ニ於テ其職務ヲ執行スルニ際シ享受スヘキ權利、特權及免除ニ關シ一層明確ノ規定ヲ設ケムコトヲ欲シ領事職務條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ獨逸國駐劄帝國特命全權公使子爵青木周藏ヲ獨逸國皇帝普滯西國皇帝陛下ハ其ノ國務大臣

外務大臣男爵「アドルフ、マルシヤル、フオン、ビーベルスタイン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ニ於テ總領事、領事、副領事、及代辦領事ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラストスル場所ヲ除ク外之ヲ他ノ一方ノ各港、各都市及各地ニ置クコトヲ得ヘシ但シ右ノ制限ハ別國ニ對シテモ均ク之ヲ適用スル場合ニ非サレハ兩締盟國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

第二條

總領事、領事、副領事及代辦領事ハ各其ノ本國ニ於テ定メラレタル書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出シタルトキハ兩國互ニ之ヲ接納承認シ而シテ其ノ認可狀ハ無料ニテ之ヲ付與スヘシ然ル上ハ右領事官ハ兩國カ互ニ許與スル所ノ諸權利及免除ヲ享受スヘキモノトス

第三條

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留置セラル、コトナク刑事ニ於テモ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト見做サルヘキ犯罪ノ場合ニ非サレハ勾留ヲ受クルコトナカルヘシ又陸海軍ノ宿營及捐資ヲ免カルヘシ又該領事官ハ商業、工業其ノ他ノ營業又ハ職務外ニ營利事業ニ從

事セサル者ニ限リ對人稅、奢侈稅並ニ直接又ハ對人的性質ヲ有スル各種ノ負擔及捐資ヲモ免セラ
ルヘシ但シ關稅、內國消費稅、地方消費稅若ハ其ノ駐在國內ニ於テ取得シ若ハ占有スル所ノ土地ニ
對スル賦課金ハ免除ノ限ニ在ラス
商業ニ從事スル領事官ハ其ノ特權ニ託シテ商業上ノ責務ヲ免カル、コトヲ得ス
領事若ハ領事官ヲ引致シタル場合ニハ之ヲ引致シタル國ノ政府ヨリ直チニ其ノ旨ヲ該領事等ノ所
屬國ノ公使館ニ通知スヘシ

第四條

總領事、領事及其ノ部下ノ書記生、筆生並ニ副領事、代辦領事ハ駐在國ノ裁判所ニ於テ必要ト認メ
ラル、トキハ該裁判所ニ出廷シテ證言ヲ爲スヘキ義務アルモノトス尤此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ
公文ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求スヘシ
前記ノ官吏ニシテ職務若ハ疾病ノ爲メ出廷スルコト能ハサルトキハ民事ノ場合ニ限リ裁判官ハ其
ノ居宅ニ就テ供述ヲ聽キ若ハ其ノ國ニ行ハル、所ノ定式ヲ履ミ供述書ヲ請求スヘシ此ノ場合ニ於
テハ前記ノ官吏ハ指定ノ期日內ニ裁判所ノ請求ニ應シ而シテ其ノ供述書ニハ署名ノ上官印ヲ捺シ
テ之ヲ送達スヘシ

第五條

總領事、領事、副領事及代辦領事ハ其ノ事務所若ハ其ノ居宅ノ門戸ニ其ノ事務所タルコトヲ表示ス
ル文字ヲ記シ本國ノ徽章ヲ掲グルコトヲ得
前記ノ官吏ハ其ノ事務所ノ家屋上ニ本國國旗ヲ掲グルコトヲ得又港內ニ於テ職務上ニ使用スル各
船舶ニモ均ク其ノ本國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第六條

領事館ノ記録書類ハ何時モ侵スヘカラサルモノトス而シテ駐在國ノ官廳ハ何等ノ口實ヲ以テスル

モ該記録中ノ書類ヲ檢閲シ又ハ差押ユルコトヲ得サルモノトス
領事官ニシテ他ノ業務ニ從事スルトキハ領事館ニ關スル書類ハ私用書類ト區別シ別ニ鎖シ置クヘ

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ニ係リ商業、工業又ハ其ノ他ノ營業ニ從事セサルトキハ其ノ事務
所及居宅ハ何時モ侵スヘカラサルモノトス
駐在國ノ當該官廳ハ犯罪取調ノ爲メノ外何等ノ口實ヲ以テスルモ該事務所及居宅ニ侵入スヘカラ
ス又該事務所及居宅內ニ在ル書類ハ如何ナル場合ニ於テモ右官廳ニ於テ之ヲ檢閲シ又ハ差押ユル
コトヲ得ス尤該事務所及居宅ハ何等ノ事情アルモ犯罪人ノ庇護所ト爲スヘカラス

第七條

總領事、領事、副領事及代辦領事ノ死亡、不在若ハ其ノ他事故アル場合ニハ其ノ部下ノ書記生又ハ筆
生ニシテ獨逸國又ハ日本國ノ當該官廳へ豫メ其ノ資格ヲ通知シアル者ニ於テ一時領事官ノ職務ヲ
執行スルコトヲ得而シテ其ノ職務執行中ハ領事官ノ受クル所ト同一ノ諸權利及免除ヲ享受スヘシ
但シ領事官ノ爲メニ定ムル所ノ條件及制限ニ依ルヘシ

第八條

總領事及領事ハ事故アルカ又ハ一時不在ナルトキハ本國政府ノ認可及駐在國政府ノ承諾ヲ經テ領
事代理ヲ任命スルコトヲ得又其ノ管轄區域內ノ都市、港及其ノ他ノ場所ニハ代辦領事ヲ任命スル
コトヲ得
右領事代理又ハ代辦領事ハ其ノ之ヲ任命シタル領事若ハ其ノ本國政府ヨリ委任狀ヲ受クヘシ該領
事代理及代辦領事ハ本條約中領事官ノ爲メニ定ムル所ノ特權ヲ享受スヘシ但シ領事官ノ爲メニ定
ムル所ノ制限ニ依ルヘシ

第九條

兩國間ニ現存スル條約、取極若ハ國際法ニ違反スル事件アルトキハ、總領事、領事、副領事及代辦領事ハ其ノ管轄區域内ニ在ル所ノ駐在國ノ裁判所若ハ行政官廳ニ向テ救済ヲ求メ且右等官廳ニ問合ヲ爲シ或ハ自國臣民ノ權利、利益ヲ保護スル爲メ申立ヲ爲スノ權アルモノトス而シテ若右等官廳ニ於テ之ニ對シ相當ノ措施ヲ爲サ、ルトキハ前記ノ領事官ハ本國代表者不在ノ場合ニ限り直接ニ之ヲ其ノ駐在國ノ政府ニ申出ルコトヲ得

第十條

兩國ノ總領事、領事、副領事及代辦領事又ハ其ノ部下ノ書記生ハ本國ノ法律、命令ノ許ス限リハ左ノ權利ヲ有スヘシ

- 一、領事事務所、領事館所在地當事者ノ住所又ハ本國ノ船舶内ニ於テ本國ノ船長、船員、乘客、商人及其ノ他ノ本國臣民ノ陳述ヲ聽クコト
 - 二、本國臣民ノ單獨法律行爲、遺言或ハ本國臣民相互ノ間及本國臣民ト駐在國臣民又ハ駐在國在留ノ他國人トノ間ニ取結ヒタル契約或ハ該領事官ノ任命國ノ版圖内ニ在ル地所ニ關シ及右版圖内ニ於テ處辨スヘキ法律行爲ニ關シ駐在國臣民又ハ駐在國在留他國人ノ取結ヒタル契約ヲ登錄シ及之ヲ證明スルコト
 - 三、本國官廳又ハ官吏ヨリ發スル所ノ總テノ文書ヲ翻譯シ及之ヲ證明スルコト
- 前記諸書類ノ原本又ハ其ノ謄本、拔萃及翻譯ハ右領事官ニ於テ之ヲ證明シ其ノ館印ヲ捺シタル上ハ兩國ニ於テ公證人又ハ兩國ノ一方ノ當該官吏、公吏若ハ裁判官ノ登錄證明シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノトス但シ前記諸書類ニ就テハ之ヲ執行スヘキ國ノ法律ニ從ヒ印紙稅及其ノ他ノ手数料、賦課金ヲ拂フヘキモノトス

第十一條

兩國ノ代表者、總領事、領事及副領事ハ其ノ任命國ノ法律ノ許ス限リハ其ノ國ノ法律ノ規定スル所ニ從ヒ其ノ國臣民ノ婚姻ヲ取扱フ權アルモノトス
此ノ規定ハ結婚者ノ一人カ駐在國ノ臣民ナルトキハ之ヲ適用セサルモノトス
前記ノ規定ニ從ヒ婚姻ヲ取扱ヒタルトキハ當該領事官ヨリ其ノ旨直チニ地方官廳ニ通知スヘシ

第十二條

兩國ノ代表者、總領事、領事及副領事ハ其ノ任命國ノ法律命令ニ從ヒ其ノ國臣民ノ出生及死亡ヲ證明スルノ權アルモノトス
前項ノ規定ハ駐在國ノ法律ニ從ヒ當事者カ駐在國ノ當該官廳ニ出生及死亡届ヲ爲スヘキ義務ヲ妨ケサルモノトス

第十三條

總領事、領事及副領事ハ各其ノ本國臣民ノ後見人及保護人ヲ命シ又其ノ本國ノ法律ニ從ヒ後見及保護ノ施行ヲ監督スルノ權アルモノトス

第十四條

兩國ノ一方ノ臣民若他ノ一方ノ版圖内ニ於テ死亡シタルトキハ左ノ規定ニ遵フヘキモノトス
一、日本國臣民獨逸國ニ於テ又ハ獨逸國臣民日本國ニ於テ各本國總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ノ駐在地方ハ其ノ近傍ニテ死亡シタル場合ニハ地方ノ當該官廳ヨリ直チニ其ノ旨ヲ該領事官ニ通知スヘシ
若領事官ニ於テ地方ノ當該官廳ニ先チ死亡ノコトヲ知リタルトキハ該領事官ヨリ其ノ旨ヲ地方ノ當該官廳ニ通知スヘシ

領事官ハ其ノ職權又ハ當事者ノ請求ニ依リ死亡者ニ屬スル一切ノ所持品、動産及書類ニ封印ヲ施スノ權アルモノトス但シ之ニ封印スルニ先ダテ該領事官ト立會共同封印ヲ施スヘキ職權ヲ有スル地方ノ當該官廳ニ通知スヘシ

右共同封印ハ地方ノ官吏ノ協力アルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス但シ地方ノ當該官廳ニ於テ領事官ヨリ共同封印ノ開封ニ立會フヘキ請求ヲ受ケ其ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ四十八時間以内ニ臨場セサルトキハ領事官ハ地方ノ官吏ノ立會ヲ待タズ單獨ニテ開封スルコトヲ得ヘシ若シ地方ノ官吏ニシテ立會フタルトキハ領事官ハ開封ノ後該地方ノ官吏ノ面前ニ於テ死亡者ノ財産目錄ヲ作ルヘシ而シテ該地方ノ官吏ハ其ノ面前ニテ作リタル調書ニ連署スヘシ但シ地方ノ當該官廳ハ右職務上ノ協力ノ爲メ何等ノ手数料ヲモ要求スルノ權ナキモノトス

二、地方ノ當該官廳ハ其ノ國ノ慣例ニ依リ又ハ其ノ國法律ノ規定スル所ニ依リ死亡者ノ遺產處分ノ開始及相續人、債權者ノ徵招ニ關スル廣告ヲ爲シ其ノ旨ヲ領事官ニ通知スヘキモノトス但シ領事官ハ該官廳ニテ右ノ廣告ヲ爲シタル爲メ自ラ同様ノ廣告ヲ爲スノ權利ヲ妨ケラレハコトナカルヘシ

三、死亡者ノ動産ニシテ之ヲ原狀ノ儘ニ保存シ置クトキハ遺產ニ對シ巨多ノ費用ヲ要スヘキ場合ニ於テハ領事官ニ於テ駐在國ノ法律及慣例ニ從ヒ競買ニ付スルコトヲ得

四、領事官ハ遺產目錄ニ登記シタル所持品及有價物件並ニ債務者拂入金、所得金、其ノ他動産ヲ賣却シタルトキハ其ノ代金ヲ地方ノ當該官廳ニテ遺產ニ關シ最終ノ廣告ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ十箇月間又地方ノ當該官廳ニテ右廣告ヲ爲サ、リシトキハ死亡ノ日ヨリ起算シテ十二箇月間駐在國ノ法律ニ從ヒ保管供託物ト爲シ預リ置クヘシ

但シ領事官ハ死亡者ノ治療費、埋葬費、雇人給料、借家賃、裁判費、領事館諸手数料及其ノ他同様ノ費用並ニ死亡者遺族ノ爲メ養料ヲ要スルトキハ其ノ費用ヲモ預メ遺產中ヨリ之ヲ控除スルノ權アルモノトス

五、前項ノ規定ノ外領事官ハ死亡者ノ動産及不動産維持ノ爲メ相續人ノ利益ト認ムル一切ノ處置ヲ爲スノ權アルモノトス遺產ハ領事官ニ於テ自ラ之ヲ管理シ若ハ他人ヲ撰テ代理人ト爲シ領事官ノ名義ヲ以テ之ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノトス又死亡者ノ所有ニ屬スル有價物件ハ公私ヲ論セス何レノ處ニ在リトモ領事官ニ於テ其ノ引渡ヲ求ムルノ權アルモノトス

六、若本條第四項ニ掲ケタル期間ニ駐在國ノ臣民若ハ第三國ノ臣民又ハ人民ヨリ死亡者ノ遺產ニ對シテ爲シタル要求ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ其ノ裁判權ハ遺產相續權又ハ遺贈ニ關スル事項ノ外駐在國ノ裁判所ニ專屬スルモノトス

死亡者ノ遺產ニシテ其ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ駐在國ノ法律ノ許ス限リハ債權者ヨリ地方ノ當該官廳ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ破産ノ宣告アリタル後ハ領事官ハ地方ノ當該官廳又ハ破産管財人ニ諸書類、所持品及有價物件ヲ引渡スヘシ而シテ引渡ノ際ニハ領事官ハ其ノ本國臣民ノ利益ヲ保護スルノ職責アルモノトス

七、本條第四項ニ掲ケタル期限ノ終ニ至リ、遺產ニ對シ何等ノ請求ヲモ爲ス者アラサルトキハ領事官ハ駐在國ニテ定ムル所ノ稅率ニ照シ遺產ノ負擔ニ關スル一切ノ費用及仕拂金ヲ支拂ヒタル上之ヲ受取り而シテ清算ノ上正當ノ相續人ニ引渡スヘシ但シ領事官ハ其ノ本國政府ヘノ外ハ何人ヘモ右ニ關スル清算書ヲ差出スヲ要セサルモノトス

八、兩國ノ一方ノ臣民ノ遺產ノ處分開始、管理及清算ニ關シ他ノ一方ニ於テ生シタル一切ノ事件ニ付テハ當該總領事、領事、副領事及代辦領事ハ法律上相續人ヲ代表スルノ職權ヲ有シ且委任狀ヲ以テ其ノ委任權ヲ證明スルヲ要セスシテ職務上其ノ代理者ト認メラルヘキモノトス

因テ領事官ハ其ノ駐在國ノ當該官廳ニ自身ニ出頭シ若ハ該國ノ法律ニ從ヒ代理人タルヘキ資

格ヲ有スル者ヲ代理者トシテ出頭セシメ以テ遺産ニ關スル一切ノ事件ニ付相續人ノ利益ヲ保護シ又相續人ニ對シテ要求ヲ爲ス者アルトキハ之ニ對シ答辯ヲ爲スコトヲ得

然レトモ遺言執行者アル場合ニハ右執行者若ハ相續人現ニ其ノ地ニ居ルカ又ハ代人ヲ其ノ地ニ置キタル場合ニ於テ遺産ニ對シテ要求ヲ爲ス者アリタルトキハ領事官ハ右執行者、相續人又ハ代人ヲシテ其ノ要求ニ對シテ故障ヲ申立ツルノ便ヲ得セシムル爲メ要求ノ趣ヲ右執行者、相續人又ハ代人ニ通知スヘキ義務アルモノトス

尤總領事、領事、副領事及代辦領事ハ各本國臣民ノ代理者ト見做サルヘキノ故ヲ以テ遺産ニ關スル事件ニ付該領事官ヲ裁判上被要求者ト爲スコトヲ得サルモノト知ルヘシ

九、相續權及遺産ノ分配權ハ死亡者ノ本國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

相續權及遺産ノ分配權ニ關スル一切ノ要求ハ死亡者ノ本國ノ裁判所若ハ其ノ他ノ當該官廳ニ於テ其ノ國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

十、獨逸國臣民日本國ニ於テ及日本國臣民獨逸國ニ於テ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所若ハ最寄ニ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所ニテ死亡シタルトキハ地方ノ當該官廳ニ於テ各本國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺產目錄ヲ調製シテ之ニ捺印シ右目錄ノ正當謄本ハ死亡證書及死亡者ノ國籍ヲ證明スル一切ノ書類ヲ添ヘ可成速ニ遺產所在地ニ最モ近キ場所ニ駐在スル領事官ニ送付スヘシ

地方ノ當該官廳ハ死亡者ノ遺產ニ關シ其ノ國ノ法律ニ定ムル所ノ一切ノ處置ヲ施シ而シテ遺產ハ本條第四項ニ掲ケタル期間經過後可成速ニ前記ノ領事官又ハ其ノ代理者ニ引渡スヘシ

當該領事官若ハ其ノ代理者ニシテ遺產所在地ニ到著シタル上ハ夫迄ニ之ニ干與シタル地方ノ當該官廳ニ於テ本條前諸項ニ掲ケタル規定ニ遵由スヘキコトハ勿論ナリトス

十一、本條約ノ規定ハ兩國ノ一方ノ臣民ニシテ一方ノ版圖外ニ於テ死亡シタルモ他ノ一方ノ版圖内ニ動産又ハ不動産ヲ遺シタルトキハ其ノ遺產ニモ亦均ク之ヲ適用スヘキモノトス

十二、兩國ノ一方ノ海員、船客其ノ他ノ旅行者ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ陸上若ハ船舶中ニテ死亡シタルトキハ其ノ遺產目錄ヲ調製シ及其ノ他遺產ノ維持、清算ニ關シ必要ナル職務上ノ取扱ヲ爲スノ任務ハ死亡者ノ本國ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ニ專屬スルモノトス

第十五條

總領事、領事、副領事及代辦領事ハ自由交通ヲ許サレタル本國船舶ニ自身ニ赴キ又ハ代理者ヲ派遣シテ乘組役員及海員ヲ訊問シ、船舶書類ヲ檢閲シ、航行ノ目的、仕向地及航行中ノ事跡ヲ聞キ、積荷目錄ヲ領受シ入港及出港手續ヲ爲スコトヲ幫助シ並ニ通譯者又ハ附添者トシテ右役員及海員ニ附添ヒ駐在國ノ裁判所及行政官廳ニ出頭スルコトヲ得ヘシ

兩國ノ一方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ノ駐在スル港ニ於テハ他ノ一方ノ官吏、公吏ハ該領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ通知ヲ爲シタル後ニ非サレハ普通ノ税關上及衛生上ノ監督ノ外商船ニ赴キテ取調、引致、差押、搜索、訊問其ノ他各般ノ強制的處分ヲ施スコトヲ得サルモノトス

役員又ハ海員中ノ人員ヲシテ其ノ地ノ裁判所又ハ地方官廳ニテ證言又ハ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テモ領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ相當ノ時期ニ其趣ヲ通知スヘシ而シテ右通知書ニハ之ヲ行フ爲メニ定メタル時刻ヲ記載スヘシ若該領事官又ハ其ノ代理者出頭セサルトキハ裁判所又ハ地方ノ官廳ハ其闕席ニ拘ハラズ直チニ之ヲ行フコトヲ得

第十六條

本國商船内ノ秩序ヲ保維スルコトハ專ラ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ノ職責ニ屬スルヲ以テ

該領事官ハ船長、役員及水夫ノ間ニ生シタル紛議殊ニ雇入料及其ノ相互ノ義務履行ニ關スル紛議ヲ仲裁スヘキモノトス故ニ商船内ニ於テ生シタル紛議ニシテ港内若ハ陸上ノ安寧、秩序ヲ妨害スル場合若ハ其ノ船ノ役員及海員外ノ者ニシテ右紛議ニ關係シタル場合ヲ除クノ外ハ何等ノ口實ヲ以テスルモ該地ノ裁判所若ハ其他ノ官廳ニ於テ之ニ關涉スルコトヲ得サルモノトス

但シ當該官廳ハ其ノ國ノ臣民ヲ除クノ外ハ領事官ヨリ依頼ヲ受ケ該官廳ニ於テ引致ヲ必要ト認メタル所ノ船舶乗組員ヲ搜索、引致、留置スル爲メ有效ノ援助ヲ與フヘキ義務アルモノトス而シテ右乗組員ハ領事官ヨリ船舶登錄簿又ハ船員名簿ノ正當ナル拔萃ヲ添ヘ當該官廳ヘ宛書面ヲ以テ依頼シタルトキニ於テ之ヲ引致シ其ノ船ノ港内ニ碇泊スル間ハ領事官ノ爲メニ之ヲ留置シ領事官ヨリ書面ヲ以テ請求アルヲ待テ之ヲ放免スヘキモノトス

右引致、留置ニ關スル費用ハ領事官ニ於テ之ヲ支辨スヘキモノトス

第十七條

總領事、領事、副領事及代辦領事ハ本國軍艦又ハ商船ノ士官、役員、水夫其ノ他ノ乗組員ニシテ脱艦脱船ノ罪アル者又ハ脱艦脱船ノ廉ヲ以テ告訴セラレタル者ヲ右艦船又ハ本國ニ送還スル爲メ逮捕ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ船舶登錄簿及艦船員名簿ノ正當ナル拔萃若ハ其ノ他引渡ヲ請求スル所ノ罪人カ該艦船ノ乗組員ナルコトヲ判明ナラシムル公文書ヲ添ヘ書面ヲ以テ駐在國ノ當該官廳ニ依頼スヘシ斯ク領事官ヨリ依頼アリタル場合ニ於テハ右脱走者カ其ノ乗組ノ時ニモ又著港ノ時ニモ引渡ノ依頼ヲ受ケタル國ノ臣民ニ非サルトキニ限り該領事官ノ宣誓ヲ要セスシテ之ヲ引渡スヘキモノトス

又當該官廳ハ右脱走者ヲ搜索、逮捕スルニ必要ナル援助ヲ領事官ニ與ヘ其ノ國ノ獄舎ニ投シ領事官ニ於テ之ヲ送還スルノ便ヲ得ル迄其ノ依頼ニ應シ領事官ノ費用ヲ以テ獄舎ニ留メ置クヘシ

但シ逮捕ノ日ヨリ六箇月以内ニ領事官ニ於テ送還ノ便ヲ得サルトキハ右脱走者ヲ放免シ而シテ同一ノ事件ニ關シテ再ヒ逮捕スルコトヲ得サルモノトス

脱走者ニシテ若其ノ搜出セラレタル國ニ於テ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルトキハ其ノ事件ヲ管轄スル當該裁判所ニ於テ判決ヲ下シ之ヲ執行シタル後ニ非サレハ領事官ノ處分ニ任カセサルモノトス

第十八條

兩國船舶ノ航海中ニ受ケタル總テノ損害ハ船舶所有者、荷主及保險者間ノ契約ニ反セサル限りハ該船舶カ任意ニ寄港シタルト避難ノ爲メ寄港シタルト問ハス總テ總領事、領事、副領事及代辦領事ニ於テ之ヲ決定スヘキモノトス

但シ領事官ニシテ本件ニ付利害ノ關係ヲ有スル場合又ハ該船舶若ハ積荷ノ關係者ナル場合又ハ駐在國ノ臣民若ハ第三國ノ臣民或ハ人民ニ於テ本件ニ關係ヲ有スル場合ニ於テ此等當事者間ニ協議一致セサルトキハ駐在國ノ當該官廳之ヲ裁決スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ本日兩國間ニ協定シタル通商航海條約全部ノ實施ト同時ニ效力ヲ生シ而シテ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スヘシ

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セシムヘキ旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本日兩締盟國間ニ協定シタル通商航海條約ノ批准交換ト同時ニ伯

林ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ
千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵青 木 周 藏印
男爵フォン、マルシヤル印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト獨逸帝國トノ實際ヲ永久親睦ナラシムコトヲ欲シ明治二十九年四月四日伯林ニ於テ兩
國全權委員ノ記名調印シタル領事職務條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ
間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年八月二十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽
ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣侯爵西園寺公望印

議定書

下名ノ全權委員ハ本日記名調印シタル領事職務條約ト同時ニ左ノ約定ニ同意セリ
一、本日締結シタル領事職務條約實施ノ日ニ當リ、兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ一方ノ保
護民ト見認メラレタル無籍者アルトキハ兩國ノ領事官ハ本條約ニ依リ本國臣民ノ事件ニ關シ
付與セラレタル權利ヲ該保護民ニモ其ノ生存中適用スヘシ而シテ此ノ如キ人民ノ名簿ハ兩國
政府ヨリ相互ニ通知スヘキモノトス

二、犯罪人交付及刑事ニ係ル依頼ヲ處理スルコトニ關シテハ兩國ノ間ニ別ニ約定ヲ取結フヘシ
而シテ右約定ノ實施ニ至ル迄ハ獨逸國ヨリ右ノ請求ヲ爲スニ當リ日本國ニ對シテモ同様ノ事
件ニ付互相ノ措置ヲ爲スヘシト保證スル限ハ獨逸國ハ日本國ヨリ本件ニ關シ別國ニ對シ現ニ
許與シ又ハ將來許與シタル所ト同一ノ權利及特典ヲ日本國內ニ於テ享有スヘシ
下名ノ全權委員ハ本議定書ヲ本日調印シタル領事職務條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ
右條約批准セラレタルトキハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦均ク
可認セラレタルモノト見做スコトヲ約ス
又本議定書ノ規定ハ前記條約ノ無効ニ歸スルト同時ニ其ノ效力ヲ失フヘキコトヲ約ス
右證據トシテ兩國全權委員ハ之レニ記名調印スルモノナリ
千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

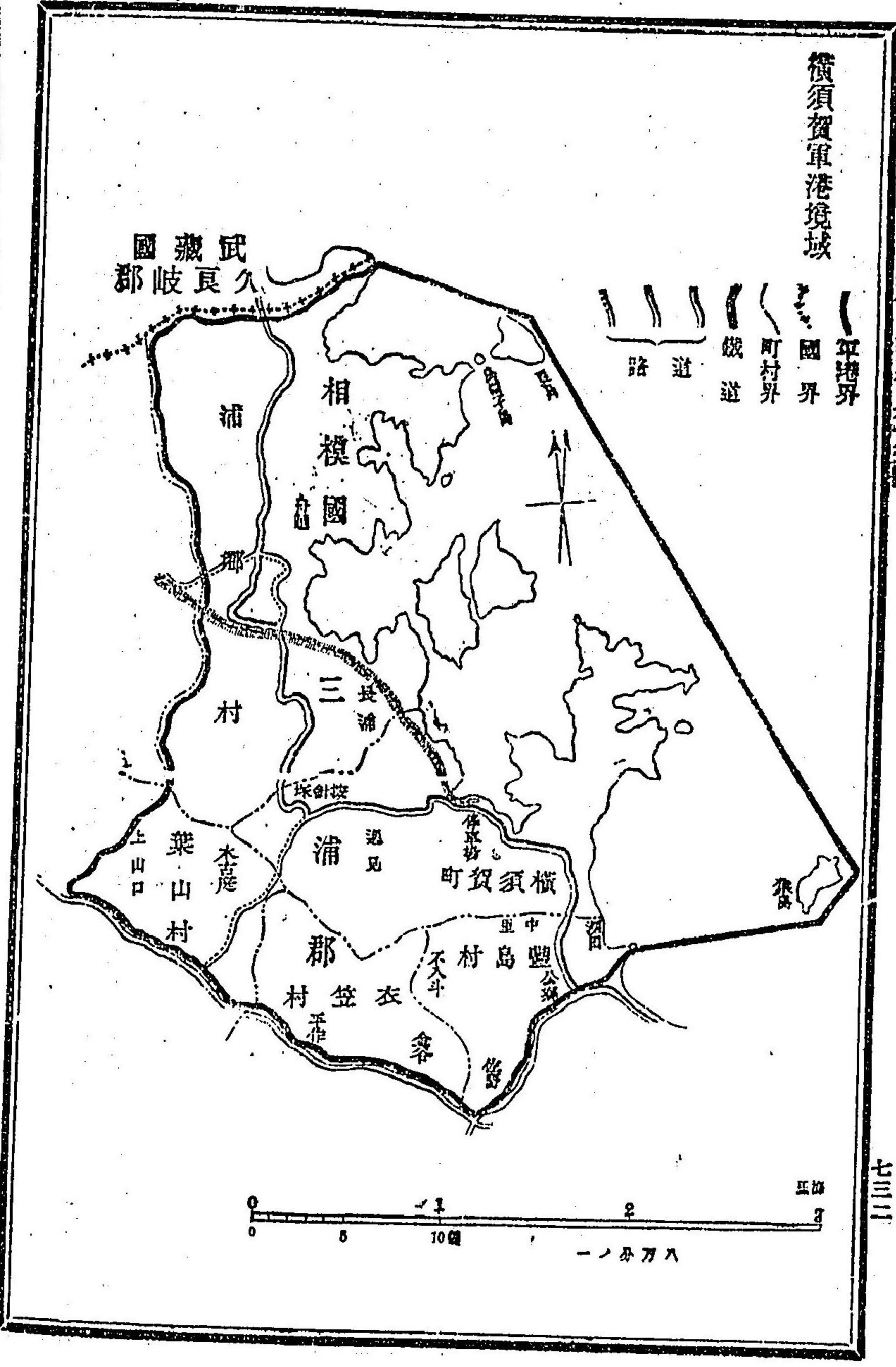
子爵青 木 周 藏印
男爵フォン、マルシヤル印

御名 御璽

明治二十九年十一月十一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百六十五號(官報十一月二十一日)
明治二十九年勅令第三百六十六號左ノ通改正ス
横須賀軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム



左ニ掲グル箇所ハ横須賀軍港ノ境域内トス
 相模國三浦郡横須賀町及浦郷村
 同國同郡豐島村ノ内中里、深田、不入斗ノ全部及公郷、佐野ノ一部
 同國同郡衣笠村ノ内金谷及平作ヲ横斷セル道路以北ノ地
 同國同郡葉山村ノ内木古庭ヲ横斷セル道路以北並ニ逸見ニ通スル道路以東ノ地及該道路ノ以西
 木古庭上山口一部ノ地

御名 御璽

明治二十九年十月八日

拓殖務大臣子爵高島綱之助
 内務大臣伯爵樺山資紀

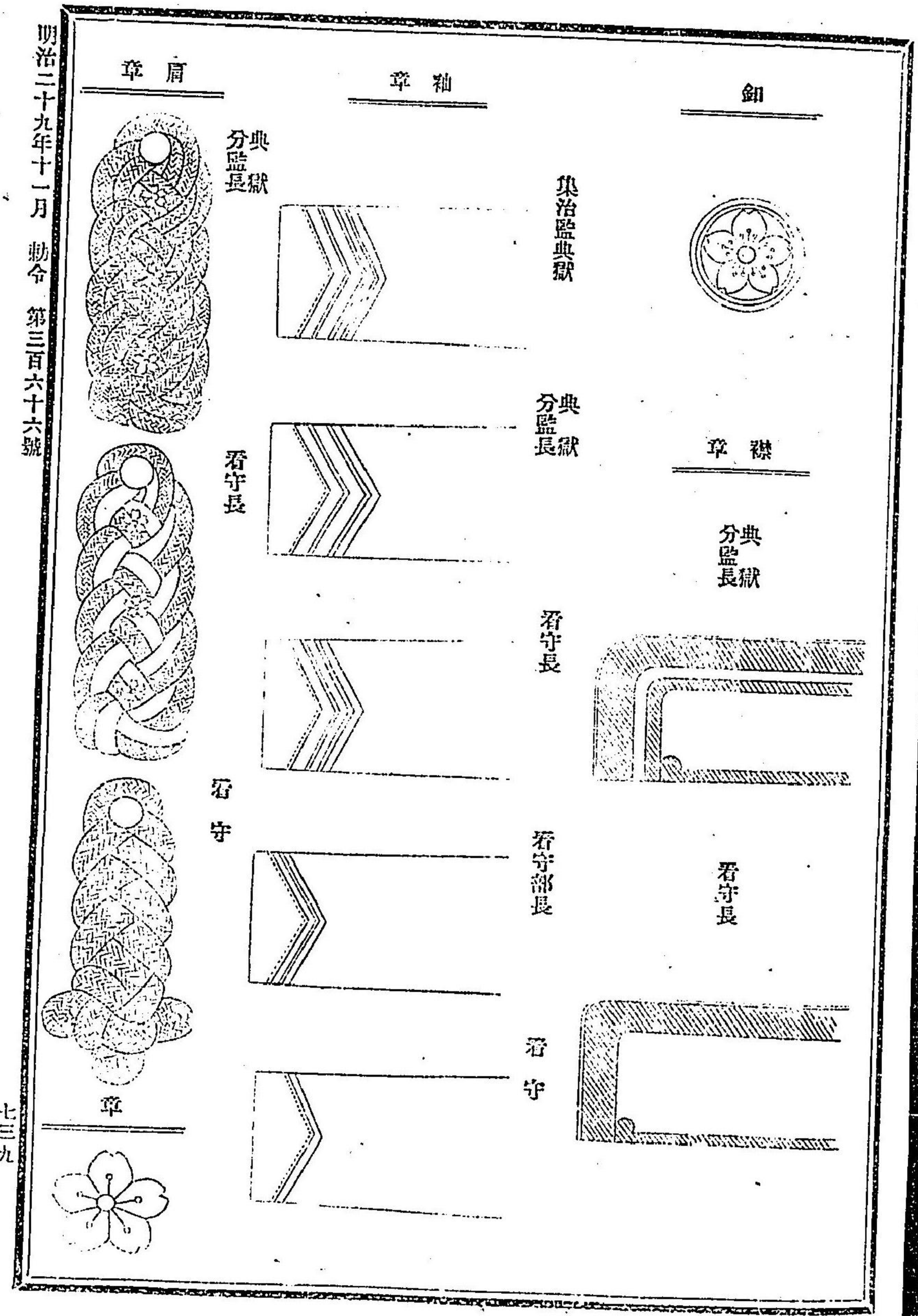
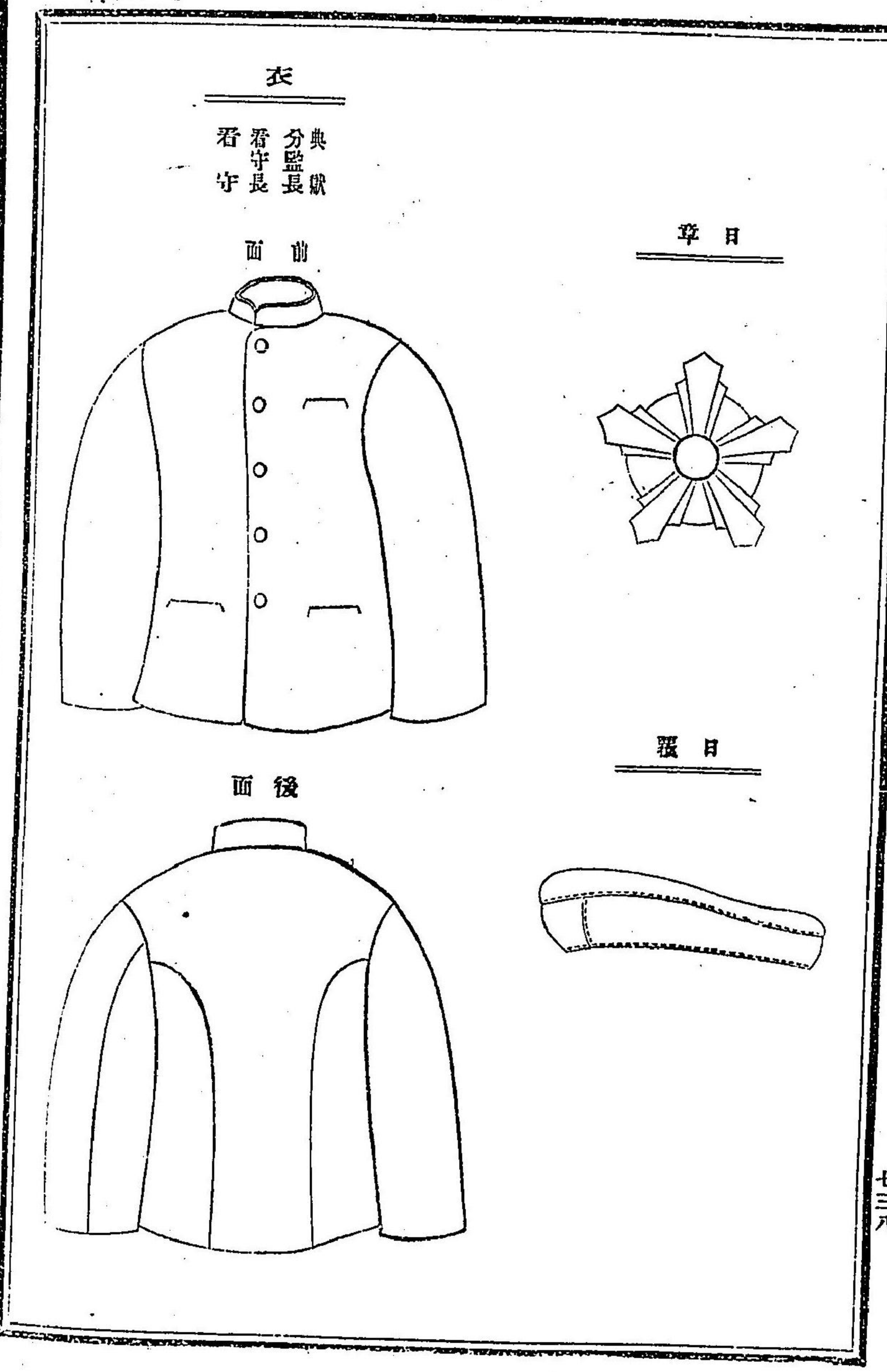
勅令第三百六十六號(官報十一月二十四日)
 典獄分監長看守長及看守ノ服制並ニ提燈徽章別表ノ通定ム
 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但看守ニ在テハ本令施行ノ際既ニ給與セル現品ハ其ノ保
 存期限内之ヲ使用セシムルコトヲ得
 典獄分監長及看守長ハ本令施行前ト雖本令ニ定ムル所ノ服制並ニ提燈徽章ヲ用ウルコトヲ得
 (別表)

名		衣		袴		甲種外套	
乙種外套	帽	日履		肩章		刀	

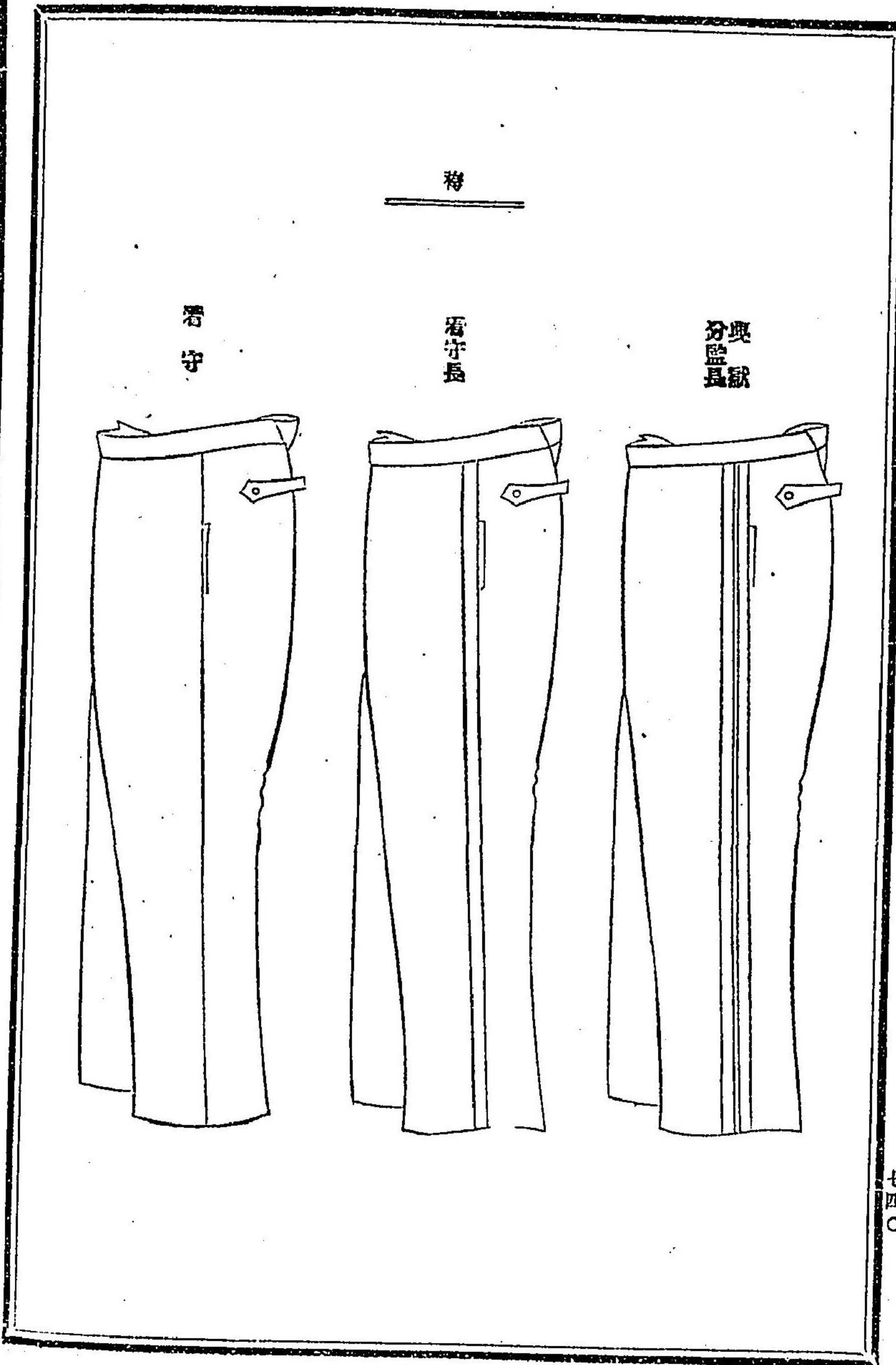
刀		刀		用		名		名	
看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長
表黒革	裏赤革	同	同	五厘	五厘	五厘	五厘	同	同
同	同	眞鍮	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

帽		正		常		名		名	
看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長	看守長	典獄長
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

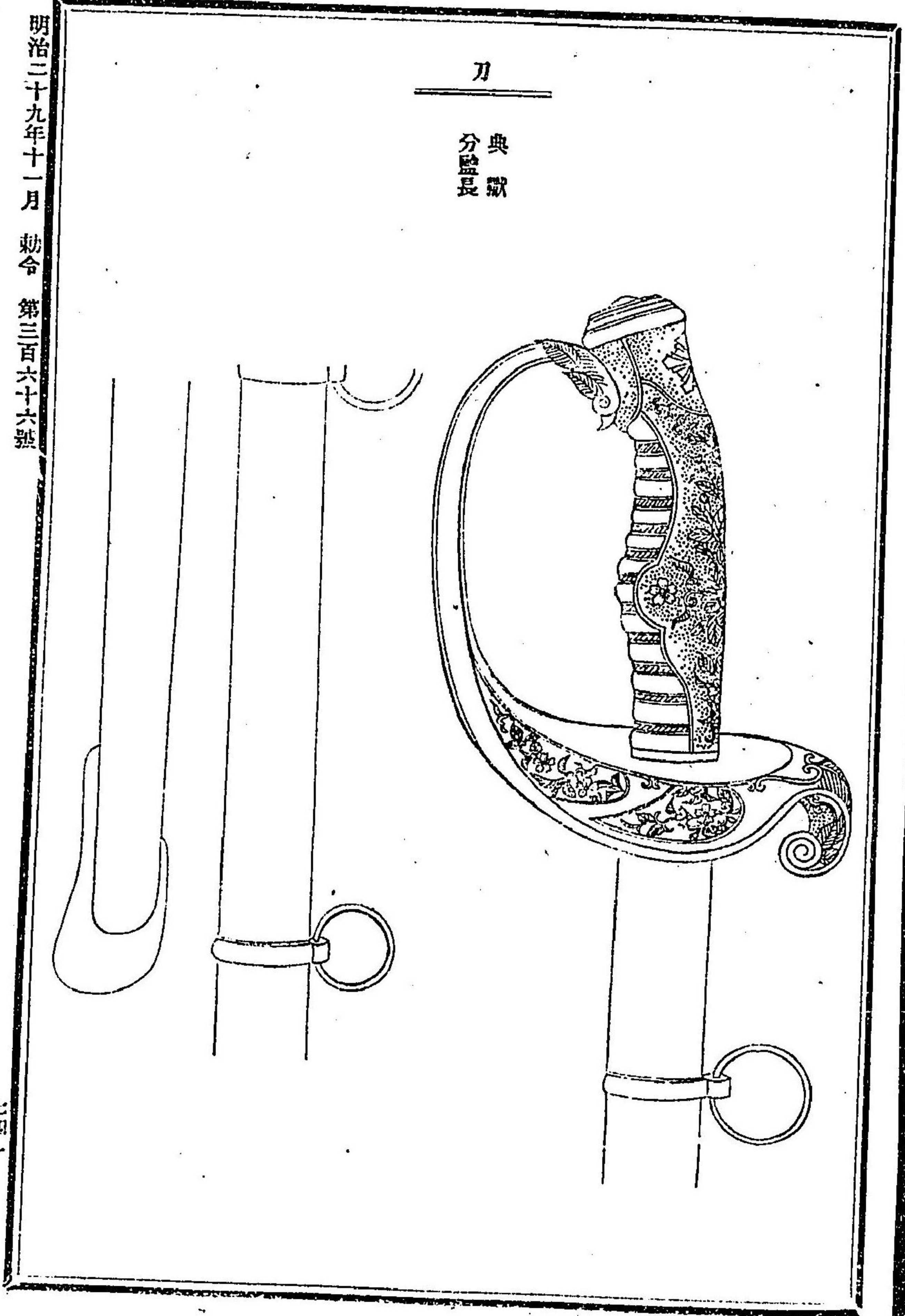
明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號



明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號



七四〇

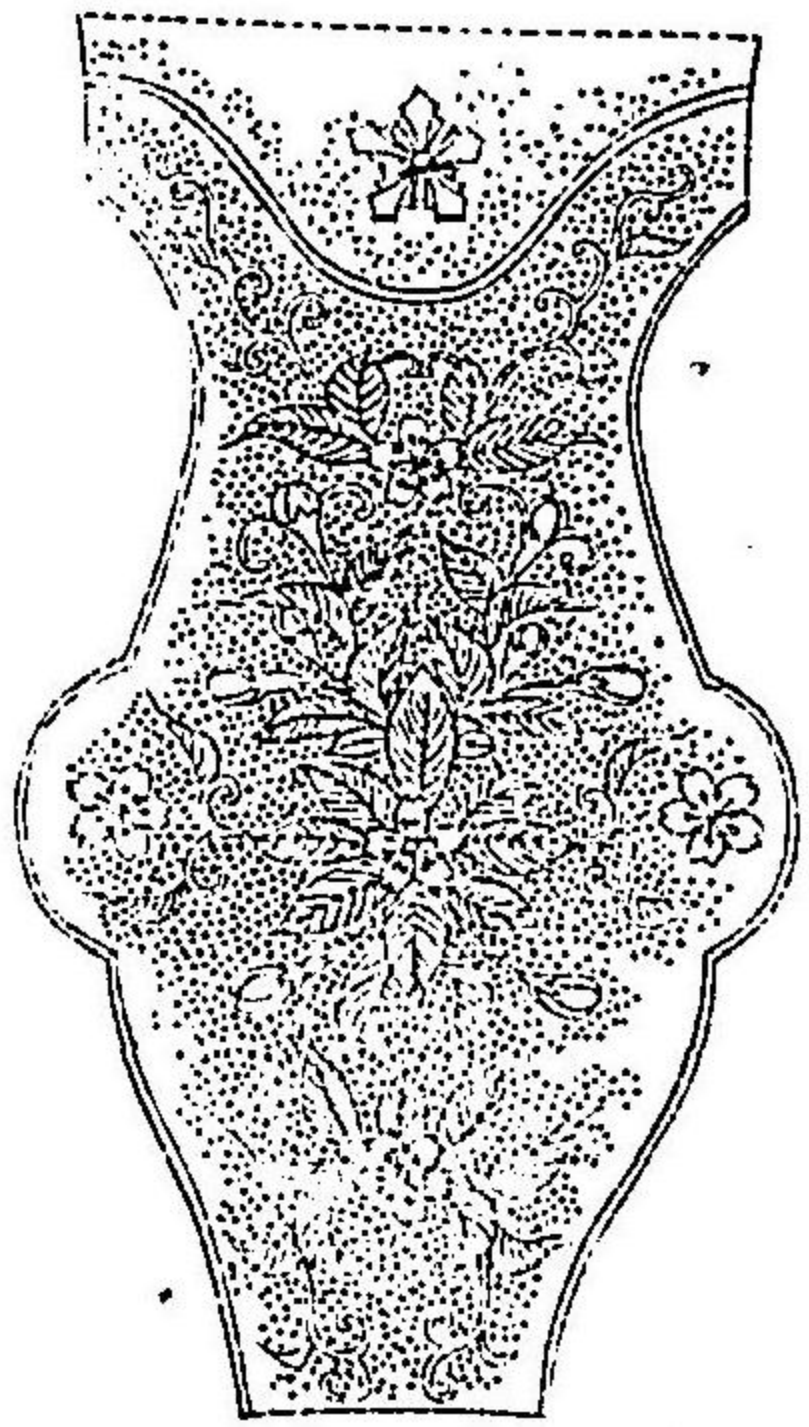


明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號

七四一

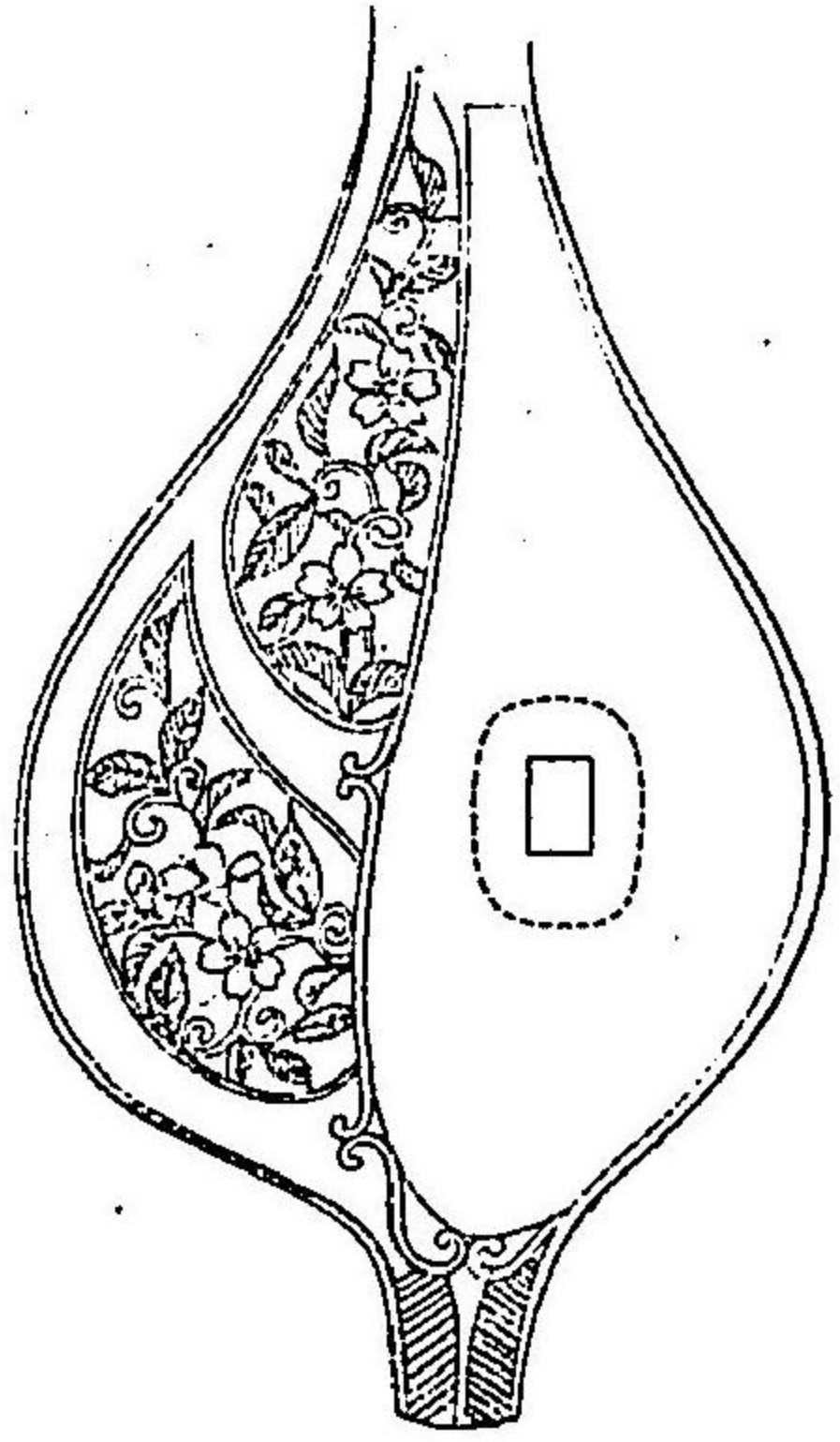
柄

典 獄
分監長



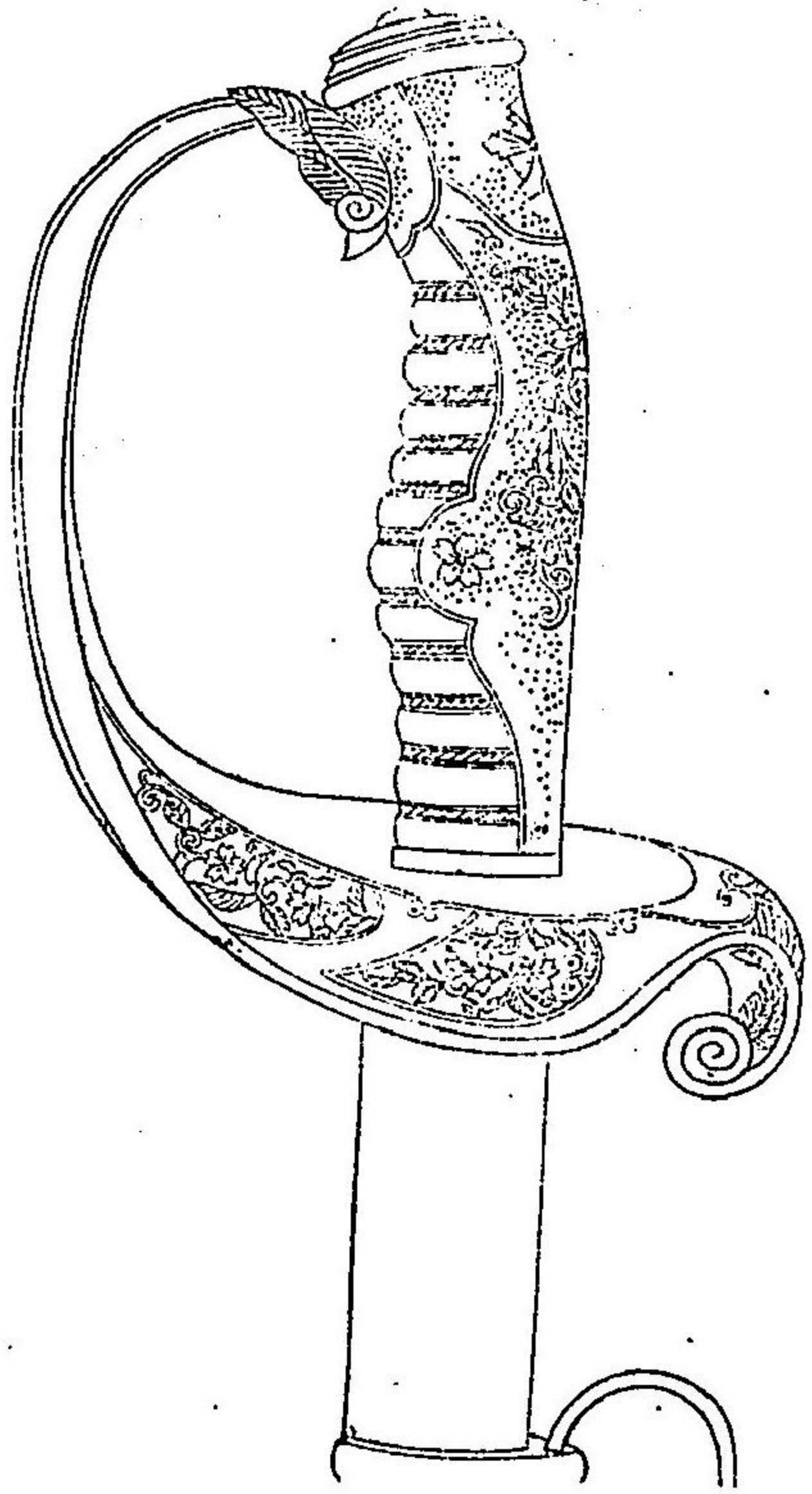
鈎

典 獄
分監長
看守長



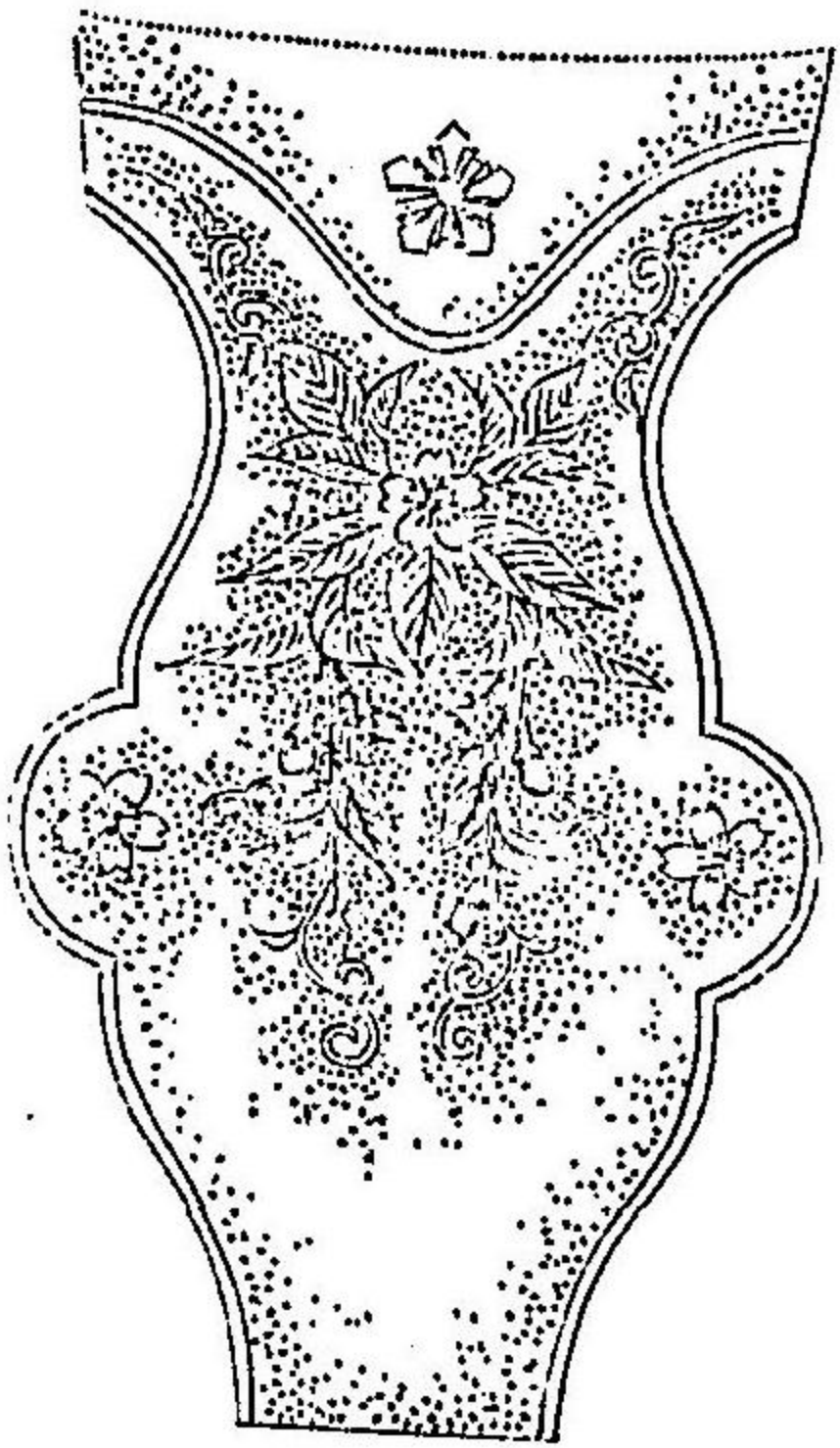
刀

看守長



柄

看守長



明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號

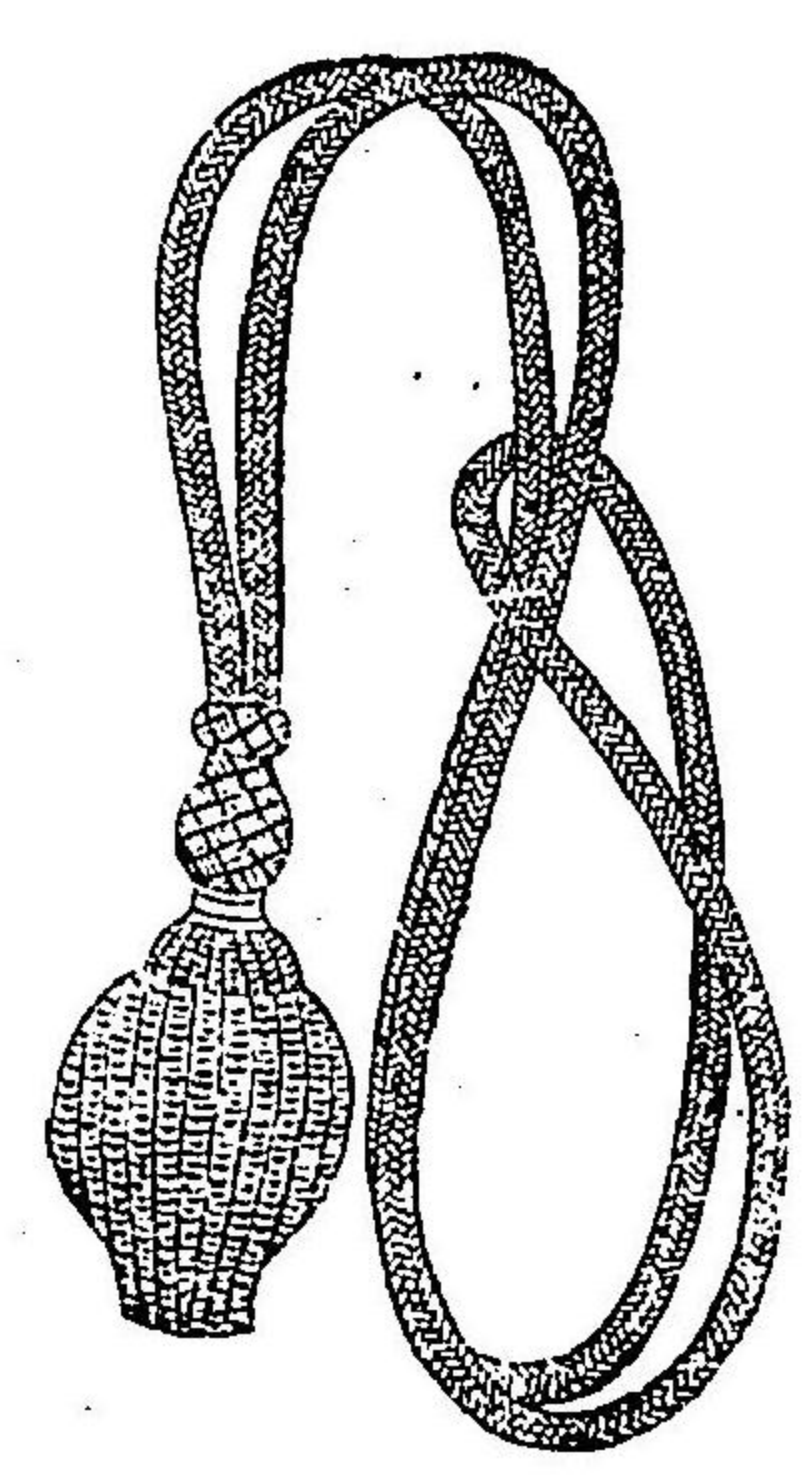
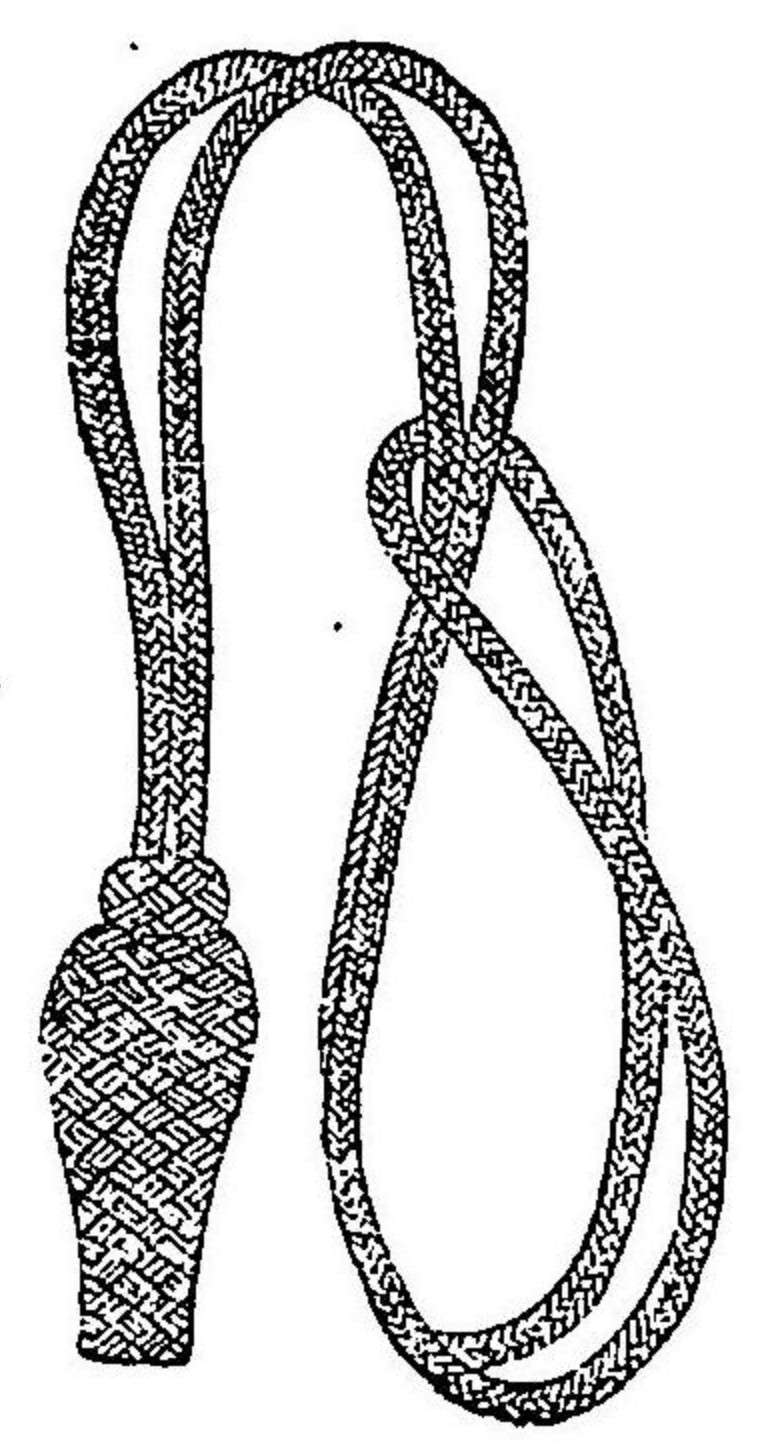
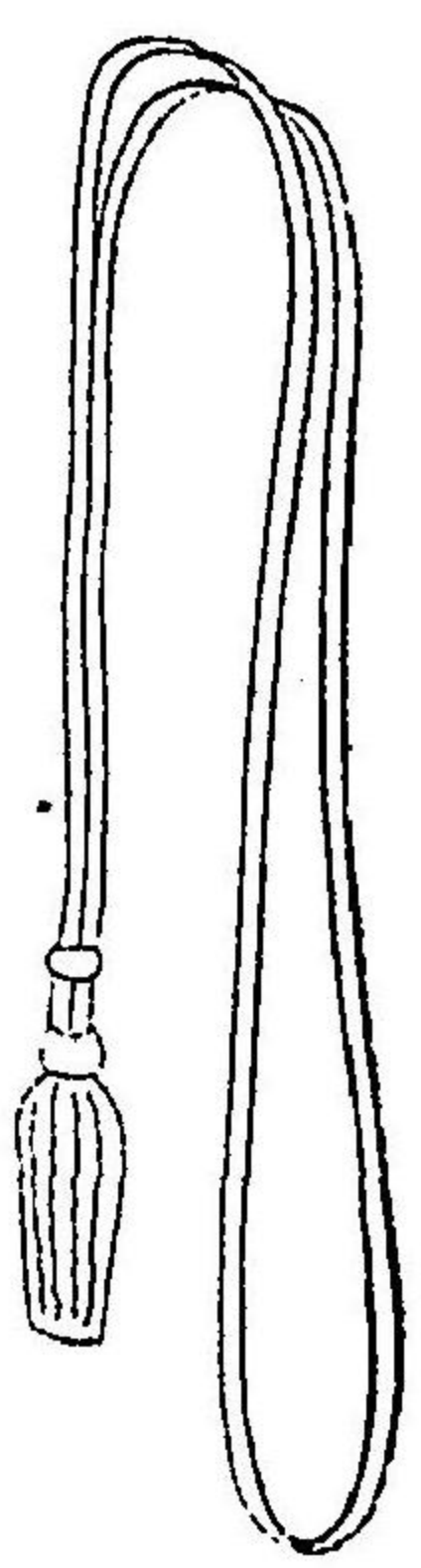
常 緒 正 緒 常 緒 正 緒

看守

看守長

典獄分監
看守長

典獄分監
看守長



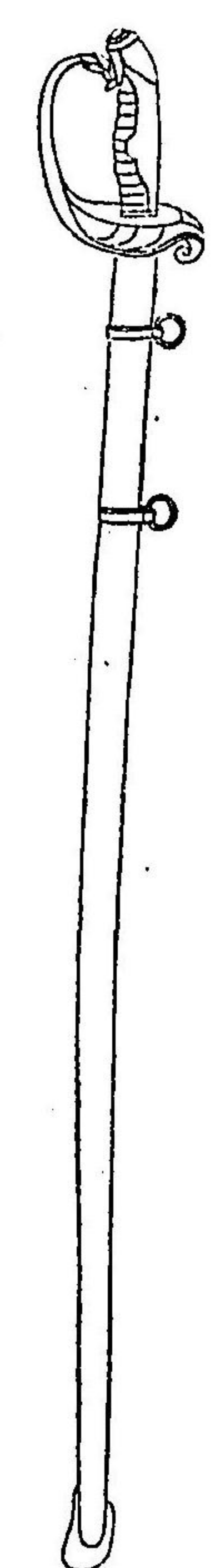
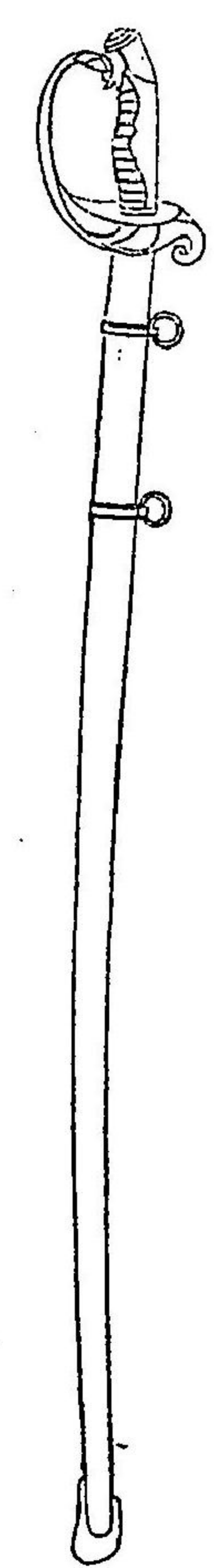
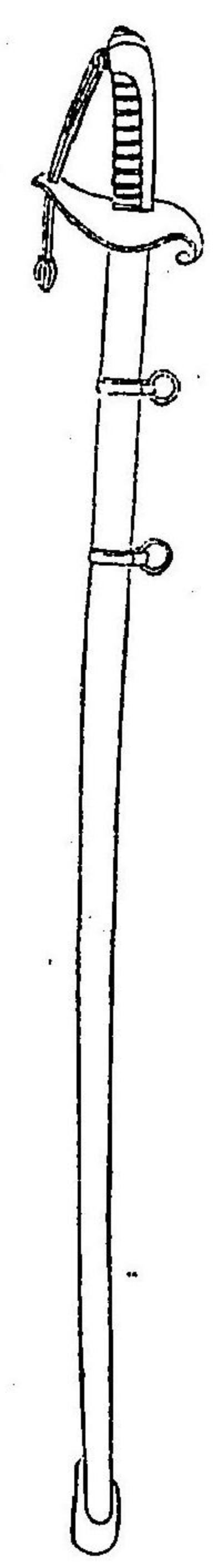
七四五

刀

看守

看守長

典獄分監
看守長

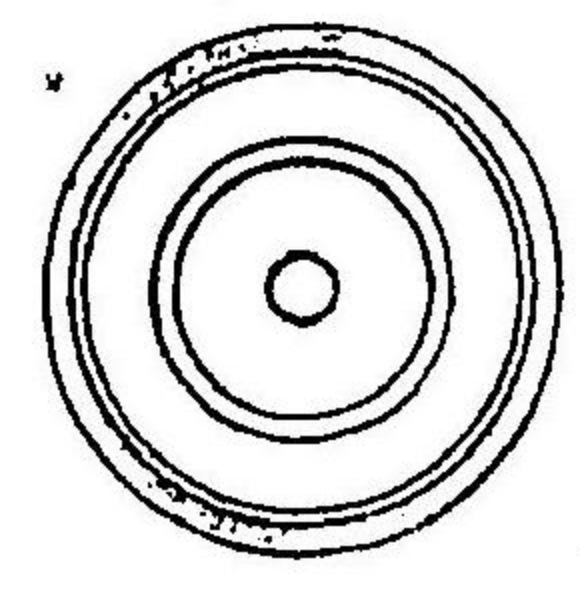


明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號

七四四

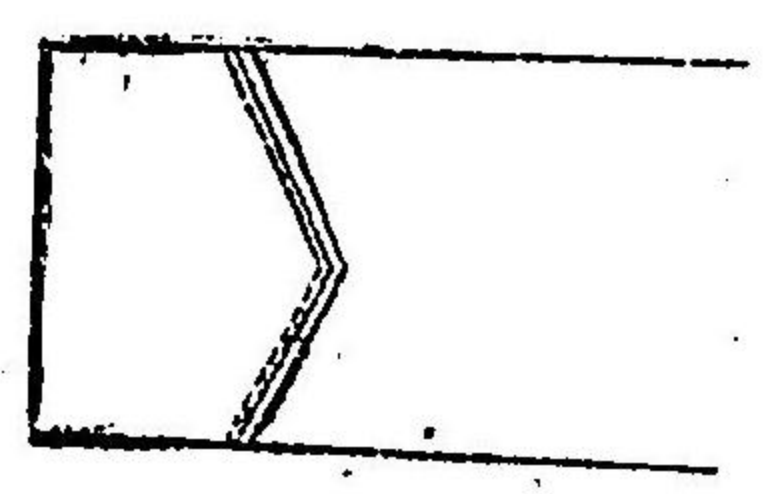
明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號

釦



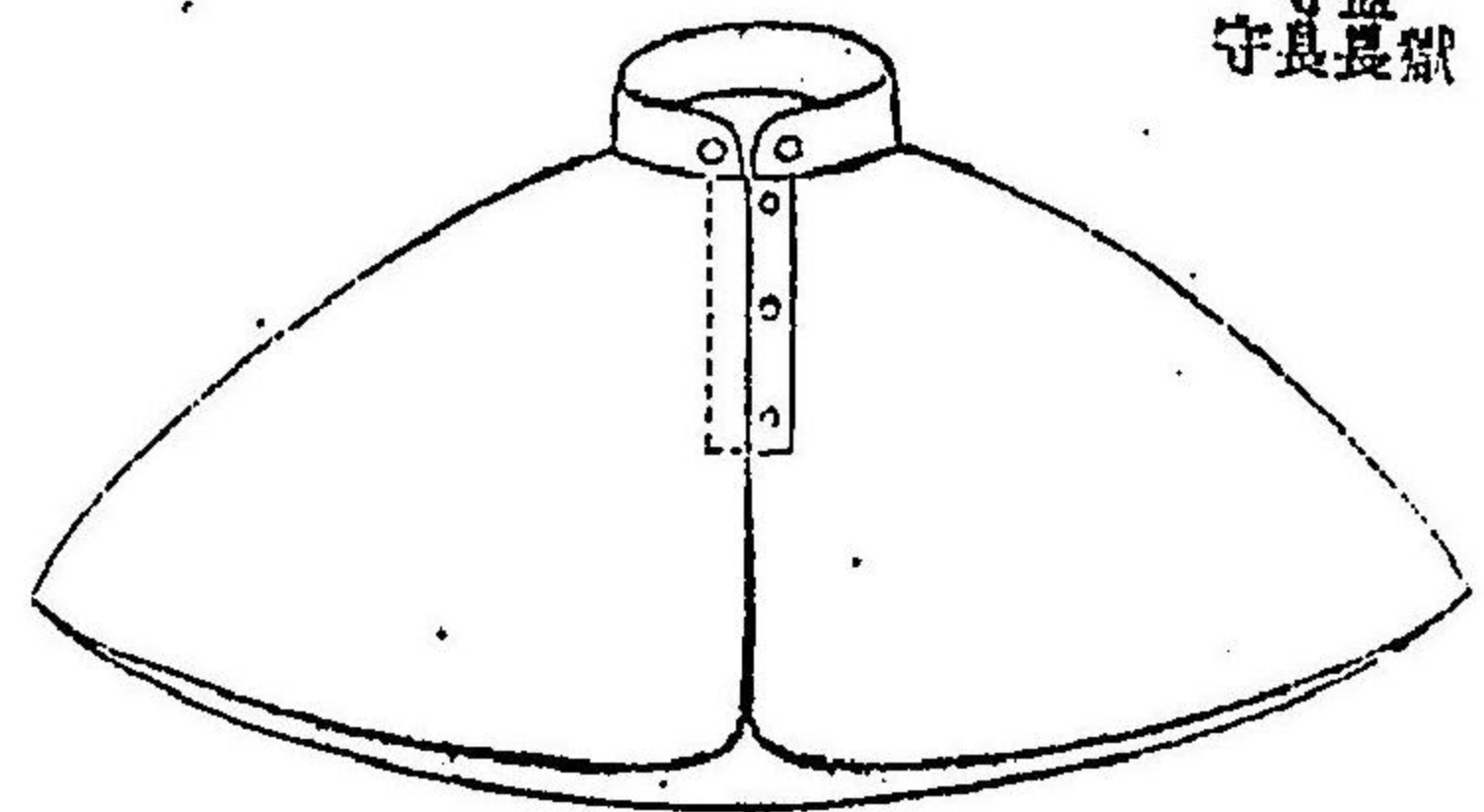
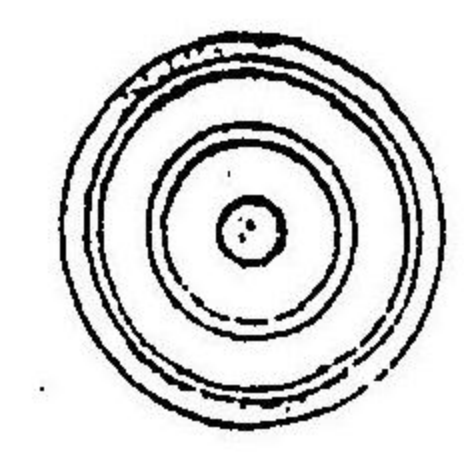
看守

軍袖套外



看守典
守監獄
長長獄

軍外襖乙



看守典
守監獄
守長長獄

七四九

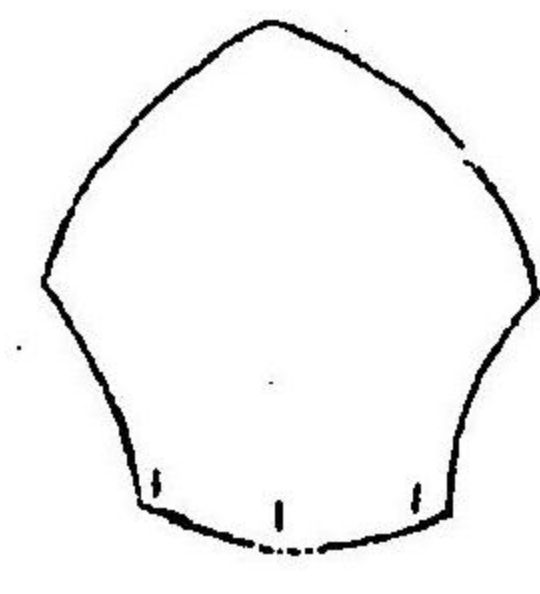
明治二十九年十一月 勅令 第三百六十六號

覆雨

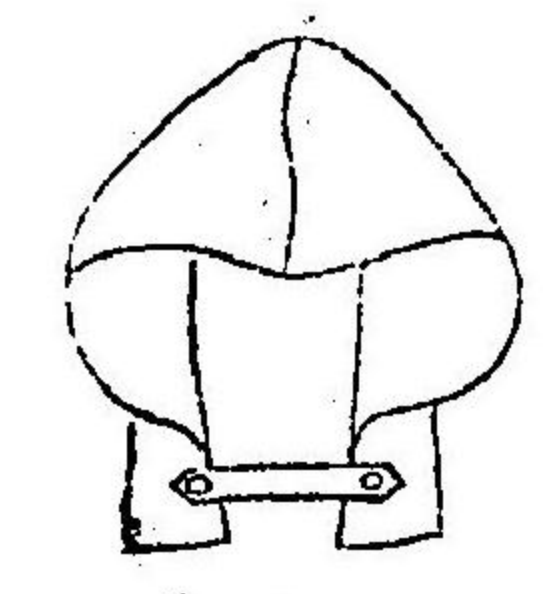
軍外襖甲

看守典
守監獄
守長長獄

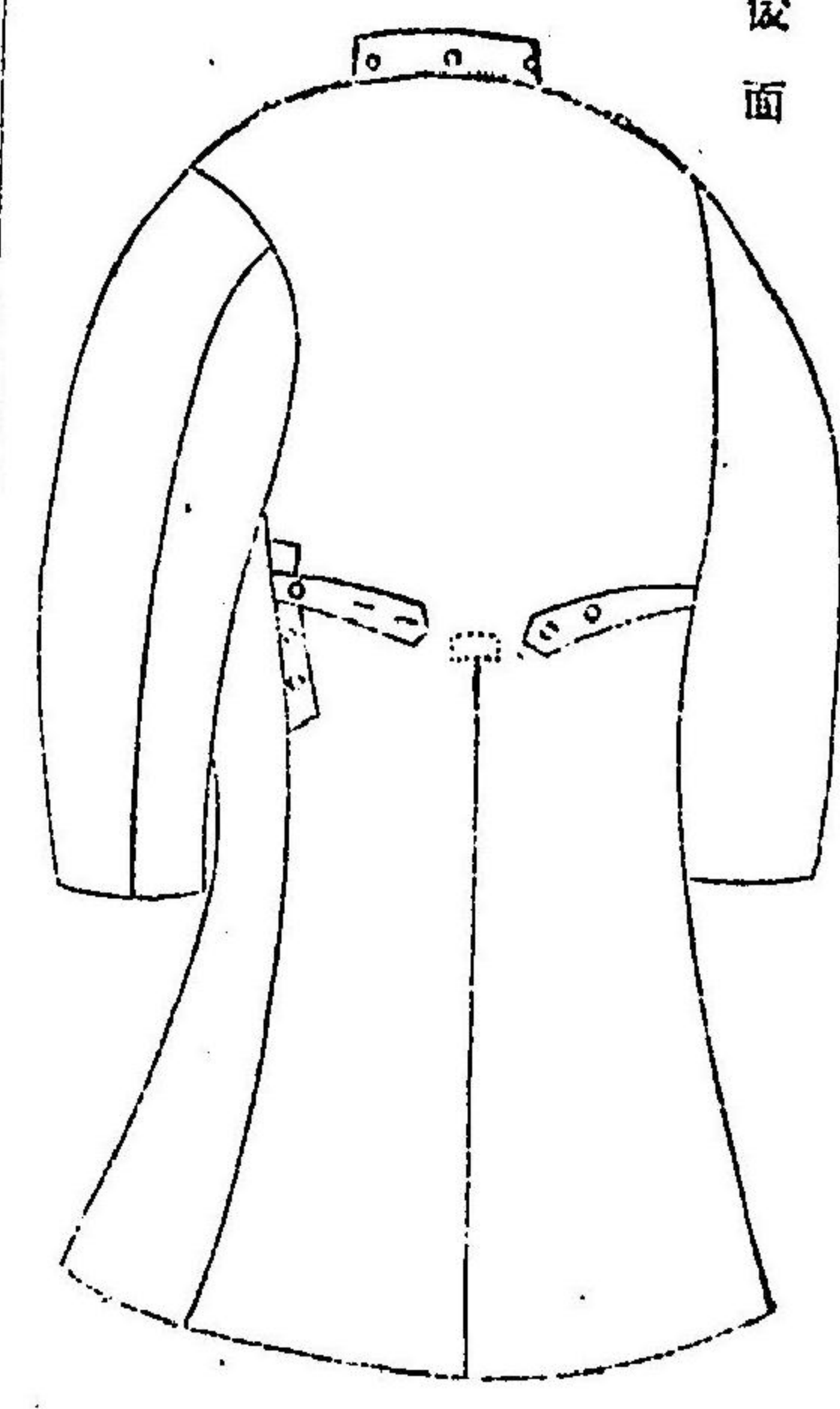
後面



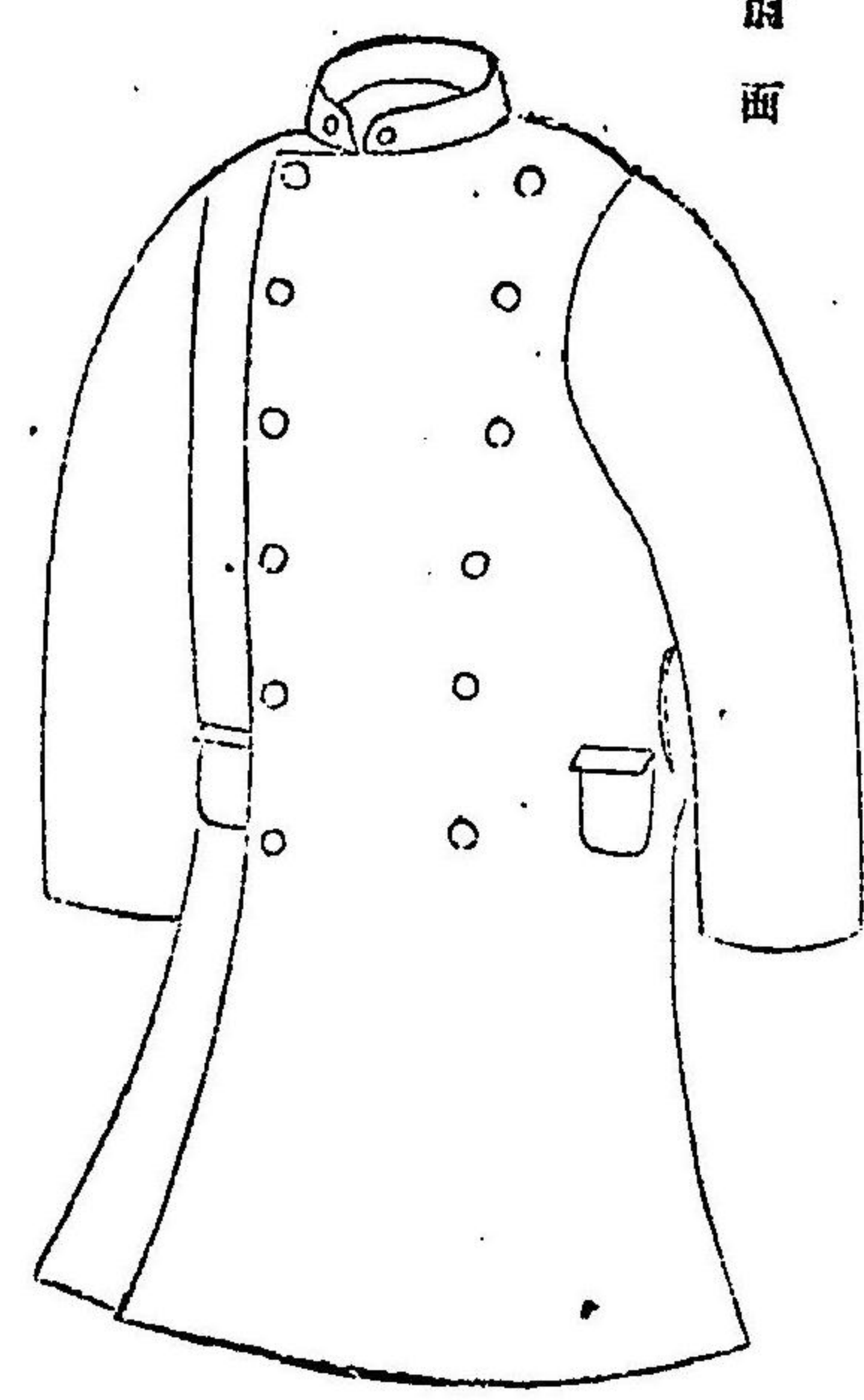
前面



後面



前面



七四八

朕看守給與品及貸與品規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十月八日

勅令第三百六十七號(官報十一月二十四日)

看守給與品及貸與品規則

第一條 看守ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 冬服
- 一 夏服
- 一 甲種外套 雨覆付
- 一 乙種外套 (肩掛)
- 但地方ノ狀況ニ依リ給與セサルコトヲ得
- 一 帽
- 一 日覆
- 一 長靴
- 一 短靴
- 一 下襟 白
- 一 手袋 白
- 一 靴下
- 一 襦袢袴下

拓殖務大臣子爵高島綱之助
内務大臣伯爵樺山資紀

第二條 看守ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 刀
- 一 常緒
- 一 刀帶
- 一 帽章
- 一 外套 締革
- 一 手帖
- 一 捕繩
- 一 呼子笛
- 一 提燈

第三條 給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ保存期限ハ左ノ通り之ヲ定ム但止ムヲ得サル事情アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ經テ本條ノ保存期限ヲ變更スルコトヲ得

- 一 冬服一組 二年
- 一 夏服二組 一年
- 一 甲種外套 雨覆共一箇 二年
- 一 乙種外套一箇(肩掛) 二年
- 一 帽一箇 二年
- 一 日覆一箇 一年
- 一 長靴一組 一年
- 一 短靴二組 一年
- 一 下襟一箇 一年

四箇月

- 一手套一組
 - 一靴下一組
 - 一襦袢袴下一組
 - 四箇月
 - 一箇月
 - 六箇月
- 第四條 下襟手套靴下ニ限リ代料渡ト爲スコトヲ得
- 第五條 夏服及短靴ハ同時ニ二組ヲ給與スルモ妨ナシ
- 第六條 免職、休職、轉職若クハ死亡等ノ者アルトキハ其ノ貸與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ保存期限内ニ在ル給與品モ亦同シ
- 第七條 貸與品又ハ保存期限内ノ給與品ヲ破毀、消費若クハ紛失シタル者アルトキハ職務上止ムヲ得サル事情アリト認ムルモノニ限リ代品ヲ給與又ハ貸與シ取扱ノ疎虞懈怠等ニ出テタルモノナルトキハ其ノ代料ヲ徴收シテ代品ヲ給與又ハ貸與スヘシ
- 第八條 給與品及貸與品ノ修補ハ總テ自辨トス
- 附則
- 第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十九年十一月五日

勅令第三百六十八號(官報十二月二十四日)

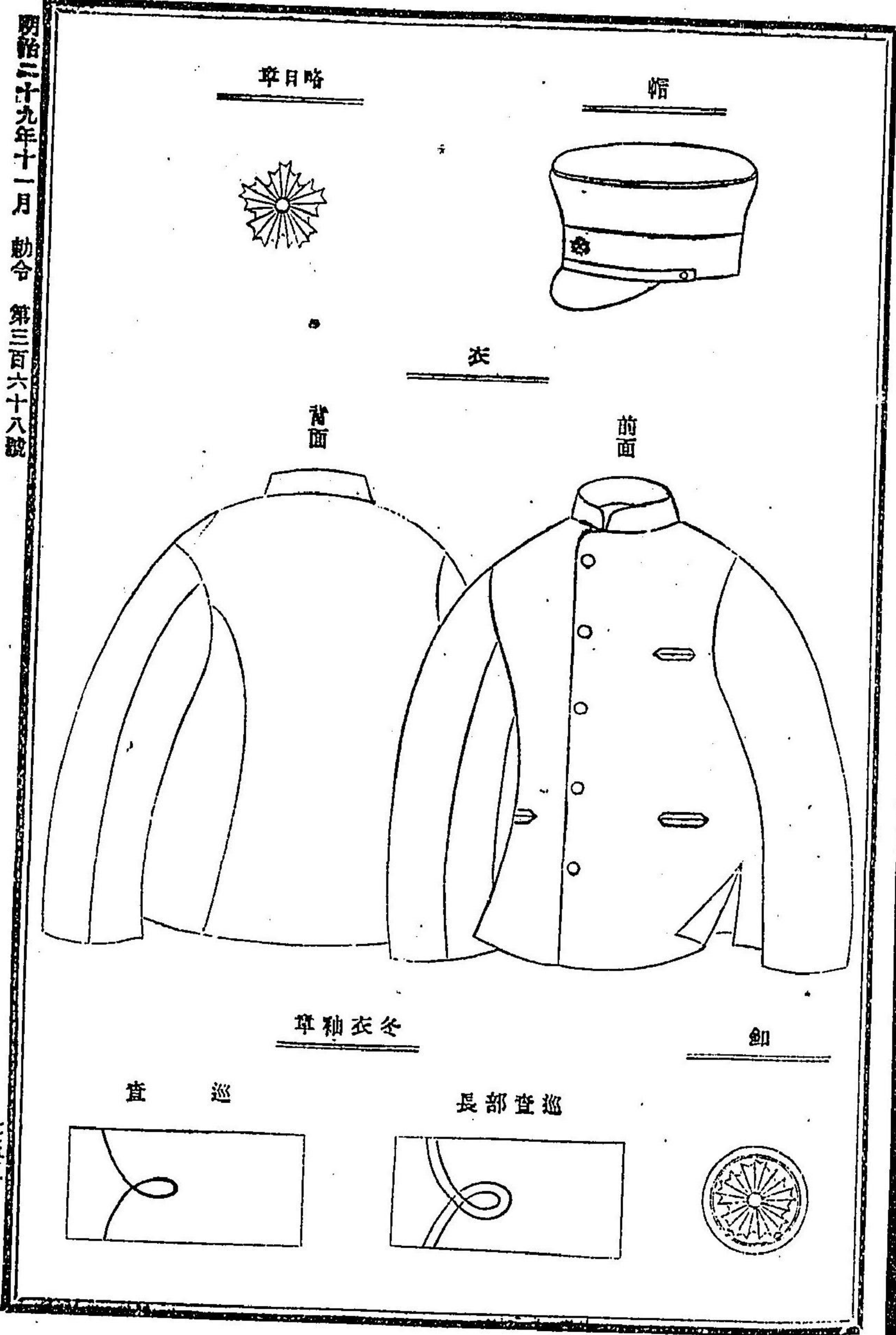
内務大臣伯爵樺山資紀

朕巡査服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ其ノ保存期限内之ヲ使用セシムルコトヲ得

巡査服制圖例

名稱	地	質	略	日	草	眼	庇	頤	紐	橫	章	製	式	形	狀
衣	冬衣紺絨 夏衣白小倉	絨 布	大サ中心ヨリ 尖頭ニ至ル五 分	真鍮	革	黒	黒	黒	白	大線幅一寸三 分一線幅一分	下部高サ一寸五 分頂端線ハ陰ミ出 シニ附ス	襟幅一寸二分 袖長サ腕節ニ 止ル 長サ腕骨上端ヨ リ下ルコト四寸 五分 兩脇下端ヲ裂ク コト四寸 左胸ノ表面ニ 各一箇ヲ附ス	如	圖	狀
袴	冬衣小線左右ヨリ 交又シ袖口ヨリ山 形ノ尖頭ニ至ル三 寸 夏衣小線左右ヨリ 交又シ袖口ヨリ山 形ノ尖頭ニ至ル三 寸	絨 布	大サ中心ヨリ 尖頭ニ至ル五 分	真鍮	革	黒	黒	黒	白	大線幅一寸三 分一線幅一分	下部高サ一寸五 分頂端線ハ陰ミ出 シニ附ス	襟幅一寸二分 袖長サ腕節ニ 止ル 長サ腕骨上端ヨ リ下ルコト四寸 五分 兩脇下端ヲ裂ク コト四寸 左胸ノ表面ニ 各一箇ヲ附ス	如	圖	狀
襦袢	丸打黄毛絲線 徑三分	質	真鍮略日草 徑五分	真鍮	革	黒	黒	黒	白	大線幅一寸三 分一線幅一分	下部高サ一寸五 分頂端線ハ陰ミ出 シニ附ス	襟幅一寸二分 袖長サ腕節ニ 止ル 長サ腕骨上端ヨ リ下ルコト四寸 五分 兩脇下端ヲ裂ク コト四寸 左胸ノ表面ニ 各一箇ヲ附ス	如	圖	狀
靴	長サ靴踵ノ上際ニ止ル 物入兩股各一箇ヲ附ス	質	如	真鍮	革	黒	黒	黒	白	大線幅一寸三 分一線幅一分	下部高サ一寸五 分頂端線ハ陰ミ出 シニ附ス	襟幅一寸二分 袖長サ腕節ニ 止ル 長サ腕骨上端ヨ リ下ルコト四寸 五分 兩脇下端ヲ裂ク コト四寸 左胸ノ表面ニ 各一箇ヲ附ス	如	圖	狀



明治二十九年十一月 勅令 第三百六十八號

七五五

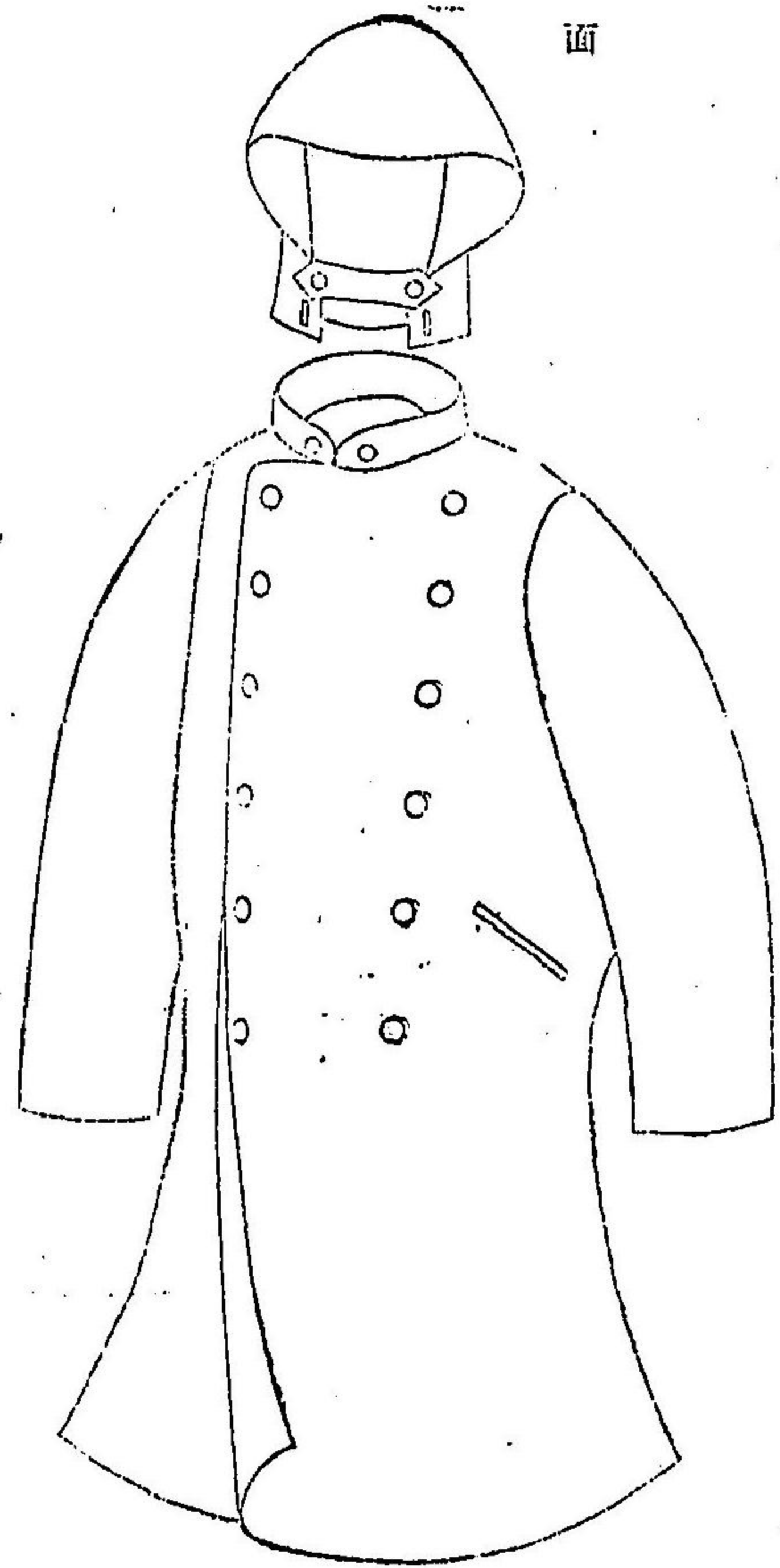
備考	名 稱	名 稱	名 稱	名 稱	名 稱	名 稱	名 稱
備 考	黒象皮	日本刀眞鍮	中身	白金	同	紺黒絨	紺黒絨
釦ハ内務大臣ノ認可ヲ經替棒ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得	眞鍮圓形徑一寸四分	黒革眞鍮線卷キ 背面ヲ覆フタル 金具ハ眞鍮 長サ六寸乃至 八寸	柄	上部ハ帽ノ形ニ從ヒ垂布ス 長サ肩ヲ覆フ 後面上部ヨリ一寸處以下ヲ裂ク	襟幅二寸 長サ大約前襟下ヨリ一 尺六寸背面一尺八寸二分	眞鍮圓形内ニ略日字ヲ附ス 徑七分五厘胸部十箇ヲ 黒角ス 眞鍮圓形内ニ略日字ヲ附ス 徑五分五厘襟部五箇後 製四箇背面二箇ヲ附ス 眞鍮星釦 巡査部長袖口ヨリ上二 寸ノ處ニ二箇ヲ附ス	長サ靴踵上際ヲ距ルコト 大約二寸 襟幅二寸 袖長サ腕關節ヨリ延ルコ ト五分 物入前面ノ左右各一箇ヲ 附ス
	製	製	製	製	製	製	製
	式	式	式	式	式	式	式
	形	形	形	形	形	形	形
	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀
	如	如	如	如	如	如	如
	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖

七五四

明治二十九年十一月 勅令 第三百六十八號

甲種外器

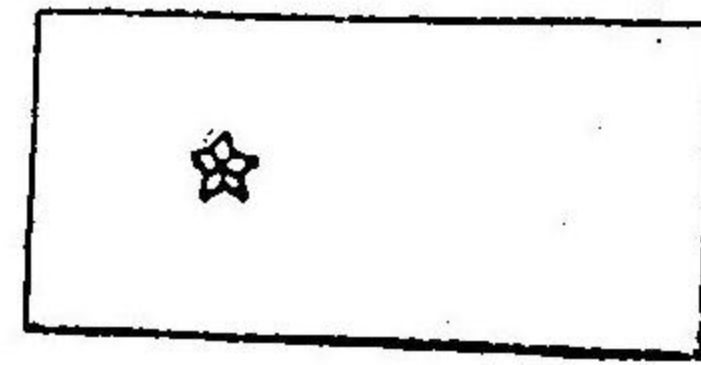
前面



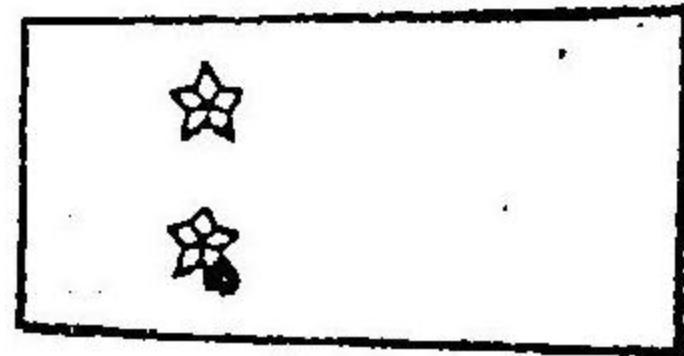
七五七

夏用衣履

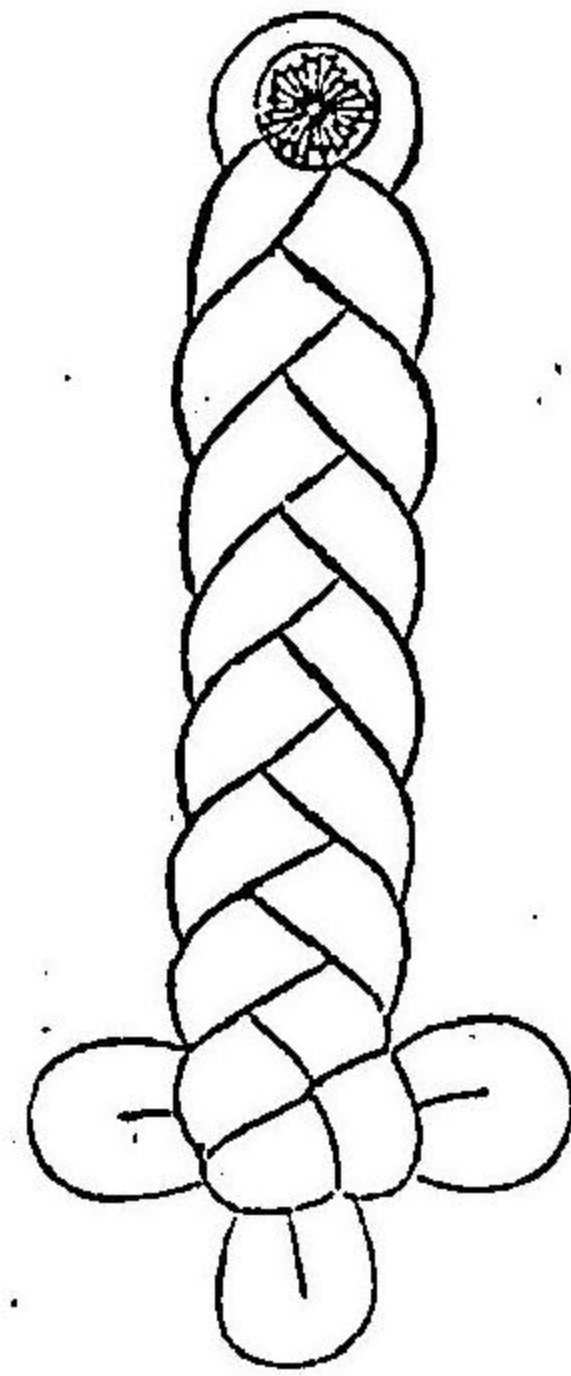
夏用



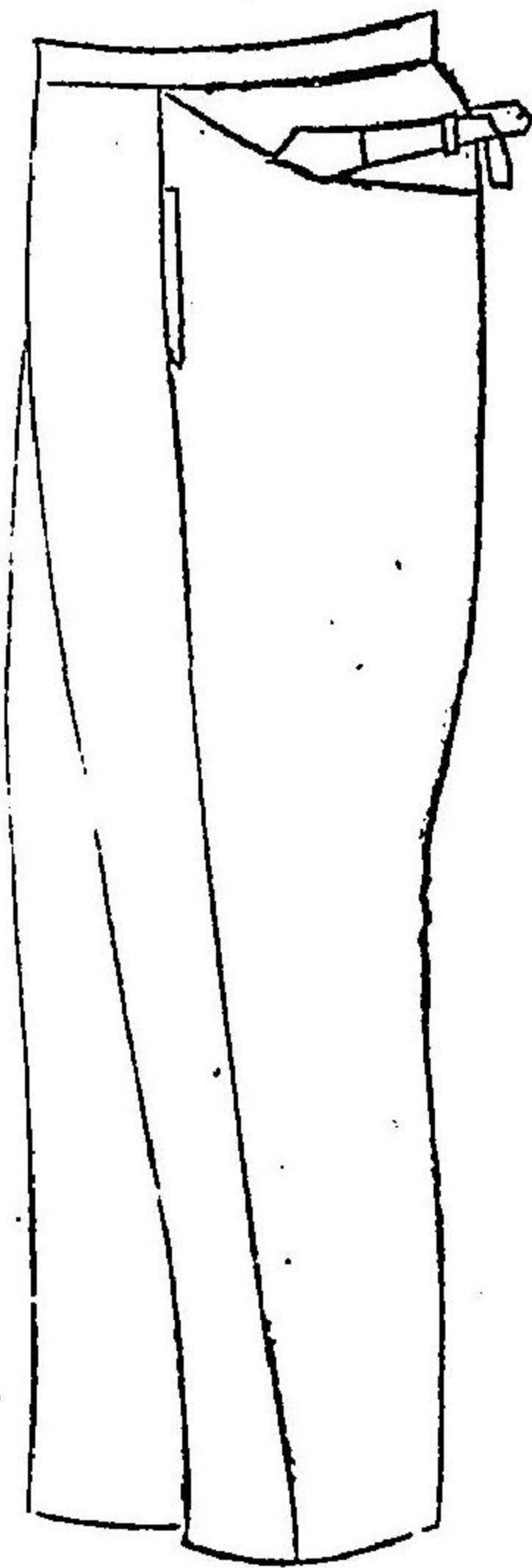
長部夏用



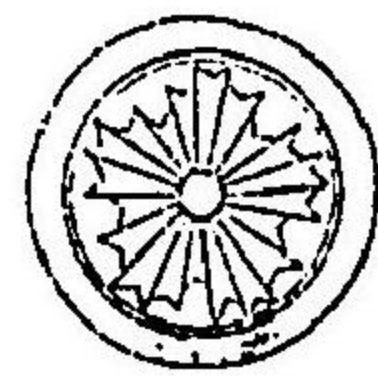
夏用



袴



鈕



明治二十九年十一月 勅令 第三百六十八號

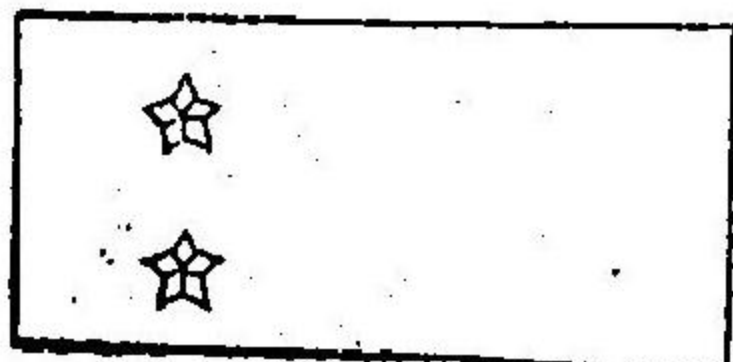
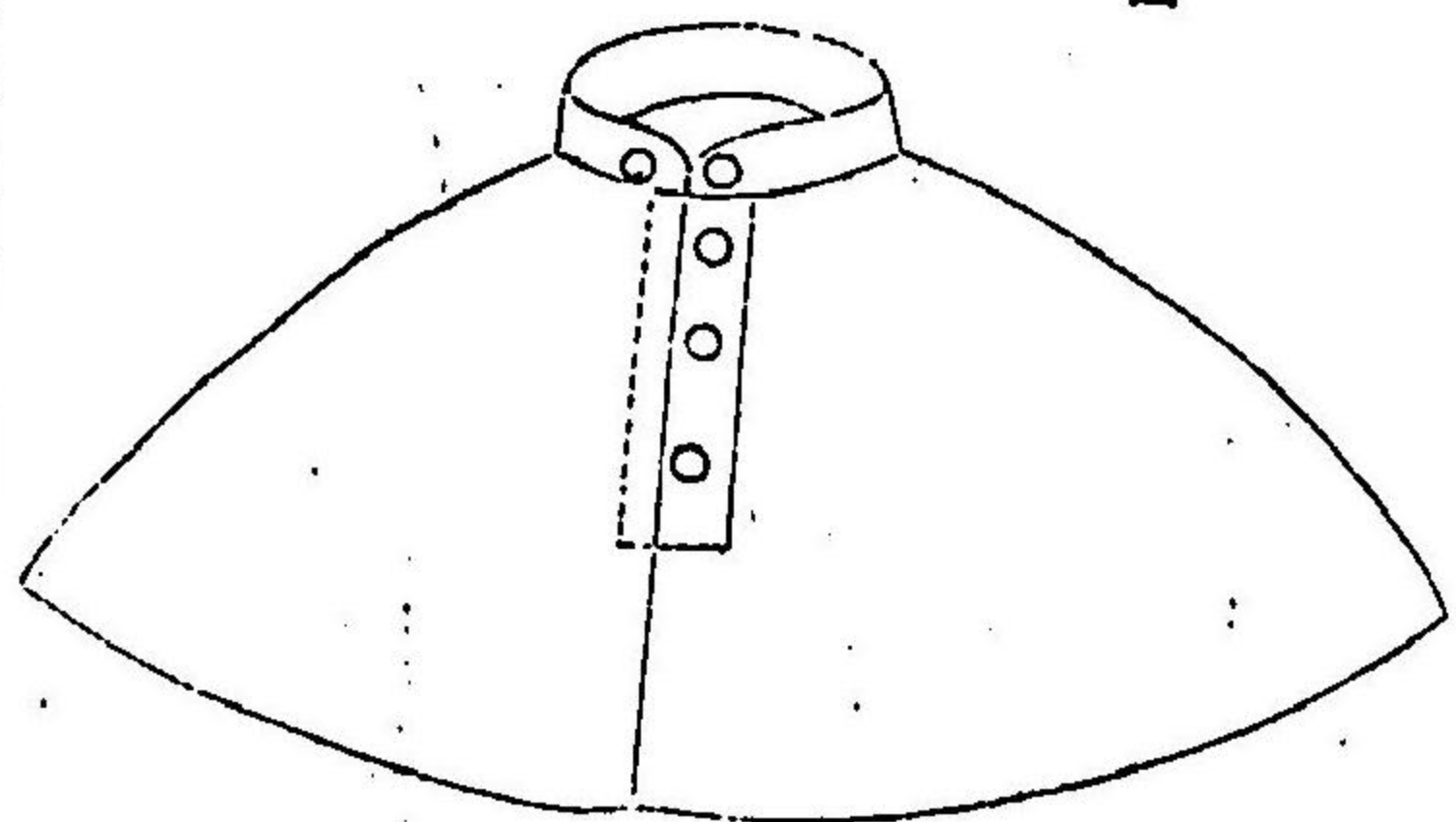
七五六

明治二十九年十一月勅令 第三百六十八號

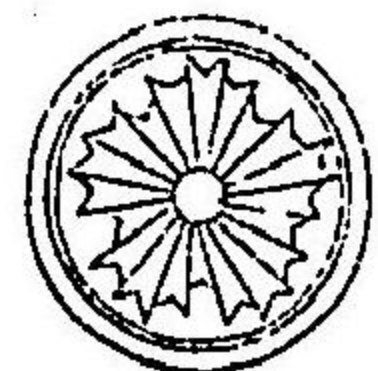
袷外種乙

章袖袷外

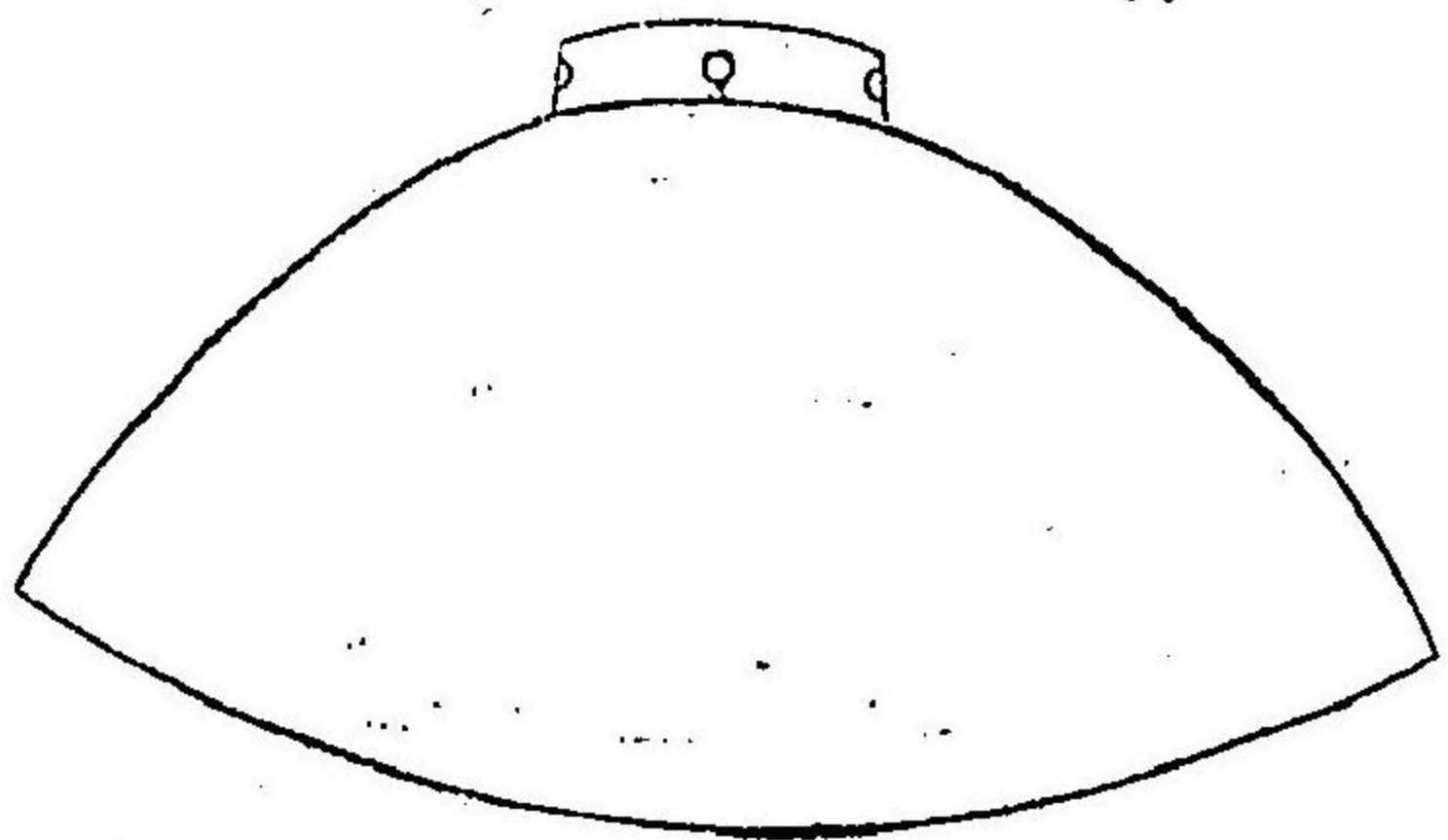
前面



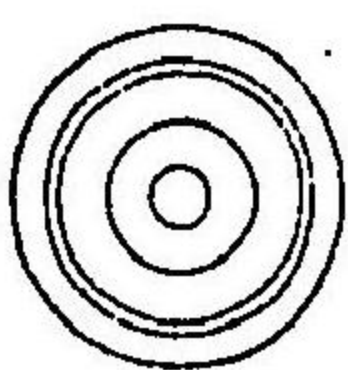
釦



背面



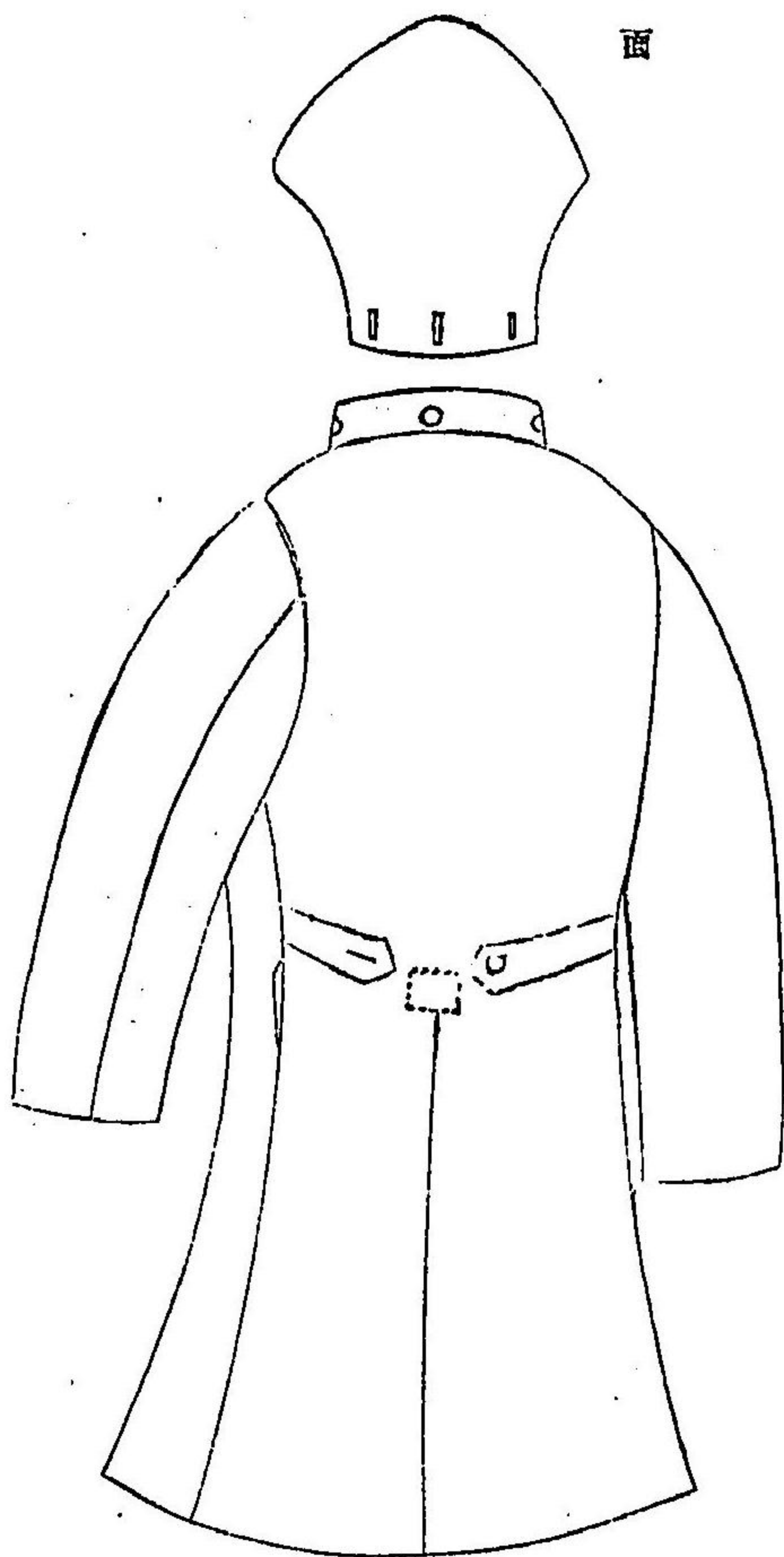
釦角



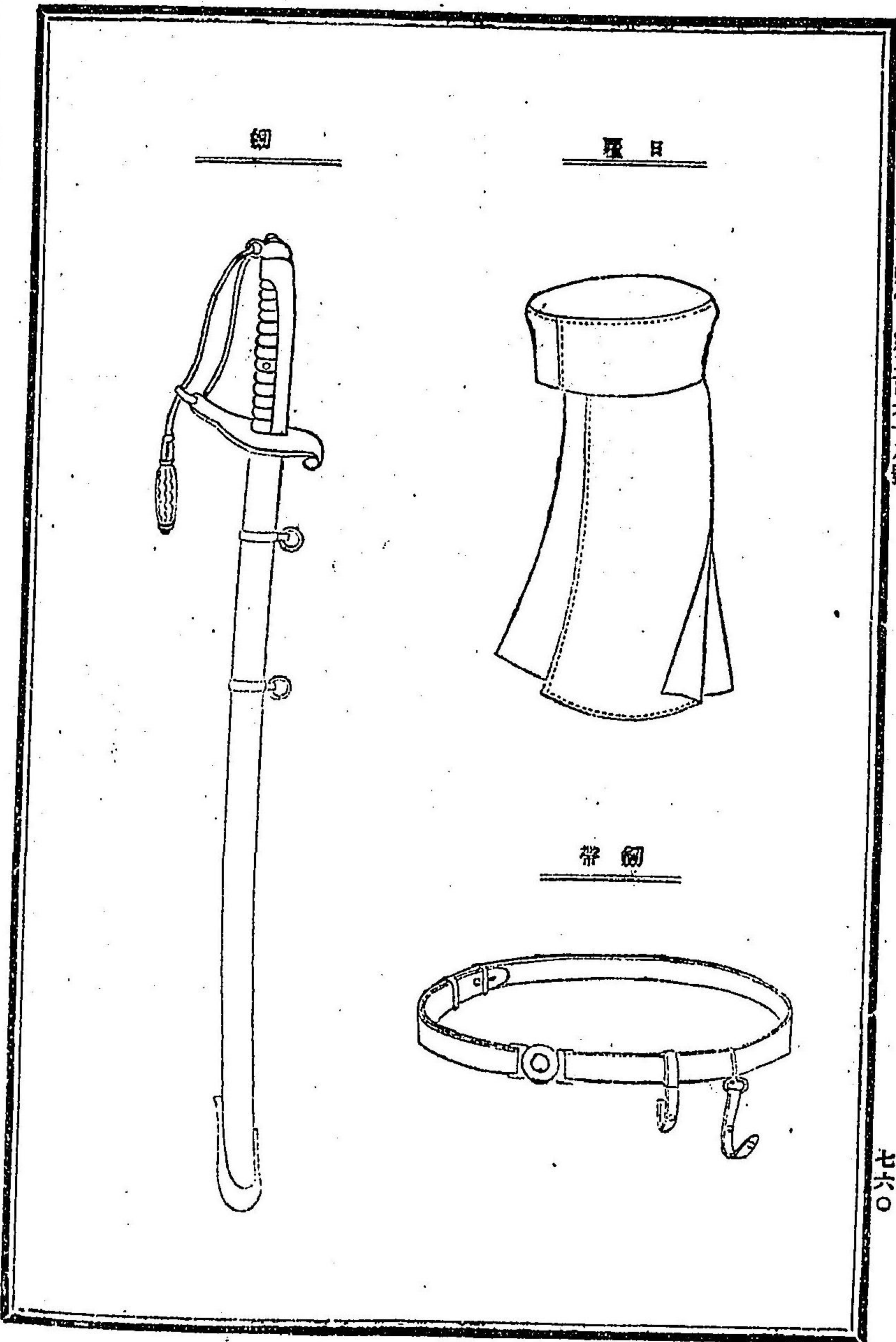
七五九

明治二十九年十一月勅令 第三百六十八號

背面



七五八



朕陸軍會葬式及表喪式中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十月二十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百六十九號(官報十一月二十四日)

陸軍會葬式及表喪式中左ノ通改正ス

第九條 歩兵聯隊長或騎兵聯隊長ノ送葬ニハ儀仗兵ハ軍旗ヲ樹ツ但シ部下ノ隊ニアラサルモノヲ

以テ儀仗兵ト爲ストキハ此ノ限リニアラス

(參照)

勅令第二百十號陸軍會葬式及表喪式(明治二十四年十一月十六日官報)抄錄

第九條 歩兵聯隊長タル大佐或ハ中佐ノ送葬ニハ儀仗兵ハ軍旗ヲ樹ツ

朕水産調査所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十一月二十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義
農商務大臣子爵榎本武揚

勅令第三百七十號(官報十一月二十八日)

水産調査所官制中左ノ通改正ス

第四條中「所務ヲ掌ル」ノ下ニ「專任」ノ二字ヲ加フ

明治二十九年十一月 勅令 第三百六十九號 第三百七十號

〔參照〕

勅令第二十四號水産調査所官制(明治二十八年三月三十日官報)抄録
第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケテ所務ヲ掌ル 技師ハ三人ヲ以テ定員トス

朕神宮司廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十一月二十八日

勅令第三百七十一號(官報十一月三十日)

神宮司廳官制

第一條 神宮司廳ニ左ノ職員ヲ置ク

- 祭主 一人
 - 宮司 一人
 - 權宮司 一人
 - 權禰宜 三人
 - 禰宜 七人
 - 主典 二十人
 - 宮掌 四十人
- 第二條 祭主ハ親任トシ皇族ヲ以テ之ニ任ス大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス但公爵ヲ以テ之ニ任スルコトアルヘシ
- 第三條 宮司ハ勅任又ハ奏任トス祭主ノ命ヲ承ケテ祭祀ニ奉仕シ諄辭ヲ奏讀シ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ所部ノ職員ヲ統督シ廳中ノ事務ヲ管理ス

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣伯爵樺山資紀

- 第四條 宮司ハ廳中ノ事務ヲ分掌スル爲メ課ヲ置キ及庶務ノ細則ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 權宮司ハ奏任トス宮司ヲ佐ケテ祭祀ニ奉仕シ廳中ノ事務ヲ整理ス
- 宮司事故アルトキハ權宮司其ノ事務ヲ代理ス
- 第六條 禰宜ハ奏任トス宮司又ハ權宮司ノ命ヲ承ケテ神前ニ祇候シ神膳ヲ供撤シ殿内一切ノ事ヲ辨シ臨時祈禱被除ヲ爲シ廳中ノ庶務ニ從事ス
- 第七條 權禰宜ハ奏任トス宮司又ハ權宮司ノ命ヲ承ケテ禰宜ヲ佐ク
- 第八條 主典ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ神饌ヲ調理シ大麻及曆ヲ製造シ其ノ他祭事及庶務ニ從事ス
- 第九條 宮掌ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケテ祭事及雜務ニ從事ス

御名 御璽

明治二十九年十一月二十八日

勅令第三百七十二號(官報十一月三十日)

神宮司廳職員官等俸給改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣伯爵樺山資紀

官名	相當官				俸
	親任	勅任	奏任	任	
祭主	二	三	四	五	三千圓
宮司	三	四	五	六	四千圓
權宮司	四	五	六	七	三千圓
權禰宜	五	六	七	八	三千圓
禰宜	六	七	八	九	二千圓
主典	七	八	九	一〇	百七十圓
宮掌	八	九	一〇	一一	百五十圓
神饌調理	九	一〇	一一	一二	百二十圓
神膳供撤	一〇	一一	一二	一三	百二十圓
神膳供撤	一一	一二	一三	一四	百二十圓
神膳供撤	一二	一三	一四	一五	百二十圓
神膳供撤	一三	一四	一五	一六	百二十圓
神膳供撤	一四	一五	一六	一七	百二十圓
神膳供撤	一五	一六	一七	一八	百二十圓
神膳供撤	一六	一七	一八	一九	百二十圓
神膳供撤	一七	一八	一九	二〇	百二十圓
神膳供撤	一八	一九	二〇	二一	百二十圓
神膳供撤	一九	二〇	二一	二二	百二十圓
神膳供撤	二〇	二一	二二	二三	百二十圓
神膳供撤	二一	二二	二三	二四	百二十圓
神膳供撤	二二	二三	二四	二五	百二十圓
神膳供撤	二三	二四	二五	二六	百二十圓
神膳供撤	二四	二五	二六	二七	百二十圓
神膳供撤	二五	二六	二七	二八	百二十圓
神膳供撤	二六	二七	二八	二九	百二十圓
神膳供撤	二七	二八	二九	三〇	百二十圓
神膳供撤	二八	二九	三〇	三一	百二十圓
神膳供撤	二九	三〇	三一	三二	百二十圓
神膳供撤	三〇	三一	三二	三三	百二十圓
神膳供撤	三一	三二	三三	三四	百二十圓
神膳供撤	三二	三三	三四	三五	百二十圓
神膳供撤	三三	三四	三五	三六	百二十圓
神膳供撤	三四	三五	三六	三七	百二十圓
神膳供撤	三五	三六	三七	三八	百二十圓
神膳供撤	三六	三七	三八	三九	百二十圓
神膳供撤	三七	三八	三九	四〇	百二十圓
神膳供撤	三八	三九	四〇	四一	百二十圓
神膳供撤	三九	四〇	四一	四二	百二十圓
神膳供撤	四〇	四一	四二	四三	百二十圓
神膳供撤	四一	四二	四三	四四	百二十圓
神膳供撤	四二	四三	四四	四五	百二十圓
神膳供撤	四三	四四	四五	四六	百二十圓
神膳供撤	四四	四五	四六	四七	百二十圓
神膳供撤	四五	四六	四七	四八	百二十圓
神膳供撤	四六	四七	四八	四九	百二十圓
神膳供撤	四七	四八	四九	五〇	百二十圓

勅令第三百七十五號(官報十二月二日)

臺灣總督府巡查及看守俸給令

第一條 臺灣總督府巡查及看守ノ月俸ハ左ノ如シ

- 一級 十圓
- 二級 九圓
- 三級 八圓

第二條 巡查及看守勤続滿五年以上ノ者ニハ月俸十二圓滿七年以上ノ者ニハ月俸十五圓ヲ給スルコトヲ得

第三條 巡查看守教習所ニ於テ職務教習中ノ者ニハ月俸八圓ヲ給ス

朕臺灣總督府巡查及看守手當支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十一月三十日

拓殖務大臣子爵高島綱之助

勅令第三百七十六號(官報十二月二日)

臺灣總督府巡查及看守手當支給規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

巡查看守教習所ニ於テ職務教習中ノ者ニハ手當ヲ支給セス

朕獸疫豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十一月三十日

大藏大臣伯爵松方正義
農商務大臣子爵榎本武揚
內務大臣伯爵樺山資紀

勅令第三百七十七號(官報十二月二日)

第一條 明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法第十六條ニ依リ獸疫豫防ニ關スル費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一 獸類撲殺及物品棄却手當

一 臨時獸醫備入手當及旅費

一 評價人手當及旅費

一 消毒用藥品費

第二 左ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

一 器具器械費

一 被服費

一 通信費及器具器械運搬費

一 家屋其ノ他借料

一 雜費

第三 左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

一 人夫備入費

第四 左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス

一 標示費

一 獸類ノ撲殺及其ノ屍體並物品ノ棄却ニ要スル費用
 一 檢疫獸類ノ緊留ニ要スル飼料其ノ他雜費
 第二條 獸疫豫防法第十五條ニ依リ設置スル檢疫所ノ費用及朝鮮釜山ニ於ケル牛疫豫防費ハ前條
 第四ニ掲グルモノヲ除クノ外總テ國庫ノ負擔トス
 第三條 北海道廳及沖繩縣ニ於テハ當分ノ内府縣及市町村ノ負擔ニ屬スル費用ハ國庫ノ負擔トス
 朕製鐵所ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ購入スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月一日

農商務大臣子爵榎本武揚

勅令第三百七十八號(官報十二月二日)
 製鐵所ニ於テ製鐵事業設備完了ニ至ル迄ニ必要トスル器具機械其ノ他物件ヲ外國ニ於テ購入スル
 トキ又ハ内國ニ於テ製鐵原料ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕陸軍補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月一日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第三百七十九號(官報十二月二日)
陸軍補充條例

第一章 總則

第二章 現役士官ノ補充

第一款 各兵科士官

第二款 監督部士官

第三款 衛生部士官

第四款 獸醫部士官

第五款 軍吏部士官

第三章 豫備役後備役將校並ニ同相當官ノ補充

第四章 現役下士ノ補充

第一款 憲兵科下士

第二款 步騎砲工輜重兵科下士

第三款 火工二等軍曹

第四款 砲兵監護並ニ同諸工下長

第五款 工兵監護

第六款 砲臺監守

第七款 蹄鐵工下長

第八款 縫工下長並ニ靴工下長

第九款 衛生部下士

第十款 軍吏部下士

第十一款 軍樂部下士

第五章 豫備役後備役下士ノ補充

第一款 各兵科下士

第二款 衛生部下士

第三款 軍吏部下士

第六章 現役上等兵ノ補充

- 第一款 憲兵科上等兵
- 第二款 歩騎砲工輜重兵科上等兵
- 第七章 現役看護手ノ補充
- 第八章 現役樂手補並ニ樂生ノ補充
- 第九章 特別補充
- 第十章 雜則

陸軍補充條例

附則

第一章 總則

- 第一條 本條例ハ陸軍將校同相當官下士上等兵看護手樂手補樂生ヲ補充スルノ方法ヲ規定ス
- 第二條 凡ソ將校同相當官並ニ下士ノ缺員ヲ補充スルハ本條例ニ依ルノ外陸軍武官進級令及陸軍豫備後備武官進級令ニ依ル
- 第三條 將校同相當官及下士ノ轉職ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第四條 本條例ニ於テ單ニ隊長ト稱スルハ聯隊長獨立隊長警備隊司令官ヲ謂フ又聯隊長ト稱スルトキハ警備隊司令官獨立隊長ヲ包含ス
- 本條例ニ於テ大隊長ト稱スルトキハ騎兵聯隊長警備隊司令官獨立隊長ヲ包含ス
- 第五條 本條例ニ於テ實役停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス
- 第二章 現役士官ノ補充
- 第一款 各兵科士官
- 第六條 步騎砲工輜重兵科現役士官ノ補充ハ士官候補生ニシテ少尉ノ資格ヲ備フル者ヲ以テス
- 憲兵科士官ハ他兵科ノ士官ヨリ轉科セシム

第七條

- 士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ
- 一 中央幼年學校生徒ニシテ卒業試験ニ及第シタル者
- 二 官立府縣立尋常中學校若クハ文部大臣ノ指定シタル尋常中學校ヲ卒業シ該校長ノ保證並ニ入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得タル者
- 三 本條第二ニ掲クル尋常中學校卒業者ト同等ノ學力ヲ有シ入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得召募試験ニ及第シタル者
- 下士兵卒一年志願兵ニアラサル者及陸軍諸生徒ニハ前項第二第三ヲ適用セス
- 第八條 士官候補生ニ採用スヘキ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム
- 第九條 士官候補生召募ノ方法ハ陸軍大臣、監軍ニ協議シテ之ヲ定ム
- 第十條 監軍ハ士官候補生ニ採用スヘキ者ヲ裁定シ之ニ士官候補生ヲ命シ各兵隊入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得タル者ハ其ニ配賦シ士官學校分遣前概ネ一箇年ノ者ハ概ネ六箇月該隊ニ在テ下士兵卒ノ勤務除ク及軍事學ヲ習得セシム
- 第十一條 一年志願兵ヨリ士官候補生ニ採用スル者ハ之ヲ命スルノ日直ニ退營セシム
- 第十二條 中央幼年學校出身ノ士官候補生ヲ各兵隊ニ配賦スルニハ左ノ四項ヲ願慮スヘシ
 - 一 本人ノ冀望
 - 二 軍隊ノ必要
 - 三 學術優等者ノ平均
 - 四 砲兵隊、工兵隊、鐵道隊ニハ數學優等者
- 第十三條 士官候補生入隊ノ上ハ隊長ハ某中隊ヲ選ヒ之ニ編入シ該中隊長ヲシテ訓育ヲ掌リ諸勤務ノ訓練ニ任セシム
- 第十四條 士官候補生軍事學ノ教授ハ隊長、部下大尉若クハ中尉ヲシテ之ニ任セシム
- 第十五條 隊長ハ士官候補生ノ教育ニ就キ總テ其ノ責ニ任ス

第十六條 士官候補生中中央幼年學校出身ノ者ハ入隊ノ後直ニ上等兵ノ階級ヲ與ヘ二箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ進メ六箇月ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ進メ其ノ他ノ者ハ入隊ノ後直ニ一等卒ノ階級ヲ與ヘ六箇月ノ後ハ上等兵ノ階級ニ進メ八箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ進ムルハ階級ヲ進ムルハ隊長ニ於テスヘシ

第十七條 士官候補生諸勤務ノ訓練ヲ終レハ之ニ任シタル中隊長ハ士官候補生諸勤務ヲ習得シタル保證書又軍事學ノ教授ニ任シタル士官ハ其ノ教授成績ノ報告書ヲ隊長ニ進達シ隊長ハ之ヲ審閱シ更ニ教育ノ完全ナルコトヲ確認シ師團長^{歩兵ハ旅團ニ上申ス師團長ハ各兵科士官候補生ノ連名簿ヲ製シ之ニ隊長ヨリ出ス所ノ書類ヲ添ヘ監軍ニ進達スヘシ}

第十八條 監軍ハ前條ノ書類ニ依リ士官候補生ノ士官學校ニ入校セシムヘキ者ヲ定メ師團長ヲ經テ之ヲ命ス

第十九條 士官候補生士官學校ノ修學ヲ終リ卒業試験ニ及第シタル者ハ原隊ニ復歸セシメ隊長之ヲ曹長ノ階級ニ進メ中隊ニ於テ六箇月以上士官ノ勤務ヲ習得セシム之ヲ見習士官ト謂フ

第二十條 見習士官ノ教育ハ隊長自ラ其ノ責ニ任シ特ニ諸種ノ演習等精密且著實ニ實施セシメ以テ其ノ學力ヲ實際ニ應用進歩セシムルコトヲ努ムヘシ

第二十一條 見習士官ヲ將校ニ選舉スルニハ隊長先ツ中隊長ヨリ本人ノ教育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尙ホ隊長自ラ是認シタル後始メテ該隊ノ將校會議ニ附ス

第二十二條 將校會議ハ見習士官ヲ將校ト爲スノ可否ヲ議決スルモノトス

各將校ハ可否ノ答ヲ自ラ選舉報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ但シ見習士官所屬ノ中隊長ニシテ保證書ヲ差出シタル者ハ選舉報告ヲ爲スノ限ニアラス

第二十三條 將校會議ニ於テ將校ノ答皆可ナル者ニ就テハ隊長其ノ選舉報告書ヲ一表ト爲シテ選舉報告表ヲ作り之ニ順序ヲ定メタル連名簿ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フルコトヲ師團長^{歩兵ハ旅團長ヲ經テ}

ニ上申ス師團長ハ之ヲ監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

若シ可答多數ナルモ幾分ノ否答アル者ニ就テハ其ノ理由ヲ選舉報告表ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

第二十四條 士官候補生諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サル者又ハ士官學校分遣中卒業ノ前途ナク若クハ卒業試験ニ落第シ退校歸隊セシ者ニシテ尙ホ望ミアル者ハ一回限リ次ノ入校期マテ所屬隊ニ止マラシムルコトヲ得但シ隊長ハ其ノ事由ヲ悉シ師團長^{歩兵ハ旅團長ヲ經テ}ニ上申シ其ノ認可ヲ請クヘシ師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ上申ス監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第二十五條 前條ニ該ル者ノ士官學校入校手續ハ本條例第十七條及第十八條ニ依ル

第二十六條 士官候補生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アルトキハ隊長其ノ事由ヲ悉シテ師團長^{歩兵ハ旅團長ヲ經テ}ニ上申シ師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ進達シ監軍之ヲ裁定處分ス

- 一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ前途ナキ者
- 二 學力乏シクシテ士官候補生タルニ適セサル者
- 三 將校タルノ才能ニ乏シキ者
- 四 士官候補生タルヲ得ヘカラスト認メラレタル者
- 五 諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サル者^{本條例第二十四條ニ該ル者}又ハ疾病若クハ傷痕ニ依リ一時服役ニ堪ヘサル者
- 六 士官學校條例ノ規程ニ依リ退校歸隊シテ後來望ミナキ者
- 七 將校會議ニ於テ否決シタル者
- 八 疾病若クハ傷痕ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久兵役ニ堪ヘサル者

第二十七條 前條ノ第一乃至第七ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免シ其ノ階級ニ應シ本官ニ任シ又ハ兵卒ト爲シ豫備役ニ編入シ第八ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免ス

第二款 監督部士官

第二十八條 監督部現役士官ノ補充ハ現役各兵科大中尉又ハ一二等軍吏ニシテ經理學校卒業證書ヲ所持スル者ヲ以テス

第二十九條 前條ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ所要ニ應シ終末試験成績ノ列序ニ從ヒ陸軍監督部ニ任ス

卒業證書ヲ所持スル者ハ監督補ニ任セララルル迄願ニ依リ本職ノ儘在職地所管監督部ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ得但シ其ノ旅費ハ自辨トス

第三款 衛生部士官

第三十條 衛生部現役士官ノ補充ハ見習醫官、見習藥劑官ニシテ三等軍醫又ハ三等藥劑官ノ資格ヲ備フル者ヲ以テス

第三十一條 見習醫官、見習藥劑官ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

- 一 帝國大學醫科大學學生ニシテ陸軍出身志願者中適當ノ者ヲ選抜シテ醫科大學依託學生ト爲シ同學ノ課程ヲ卒ヘタル者
- 二 一年志願兵中軍醫生若クハ藥劑生ニシテ醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官志願ノ者
- 三 軍醫學校生徒ニシテ卒業試験ニ及第シタル者

第三十二條 見習醫官、見習藥劑官ハ陸軍省醫務局長之ヲ命シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦シ該隊並ニ衛戍病院ニ於テ四箇月以上衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシム但シ配賦ノ隊ハ醫務局長ヨリ師團長ニ通知スヘシ

第三十三條 見習醫官、見習藥劑官ノ身分ハ曹長ノ階級トス

第三十四條 見習醫官ノ教育ハ步兵隊ノ高級醫官、見習藥劑官ノ教育ハ衛戍病院長其ノ責ニ任シ當該師團軍醫部長之ヲ監督ス但シ隊中ノ勤務ニ就テハ尙ホ隊長之ヲ監督ス

第三十五條 見習醫官、見習藥劑官士官ノ勤務ヲ習得シ終レハ師團軍醫部長先ツ該隊高級醫官若クハ衛戍病院長ヨリ木人ノ學術及勤務等衛生部士官タルヲ得ヘキ保證書又隊長ヨリ勤務品行等ニ關スル證明書ヲ得尙ホ軍醫部長自ラ是認シタル後衛生部士官選舉會議ニ附ス

第三十六條 衛生部士官選舉會議ハ師團軍醫部ニ之ヲ開キ議長ハ軍醫部長議員ハ所在地一等軍醫、一等藥劑官以上ノ者トス其ノ可否ノ意見ハ選舉報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ但シ前條ノ保證書ヲ差出シタル者ハ選舉報告ヲ爲スノ限ニアラス

第三十七條 選舉會議ニ於テ議員ノ答答可ナル者ニ就テハ軍醫部長其ノ選舉報告書ヲ一表ト爲シテ選舉報告表ヲ作り之ニ順序ヲ定メタル連名簿ヲ添ヘ三等軍醫又ハ三等藥劑官ノ資格ヲ備フルコトヲ陸軍省醫務局長ニ上申ス醫務局長ハ之ヲ審査シ陸軍大臣ニ上申ス

若シ可答多數ナルモ幾分ノ否答アル者ニ就テハ其ノ理由ヲ選舉報告表ニ記入シテ上申スルコトノ前項ニ同シ

之ニ反シ否答多數ナル者ニ就テハ選舉報告表ヲ添ヘ否決ノ理由ヲ上申ス但シ其ノ手續ハ本條例第三十八條ニ依ル

第三十八條 見習醫官、見習藥劑官ニシテ左ニ掲グル事項ノ一ニ該ル者アルトキハ見習醫官ハ

隊附高級醫官、見習藥劑官ハ衛戍病院長ヨリ其ノ事由ヲ悉シ師團軍醫部長ハ隊附高級醫官ニ上申シ軍醫部長ハ陸軍省醫務局長ニ醫務局長ハ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定處分ス

- 一 軍紀ヲ紊リ又ハ廢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
- 二 學力乏シクシテ見習醫官、見習藥劑官ニ適セサル者
- 三 士官タルノ才能ニ乏シキ者
- 四 見習醫官、見習藥劑官タルヲ得ヘカラスト認メラレタル者

五 疾病若クハ傷痕ニ依リ一時服役ニ堪ヘサル者
 六 士官選舉會議ニ於テ否決シタル者
 七 疾病若クハ傷痕ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久兵役ニ堪ヘサル者
 第三十九條 前條第一乃至第六ニ該ル者ハ見習醫官又ハ見習藥劑官ヲ免シ一等看護長又ハ一等調劑手ニ任シ豫備役ニ編入シ第七ニ該ル者ハ見習醫官又ハ見習藥劑官ヲ免ス
 第四款 獸醫部士官
 第四十條 獸醫部現役士官ノ補充ハ見習獸醫官ニシテ三等獸醫ノ資格ヲ備フル者ヲ以テス
 第四十一條 見習獸醫官ニ採用シ得ヘキ者ハ陸軍獸醫學校生徒ニシテ卒業試験ニ及第シタル者トス
 第四十二條 見習獸醫官ハ陸軍省軍務局長之ヲ命シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ各師團ノ騎兵、野戰砲兵、輜重兵隊ニ配賦シ二箇月以上獸醫部士官ノ勤務ヲ習得セシム但シ配賦ノ隊ハ軍務局長ヨリ師團長ニ通知スヘシ
 第四十三條 見習獸醫官ノ身分ハ曹長ノ階級トス
 第四十四條 見習獸醫官ノ教育ハ該隊高級獸醫其ノ責ニ任シ師團獸醫部長之ヲ監督ス但隊中ノ勤務ニ就テハ尙本隊長之ヲ監督ス
 第四十五條 見習獸醫官士官ノ勤務ヲ習得シ終レハ隊長ハ高級獸醫ヨリ本人ノ學術、勤務、品行等之ヲ審査シ三等獸醫ノ資格ヲ備フル者ト否ヲ分チ意見書ヲ添ヘ其ノ書類ヲ陸軍省軍務局長ニ進達ス軍務局長ハ該書類ヲ審査シ意見書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ上申スヘシ
 第四十六條 見習獸醫官ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アルトキハ隊附高級獸醫其ノ事由ヲ悉シ隊長ヲ經テ師團獸醫部長ニ上申シ獸醫部長ハ陸軍省軍務局長ニ軍務局長ハ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定處分ス
 一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

二 學力乏シクシテ見習獸醫官ニ適セサル者
 三 士官タルノ才能ニ乏シキ者
 四 見習獸醫官タルヲ得ヘカラスト認メラレタル者
 五 疾病若クハ傷痕ニ依リ一時服役ニ堪ヘサル者
 六 三等獸醫ト爲ルヘキ資格ナシト認メラレタル者
 七 疾病若クハ傷痕ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久兵役ニ堪ヘサル者
 第四十七條 前條第一乃至第六ニ該ル者ハ見習獸醫官ヲ免シ蹄鐵工長ニ任シ豫備役ニ編入シ第七ニ該ル者ハ見習獸醫官ヲ免ス
 第五款 軍吏部士官
 第四十八條 軍吏部現役士官ノ補充ハ歩、騎、砲、工、輜重兵科特務曹長各兵科曹長軍吏部一等書記ニシテ經理學校卒業證書ヲ所持スル者及見習軍吏ニシテ二等軍吏ノ資格ヲ備フル者ヲ以テス
 第四十九條 前條ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ所要ニ應シ終末試験成績ノ列序ニ從ヒ陸軍三等軍吏ニ任ス
 卒業證書ヲ所持スル者ハ二等軍吏ニ任セララルル迄所管監督部ニ於テ若クハ當該部隊ノ軍吏ニ附屬シ實務ヲ見學セシム
 第五十條 見習軍吏ニ採用シ得ヘキ者ハ一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル軍吏生トス
 第五十一條 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル軍吏生ニシテ現役軍吏志願ノ者ハ願書ヲ其ノ原所管ノ監督部長ニ差出スヘシ監督部長ハ之ヲ調査シ自己ノ意見書及考科表ヲ添ヘ陸軍省經理局長ニ進達スヘシ
 第五十二條 陸軍省經理局長ハ前條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ見習軍吏ヲ命シ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ配賦シ該隊ニ於テ六箇月以上軍吏ノ勤務ヲ習得セシム但シ配賦ノ隊ハ經理局長ヨリ師團長ニ通知スヘシ

第五十三條 見習軍吏ノ身分ハ曹長ノ階級トス

第五十四條 見習軍吏ノ教育ハ該隊高級軍吏其ノ責ニ任シ師團監督部長之ヲ監督ス但シ隊中ノ勤務ニ就テハ尙ホ隊長之ヲ監督ス

第五十五條 見習軍吏士官ノ勤務ヲ習得シ終レハ隊長ハ高級軍吏ヨリ本人ノ學術、勤務、品行等軍吏部士官ニ適當ナルヤ否ノ證明書ヲ得之ニ自己ノ意見ヲ附シ師團監督部長ニ移ス監督部長ハ之ヲ審査シ二等軍吏ノ資格ヲ備フル者ト否ヲ分テ意見書ヲ添ヘ其ノ書類ヲ陸軍省經理局長ニ進達ス經理局長ハ該書類ヲ審査シ意見書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第五十六條 見習軍吏ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アルトキハ隊附高級軍吏其ノ事由ヲ悉シ隊長ヲ經テ師團監督部長ニ上申シ監督部長ハ陸軍省經理局長ニ經理局長ハ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定處分ス

一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

二 學力乏シクシテ見習軍吏ニ適セサル者

三 士官タルノ才能ニ乏シキ者

四 見習軍吏タルヲ得ヘカラスト認メラレタル者

五 疾病若クハ傷疾ニ依リ一時服役ニ堪ヘサル者

六 三等軍吏ト爲ルヘキ資格ナシト認メラレタル者

七 疾病若クハ傷疾ニ依リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久兵役ニ堪ヘサル者

第五十七條 前條第一乃至第六ニ該ル者ハ見習軍吏ヲ免シ一等書記ニ任シ豫備役ニ編入シ第七ニ該ル者ハ見習軍吏ヲ免ス

第三章 豫備役後備役將校並ニ同相當官ノ補充

第五十八條 豫備役將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 一年志願兵終末試験及第證書ヲ得テ豫備役ニ入りタル者

二 將校同相當官中現役年限年齢ニ滿タスシテ現役ヲ退キ豫備役ニ入りタル者

三 豫備役准士官下士官ニシテ士官ニ進級シタル者

第五十九條 前條第一ニ該ル者ヲ豫備役士官ト爲スヘキ爲メ現役ヲ終リタル次年ニ於テ尠クモ二箇月間原隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム但シ軍醫學生、藥劑生及軍吏生ノ勤務演習ハ原所屬ニ於テスルト其ノ他ニ於テスルトハ師團長ノ認可ヲ請ケ師團監督部長若クハ軍醫部長之ヲ定ム

第六十條 前條ノ勤務演習ハ本人ノ冀望ニ依リ他隊ニ於テスルト其ノ期ヲ翌年ニ延ハストハ師團長ノ許可ヲ請クヘキモノトス但シ他ノ師團ノ某隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ師團長ヨリ他ノ師團長ニ照會スヘシ

第六十一條 勤務演習ノ時期ハ步兵ニ在テハ師團長他兵ニ在テハ各兵監、軍醫學生、藥劑生及軍吏生ニ在テハ師團監督部長若クハ軍醫部長之ヲ定メ獸醫學生ニ在テハ本人ノ便宜ヲ斟酌シ原隊長之ヲ定ム

第六十二條 勤務演習ニ召集シタル者ハ其ノ演習ノ初ニ於テ豫備役見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官又ハ豫備役見習軍吏ト爲シ現役見習士官、現役見習醫官、現役見習藥劑官、現役見習獸醫官又ハ現役見習軍吏ト同一ノ取扱及教育ヲ受ケシム

第六十三條 豫備役見習士官ハ勤務演習ノ終ニ於テ將校試験ヲ爲シ及第ノ者ヲ士官ニ選舉シ及任官ノコトヲ上申スルハ本條例第二十一條乃至第二十三條ノ例ニ依ル但シ將校試験ノ方法ハ師團長之ヲ定ム

豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官及豫備役見習軍吏ハ勤務演習ノ終ニ於テ學術ノ試験ヲ爲シ其ノ及第者ヲ豫備役士官ニ選舉シ及任官ノコトヲ上申スルハ本條例第三十五條乃至第三十七條第四十五條及第五十五條ノ例ニ依ル

第六十四條 前條ノ試験ニ落第シ尙ホ豫備役士官トランコトヲ冀望スル者及事故アリテ勤務演習

ヲ爲ササル者ハ翌年ノ勤務演習ニ召集ス

第六十五條 第六十三條ノ試験ニ落第シタル者ハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ師

團長歩兵ハ旅團ニ上申シ許可ヲ得テ豫備役見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役

見習獸醫官又ハ豫備役見習置吏ヲ免シ曹長又ハ同相當官豫備役見習獸醫官ハ蹄鐵工長ニ任ス

第六十六條 後備役將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 豫備役將校同相當官ヨリ後備役ニ入りタル者

二 將校同相當官ニシテ現役年限ニ滿テ後備役ニ入りタル者

三 後備役准士官下士ニシテ士官ニ進級シタル者

第四章 現役下士ノ補充

第一款 憲兵科下士

第六十七條 憲兵科下士ノ補充ハ憲兵上等兵ニシテ二箇年以上憲兵ノ職務ニ服シ品行方正志操確

實ナル者ヲ以テス

前項ノ外歩、騎、砲、工、輜重兵科現役及豫備役後備役下士諸工長下長ヲ除ク以テ中任官後二箇年以

上現役ニ服シ品行方正志操確實ナル者ニシテ補充検査ニ合格シタル者ヲ選抜シ補充スルコトヲ

得但シ年齡滿二十八年以下ノ者ニ限ル

第六十八條 憲兵分隊長ハ部下上等兵ニシテ前條第一項ニ該當スル者ヲ選抜シ技能ノ優劣ニ由リ

順序ヲ定メタル人名書及品行證明書ヲ三月三十一日迄ニ憲兵隊長ニ進達シ憲兵隊長ハ之ヲ點檢シ

意見アレハ取捨ヲ加ヘ各分隊ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ進達スヘシ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ審査シ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ認可ヲ請ケ各隊ノ缺員ニ應シ下士候補者

ヲ二等軍曹ニ任ス

下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第六十九條 歩騎、砲、工、輜重兵科ノ下士ヨリ補充ヲ要スルトキハ憲兵司令官所要ノ人員ヲ陸軍大

臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達ス但シ其ノ補充ハ補充ヲ要スル憲兵管區内ニ於テスルヲ例トス

第七十條 前條ノ告達アルトキハ師團長之ヲ各隊長歩兵ハ旅團長ヲ經テ及聯隊區司令官ニ達シ各隊長、

聯隊區司令官ハ志願者ヲ取調ヘ其ノ人名書ニ品行證明書ヲ添ヘ師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テニ進達シ同官

ヨリ之ヲ憲兵司令官ニ送付スヘシ

各官廨ニ在テハ前項ニ準シ志願者ヲ取調ヘ其ノ長官ヨリ人名書及品行證明書ヲ憲兵司令官ニ送

付スヘシ

第七十一條 憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領スルトキハ其ノ書類ヲ添ヘ憲兵隊長ニ達シ該隊副官又

ハ分隊長ヲシテ補充検査ヲ行ハシム其ノ検査ニ合格ノ者ハ副官又ハ分隊長其ノ優劣ニ依リ順序

ヲ定メタル人名書ニ検査書類ヲ添ヘ之ヲ憲兵隊長ニ進達シ憲兵隊長ハ之ヲ點檢シ意見アレハ取

捨ヲ加ヘ管内ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ進達スヘシ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ審査シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ヲ憲兵隊長ニ下シ憲兵隊長ハ所要ニ應

シ候補名簿ノ順序ニ從ヒ其ノ階級ニ應シ憲兵下士ニ任ス但シ其ノ任命ハ師團長其ノ他ノ長官ヲ

經由スヘシ

第七十二條 補充検査ハ體格現役ノ者學科二種トシ其ノ學科検査ハ筆記、口述ノ二種トス但シ

體格検査ニ合格セサル者ハ學科検査ヲ行ハス

憲兵司令官若クハ憲兵隊長ハ體格検査ニ從事セシムル爲メ軍醫ノ派遣ヲ其ノ所屬ノ長官ニ請求

スヘシ

第七十三條 憲兵下士補充検査格例及合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定メ師團長其ノ他ノ長官ニ通知

スヘシ

第七十四條 補充検査ノ場所ニ往復スル志願者ノ旅費ハ自辨トス

第二款 步騎砲工輜重兵科下士

第七十五條 步騎砲工輜重兵科下士砲工兵監護砲監シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許サレタル者現役期限滿ツル迄在營ヲ許サレタル者及陸軍屯田歩兵科ニ在テハ上等兵ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シタル者及各師團ノ豫備役後備役下士上等兵ニシテ屯田兵トナリタル者ヲ以テス

第七十六條

中隊長砲兵隊長以下同シハ其ノ部下上等兵ニシテ前條ニ該當スル者ヲ選抜シ其ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ十二月一日警備隊ニ在テハ二月一日及六月一日迄ニ之ヲ大隊長ニ進達スヘシ

第七十七條

大隊長ハ更ニ各中隊砲兵隊以下同シ下士候補者ノ技能ヲ檢閲シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ候補名簿ヲ聯隊長ニ進達スヘシ

第七十八條

聯隊長ハ下士候補名簿ヲ師團長歩兵ハ旅團ニ進達シ認可ヲ請ケ中隊ニ缺員アル毎ニ任ス明治二十七年勅令第九十五號ニ依リ屯田兵役ニ服スル者ハ移任後直ニ同等ノ屯田歩兵現役下士ニ任ス

第七十九條

下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フハ同中隊ニ於テスルヲ例トス若シ同中隊ニ於テ之ヲ補フコト能ハサルトキハ聯隊長ハ同大隊中他ノ中隊ヨリ之ヲ補フコトヲ得

第八十條

陸軍教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヲ下士ニ任スルニハ該團長又ハ校長其ノ人名簿ヲ監軍ニ進達シ認可ヲ請ケ之ヲ二等軍曹ニ任シ陸軍大臣ノ告達ニ基キ各兵隊ニ配賦ス

第三款 火工二等軍曹

第八十一條

火工二等軍曹ノ補充ハ砲兵上等兵ニシテ陸軍砲兵工科學校ヲ卒業シ再服役ヲ許サレタル者ヲ以テス

第八十二條

砲兵工科學校卒業ノ砲兵上等兵ヲ火工二等軍曹ニ任スルニハ隊長該隊ニ缺員アル毎ニ之ニ任ス

第四款 砲兵監護同諸工下長

第八十三條

砲兵監護ノ補充ハ現役砲兵工銃工木工鍛工長ニシテ實役停年二箇年以上ノ者若クハ監護志願者ニシテ砲兵方面附ト爲リタル再服役以上ノ砲兵曹長火工曹長ヲ以テス

第八十四條

砲兵諸工下長ノ補充ハ陸軍砲兵工科學校生徒ニシテ卒業ノ者ヲ以テス

第五款 工兵監護

第八十五條

砲兵曹長火工曹長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ砲兵方面木器長陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ニ任ス

箇年以上現役ニ服シ検査ニ合格シタル者ヲ以テス

第八十七條 工兵監護志願者ノ検査ハ本八所屬ノ長官ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ時期及検査ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第八十八條 工兵曹長、工兵一等軍曹ヲ工兵監護ニ任スルニハ陸軍省軍務局長検査合格者各級中ニ於テ優劣ヲ比較シ其ノ列序ヲ定メ工兵監護候補名簿ヲ製シ陸軍大臣ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ之ニ任ス

第六款 砲臺監守

第八十九條 砲臺監守ノ補充ハ現役砲、工兵曹長同一等軍曹一、一等軍曹ハ現役停年一箇年以上ノ者中志願者ニシテ五箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

第九十條 砲臺監守ノ補充ヲ要スルトキハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第九十一條 前條ノ告達アルトキハ隊長若クハ所屬長官ハ志願者中第八十九條ニ該當ノ者ヲ選ビ其ノ人名書ニ考科表ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ進達シ同官ハ之ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達ス

第九十二條 陸軍大臣ハ前條ノ書類ヲ陸軍省軍務局長ニ下シ軍務局長ハ志願者ノ各官等中ニ於テ其ノ服役實期ト考科表トヲ參照シ砲工兵各別ニ砲臺監守候補名簿ヲ製シ陸軍大臣ニ進達ス
陸軍大臣ハ候補者ヲ決定シテ之ヲ軍務局長ニ下シ軍務局長ハ缺員アル毎ニ砲工兵交互ニ之ヲ砲臺監守ニ任ス

第七款 蹄鐵工下長

第九十三條 蹄鐵工下長ノ補充ハ現役蹄鐵工卒ニシテ獸醫學校卒業者ヲ以テス

第九十四條 前條ノ卒業者ヲ蹄鐵工下長ニ任スルニハ陸軍省軍務局長卒業者ノ人名簿ヲ陸軍大臣ニ進達シ認可ヲ請ケ師團長ヲ經テ隊長ニ移シ隊長ハ該隊ニ缺員アル毎ニ之ニ任ス

第八款 縫工下長並ニ靴工下長

第九十五條 縫工下長、靴工下長ノ補充ハ現役上等兵ニシテ縫工卒、靴工卒ノ勤務ニ服シ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許サレタル者ニシテ現役期限滿テハ在營一箇年以上ニシテ及現役豫備役後備役兵卒中經理學校卒業者ヲ以テス

第九十六條 上等兵ヲ縫工下長、靴工下長ニ任スルノ手續ハ第七十六條乃至第七十八條ヲ適用ス

第九十七條 經理學校卒業者ヲ工下長ニ任スルニハ陸軍省經理局長其ノ人名簿ヲ陸軍大臣ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ之ニ任ス

第九款 衛生部下士

第九十八條 衛生部下士ノ補充ハ看護手ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許サレタル者ニシテ現役期限滿テハ在營一箇年以上ニシテ及現役豫備役後備役兵卒中看護手ニシテ第九十八條ニ該當ノ者ヲ選抜シ其ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ十二月一日、一月一日、六月一日、迄ニ隊長ニ進達シ隊長ハ之ヲ師團軍醫部長ニ移ス

第九十九條 衛生部下士ノ缺員ヲ補充スルハ同師團管内ニ於テスルヲ例トス

第一百條 師團軍醫部長ハ更ニ各隊下士候補者ノ技能ヲ檢閲シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ更ニ候補名簿ヲ製シ師團管内ヲ除キ外陸軍省醫務局長ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ三等看護長若クハ二等調劑手ニ任ス

第十款 軍吏部下士

第一百二條 軍吏部下士ノ補充ハ歩騎砲工輜重兵上等兵中軍吏部下士志願ニシテ該隊軍吏ニ附屬シ三箇月間會計事務ヲ見習ヒ更ニ二箇月間當該監督部若クハ糧餉部ノ事務ヲ習修シ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許サレタル者ニシテ現役期限滿テハ在營一箇年以上ニシテ及現役豫備役後備役兵卒中經理學校卒業者ヲ以テス

以テス

第二百三條 各隊ニ於テハ毎年六月志願者ヲ取調ヘ大隊大隊ヲ爲ササハ該隊 毎ニ若干名ヲ選抜シ該隊軍吏ニ附屬セシム

第二百四條 隊附軍吏ハ前條ノ上等兵ヲシテ會計事務ヲ見習ハシメ且附屬書記ノ事務ヲ補助セシメ常ニ之ヲ監視シテ其ノ適否ヲ考察スヘシ

第二百五條 上等兵會計事務ノ見習ヲ終レハ隊附軍吏ハ其ノ成績ヲ隊長ニ上申シ隊長ハ之ヲ審査シ適任ト認ムル者ニ就テハ其ノ人名書ニ成績書類ヲ添ヘ當該監督部長ニ移シ不適任ト認ムル者ハ軍吏附屬ヲ免ス

第二百六條 師團監督部長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ所要ヲ量リ優等ノ者若干名ヲ選ビ師團長ノ認可ヲ請ケ監督部若クハ糧餉部ノ事務ヲ習修セシメ其ノ他ノ者ハ更ニ三箇月以内本隊軍吏ニ附屬シ見習ヲ繼續セシム

第二百七條 前條習修ノ上等兵ハ本隊ヨリ通學セシム但シ監督部所在地外ノ者ハ監督部所在地ノ各隊ニ分遣シ通學セシム

第二百八條 師團監督部長ハ監督部若クハ糧餉部ノ事務習修ノ上等兵ヲ監視シ事務習修ヲ終レハ其ノ成績ヲ審査シ軍吏部下士候補名簿ヲ製シ管內ヲ通シテ考科表及意見書ヲ添ヘ陸軍省經理局長ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ二等書記ニ任ス

第二百九條 第二百六條ニ依リ更ニ三箇月以内見習ヲ繼續シタル上等兵現役満期トナルトキハ該隊軍吏其ノ人名書ヲ製シ隊長ニ進達シ隊長ハ之ヲ師團監督部長ニ移シ監督部長ハ之ニ軍吏部下士適任證書ヲ付與ス

第十一款 軍樂部下士

第一百十條 軍樂部下士ノ補充ハ樂手補ニシテ樂生ヲ命シタル日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ

下士タルノ技能ヲ備フル者ヲ以テス

第一百十一條 軍樂學校長、軍樂隊長ハ其ノ部下樂手補中前條ニ該當ノ者ヲ選抜シ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ學校長ハ戶山學校長ニ隊長ハ師團參謀長ニ進達ス

第一百十二條 戶山學校長又ハ師團參謀長ハ之ヲ點檢シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ監軍又ハ師團長ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ二等軍樂手ニ任ス

第五章 豫備役後備役下士ノ補充

第一款 各兵科下士

第一百十三條 各兵科豫備役下士ノ補充ハ左ニ掲グル者ヲ以テス

一 豫備役上等兵中各兵科下士適任證書ヲ所持スル者

二 豫備役砲兵上等兵中砲兵工科學校卒業證書ヲ所持スル者

三 豫備役兵卒中獸醫學校卒業證書又ハ蹄鐵工下長適任證書ヲ所持スル者

四 豫備役兵卒中經理學校卒業證書ヲ所持スル者

五 各兵科下士中服役七箇年四箇月ニ滿タスシテ現役ヲ退キ豫備役ニ入りタル者

第一百十四條 各隊長ハ戰時補充ニ要スル豫備役下士ヲ養成スルノ責任ヲ有ス故ニ毎年若干名ノ上等兵ニ下士適任證書ヲ付與シテ除隊スルモノトス

騎兵、野戰砲兵、輜重兵ニ在テハ各聯隊若クハ大隊毎ニ蹄鐵工卒タリシ兵卒若干名ニ蹄鐵工下長適任證書ヲ付與シテ除隊スルモノトス

第一百十五條 各兵科後備役下士ノ補充ハ左ニ掲グル者ヲ以テス

一 後備役上等兵中各兵科下士適任證書ヲ所持スル者

二 後備役砲兵上等兵中砲兵工科學校卒業證書ヲ所持スル者

三 後備役兵卒中獸醫學校卒業證書又ハ蹄鐵工下長適任證書ヲ所持スル者

四 後備役兵卒中經理學校卒業證書ヲ所持スル者

五 豫備役各兵科下士ヨリ後備役ニ入リタル者

六 各兵科下士中服役七箇年四箇月以上十二箇年四箇月ニ滿タスシテ現役ヲ退キ後備役ニ入リタル者

第百十六條

第百十三條第一乃至第四及第百十五條第一乃至第四ニ該ル者ヲ下士ニ任スルニハ戰時若クハ事變ニ際シ下士ノ缺員ニ應シ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ケ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官之ヲ二等軍曹、火工二等軍曹、蹄鐵工下長、縫工下長、靴工下長ニ任ス但平時ト雖モ勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閱シ之ニ任スルコトアルヘシ

第二款 衛生部下士

第百十七條 衛生部豫備役下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 豫備役看護手中看護長又ハ調劑手適任證書ヲ所持スル者

第百十八條 師團軍醫部長ハ戰時補充ニ要スル衛生部下士ヲ養成スルノ責任ヲ有ス故ニ

毎年若干名ノ看護手ニ看護長適任證書若クハ調劑手適任證書ヲ付與シテ除隊スルモノトス

第百十九條 衛生部後備役下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 後備役看護手中看護長又ハ調劑手適任證書ヲ所持スル者

二 豫備役衛生部下士ヨリ後備役ニ入リタル者

三 衛生部下士中服役七箇年四箇月以上十二箇年四箇月ニ滿タスシテ現役ヲ退キ後備役ニ入リタル者

第百二十條

第百十七條第一及第百十九條第一ノ看護手ヲ下士ニ任スルニハ戰時若クハ事變ニ際シ下士ノ缺員ニ應シ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ケ師團軍醫部長若クハ

之ト同等以上ノ權アル軍醫部長之ヲ三等看護長又ハ三等調劑手ニ任ス但シ平時ト雖モ勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閱シ之ニ任スルコトアルヘシ

第三款 軍吏部下士

第百二十一條 軍吏部豫備役下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 各兵科豫備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

第百二十二條 軍吏部後備役下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

一 各兵科後備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

二 豫備役軍吏部下士ヨリ後備役ニ入リタル者

三 軍吏部下士中服役七箇年四箇月以上十二箇年四箇月ニ滿タスシテ現役ヲ退キ後備役ニ入リタル者

第百二十三條

第百二十一條第一及第百二十二條第一ノ上等兵ヲ下士ニ任スルニハ戰時若クハ事變ニ際シ下士ノ缺員ニ應シ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ケ師團監督部長若クハ之ト同等以上ノ權アル監督部長之ヲ三等書記ニ任ス但シ平時ト雖モ勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閱シ之ニ任スルコトアルヘシ

第六章 現役上等兵ノ補充

第一款 憲兵科上等兵

第百二十四條 憲兵上等兵ノ補充ハ步騎砲工輜重兵隊兵卒中憲兵志願ニシテ左ノ二項ニ該當スル者ヲ以テス

一 二箇年以上現役ニ服シ年齡滿二十二年以上ノ者

二 品行方正志操確實ニシテ三箇月以上憲兵分隊ニ於テ憲兵上等兵ノ勤務ニ必要ノ學術ヲ習

修シ補充検査ニ合格シタル者

第百二十五條 各聯隊長ハ毎年志願者若干名ヲ選拔シ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メタル人名書ニ品行證明書ヲ添ヘ師團長歩兵ハ旅團ニ進達シ師團長ハ之ヲ憲兵司令官ニ送付スヘシ長ヲ經テ

第百二十六條 憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ憲兵隊ニ於テ憲兵ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ習修セシムヘキ人員ヲ定メ其ノ人名ヲ師團長ニ通知シ同時ニ各憲兵隊長ニ達スヘシ

第百二十七條 各憲兵隊長ハ各聯隊長ニ協議シ學術習修ノ爲メ本人所在地ノ憲兵分隊ニ通學セシム

第百二十八條 前條兵卒ノ習修ニ就テハ憲兵分隊長其ノ責ニ任シ憲兵隊長之ヲ監督ス

第百二十九條 學術ノ習修終レハ憲兵分隊長ハ補充検査ヲ行ヒ合格者ニ就キ其ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ人名書ニ検査書類ヲ添ヘ之ヲ憲兵隊長ニ進達シ憲兵隊長ハ之ヲ點檢シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ管内ヲ通シテ順序ヲ定メ憲兵上等兵候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ進達スヘシ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ審査シ各憲兵隊毎ニ憲兵上等兵候補名簿ヲ決定シ憲兵隊長ニ下ス憲兵隊長ハ缺員アル毎ニ師團長ヲ經由シテ憲兵上等兵ヲ命ス

候補名簿決定ノ後歸休ヲ命シ又ハ豫備役編入ノ者ニ在テハ憲兵隊長ヨリ聯隊區司令官ニ照會シ該司令官ニ於テ體格検査ヲ行ヒ合格ノ者ニ限リ憲兵上等兵ヲ命スルコトヲ得

第百三十條 補充検査ヲ受ケタル兵卒ハ通學ヲ停止シ候補名簿決定ノ上其ノ人名ヲ憲兵司令官ヨリ師團長ヲ經由シテ各聯隊長ニ通知シ各聯隊長ハ憲兵上等兵候補者タルコトヲ本人ニ達スヘシ

第百三十一條 前條候補者ニシテ憲兵上等兵ヲ命セラレサル以前歸休ヲ命シ又ハ豫備役編入ノトキハ聯隊長ヨリ其ノ由ヲ憲兵隊長及聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百三十二條 候補名簿ハ決定ノ日ヨリ次年候補名簿決定ノ日迄之ヲ用ウルモノトス

第百三十三條 補充検査ハ筆記口述ノ二種トス其ノ検査格例及合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定ム

第二款 步騎砲工輜重兵科上等兵

第百三十四條

步騎砲工輜重兵上等兵ノ補充ハ兵卒中一箇年警備隊ニ在テハ六箇月以上現役ニ服シ品行方正ニシテ左ノ二項ニ該當スル者ヲ以テス

一 上等兵ノ職務ニ適スル學術及能力アル者

二 諸技藝凡ソ兵卒ノ上位ヲ占ムル者

第百三十五條 屯田歩兵ノ上等兵ハ前條ノ外各師團ノ豫備役後備役下士上等兵ニシテ屯田兵ト爲リタル者ヨリ直ニ補充スルコトヲ得

一箇年以上現役ニ服シタル豫備役後備役兵卒ニシテ屯田兵ト爲リ前條ノ資格ヲ備フル者亦同シ

第百三十六條 上等兵ヲ選舉スルニハ中隊長其ノ部下兵卒中第百三十四條ニ該當ノ者ヲ選ビ優劣ニ依リ順序ヲ定メ其ノ人名書ヲ大隊長ニ進達ス

第百三十七條 大隊長ハ更ニ各中隊ノ候補者ヲ檢閲シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ其ノ人名書ヲ聯隊長ニ進達ス

第百三十八條 聯隊長ハ中隊ニ缺員アル毎ニ候補者ニ上等兵ヲ命ス

第百三十九條 上等兵ノ缺員ハ同中隊ノ候補者ヲ以テ補フモノトス

各中隊長ハ其ノ中隊ニ於テ所要ノ上等兵ヲ養成スルヲ以テ責任トス

第百四十條 上等兵ハ毎年各中隊ニ於テ凡ソ其ノ定員ノ半數宛補充スルヲ例トス

第七章 現役看護手ノ補充

第百四十一條 現役看護手ノ補充ハ步騎砲工輜重兵ノ初年兵ニシテ概ネ六箇月間軍事教育ヲ受ケ更ニ概ネ六箇月間看護學ヲ修メタル者ヲ以テス

警備隊ニ在テハ軍事教育及看護學修業期限ハ各三箇月間トス

第百四十二條 前條ノ補充ハ師團軍醫部長前年度ニ於テ豫メ各隊所要ノ看護手人員ヲ調査シテ師團長ニ進達シ師團長ハ之ヲ各隊ニ配賦シ各隊長ハ之ヲ各中隊ニ配賦スヘシ

第四百二十三條 前條ノ配賦ヲ受ケタル中隊長ハ部下兵卒中篤實温厚ニシテ看護手ニ適當ノ者ヲ選

ル其ノ名簿ヲ製シ順序ヲ經テ聯隊長ニ進達スヘシ

第四百二十四條 聯隊長ハ前條ノ名簿ニ依リ看護學修業兵ヲ命シ其ノ地ノ衛戍病院ニ入學或ハ通學

セシムヘシ

第四百四十五條 看護學修業兵卒業シタルトキハ看護學修業兵名簿ニ登載シ缺員アル毎ニ聯隊長之

ニ看護手ヲ命ス

第八章 現役樂手補、樂生ノ補充

第四百四十六條 現役樂手補ノ補充ハ樂生トナリ一箇年以上現役ニ服シ品行方正ニシテ學術優等ナ

ル者ヲ以テシ樂生ノ補充ハ軍樂學校卒業者ヲ以テス

第四百四十七條 軍樂學校長、軍樂隊長ハ其ノ部下樂生中前條ニ該當ノ者ヲ選ヒ優劣ニ依リ順序ヲ

定メ候補名簿ヲ製シ學校長ハ戶山學校長ニ隊長ハ師團參謀長ニ進達スヘシ

第四百四十八條 戶山學校長又ハ師團參謀長ハ之ヲ點檢シ意見アレハ取捨ヲ加ヘ戶山學校長ハ監軍

ニ參謀長ハ師團長ニ進達シ認可ヲ請ケ缺員アル毎ニ樂手補ヲ命ス

第四百四十九條 戶山學校長ハ陸軍大臣ノ告達ニ基キ軍樂學校卒業者ヲ各隊ニ配賦ス

第四百五十條 樂手補、樂生ハ必要ニ應シ其ノ所屬ヲ轉換スルコトヲ得

第九章 特別補充

第四百五十一條 戰時若クハ事變ニ際シ士官及下士ノ缺員アルトキハ本條例各章ニ依ルノ外尙ホ本

章ニ依リ補充スルコトヲ得

第四百五十二條 士官ハ左ニ掲グル者ノ中ヨリ補充スルコトヲ得但シ補充ヲ爲スヘキ時期及區分ハ

陸軍大臣ノ指定ニ依ル

一 現役見習士官、現役見習醫官、現役見習藥劑官、現役見習獸醫官、現役見習軍吏

- 二 豫備役見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏
 - 三 後備役見習士官、後備役見習醫官、後備役見習藥劑官
 - 四 現役豫備役後備役特務曹長ニシテ曹長ニ任セラレタル日ヨリ一箇年六箇月ヲ過キタル者
- 第四百五十二條 動員ヲ行ヒタル師團ハ必要ニ應シ左ニ掲グル者ヲシテ士官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

一 現役見習士官、現役見習醫官、現役見習藥劑官、現役見習獸醫官、現役見習軍吏

二 豫備役見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏

三 後備役見習士官、後備役見習醫官、後備役見習藥劑官

第四百五十四條 動員ヲ行ヒタル師團ハ必要ニ應シ左ニ掲グル者ヲ豫備役見習士官、豫備役見習醫

官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏ト爲シ士官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ

得但シ第五第六ニ該ル者ノ採用方法及時期ハ陸軍大臣ノ指定ニ依ル

一 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者

二 各兵科士官適任證書ヲ所持スル豫備役准士官下士

三 衛生部士官適任證書ヲ所持スル豫備役下士

四 軍醫生、藥劑生、獸醫生タル一年志願兵

五 醫術開業免狀、藥劑師免狀ヲ所持スル者又ハ醫師免許規則第三條第四條藥品營業並ニ藥品

取扱規則第四十六條ニ依リ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ得ヘキ資格アル者

六 獸醫免許規則第二條第二項第二項若クハ第四項ニ該ル者

第四百五十五條 動員ヲ行ヒタル師團ハ必要ニ應シ左ニ掲グル者ヲ以テ後備役見習士官、後備役見

習醫官、後備役見習藥劑官ト爲シ士官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得

一 各兵科士官適任證書ヲ所持スル後備役准士官下士

二 衛生部士官適任證書ヲ所持スル後備役下士

第五百五十六條 勳員ヲ行ヒタル部隊ハ必要ニ應シ左ニ掲クル者ノ中ヨリ下士ノ補充ヲ爲スコトヲ得

一 入隊後五箇月ヲ經過シタル一年志願兵

二 現役豫備役後備役上等兵

三 現役豫備役後備役看護手

第五百五十七條 軍吏部下士ノ補充ハ必要ニ應シ軍吏部下士志願ノ上等兵ニシテ隊附軍吏ニ附屬シ

又ハ監督部若クハ糧餉部ニ於テ會計事務見習者中適任ノ者ヲ以テスルコトヲ得

第五百五十八條 第五百五十二條ニ該ル者ノ任官ハ陸軍大臣奏薦宣行ス

戰地ニ在テハ特ニ進級補除ノ權ヲ委任セラレタル首將之ヲ專行スルコトヲ得

第五百五十九條 第五百五十五條ニ該ル者ノ身分取扱ハ豫備役見習士官、豫備役見習醫官、豫備役見習

藥劑官ニ同シ

第六百六十條 第五百五十六條及第五百五十七條ニ該ル者ノ任官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權ア

ル長官ノ認可ヲ請ケ聯隊長、師團監督部長、師團軍醫部長若クハ之ト同等以上ノ權アル部隊長之

ヲ行フ但屯田騎兵、砲兵、工兵隊ニ在テハ第七師團長自ラ之ヲ行フ

師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ時宜ニ依リ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル部隊

長ニ直ニ任官ノ權ヲ委任スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ本條例第四章ニ規定スル下士候補名簿ノ順序ニ拘ハラズ任官スルコトヲ

得

第六百六十一條 第五百五十三條第二、第五百五十四條及第五百五十五條ニ該ル者ハ現役ヲ離ルトキ

若クハ復員ノ際之ヲ士官ニ任スルコトヲ得其ノ士官ニ任セラサル者ハ曹長、同相當官若クハ軍曹

相當官ニ任ス但シ第五百五十四條第五第六ニ該ル者ニシテ士官ニ任セラレサルトキハ豫備役見習

醫官、豫備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官ヲ免ス

前項ニ依リ士官ト爲スニハ各兵科ニ在テハ將校會議、衛生部ニ在テハ衛生部士官選舉會議ニ於

テ可決シタル者獸醫部及軍吏部ニ在テハ所屬長官及同部士官ノ保證ヲ爲スモノニ限ル

第六百六十二條 大本營ニ軍事内局ヲ置キ將校同相當官ノ人事ヲ取扱フトキハ其ノ取扱ニ係ルモノ

ニ付テハ第五百五十二條但書及第五百五十八條第一項ヲ適用セス

第六百六十三條 現役豫備役後備役特務曹長ハ曹長ニシテ一等軍曹ニ任セラレタル日ヨリ一箇年六

箇月ヲ過キタル者ノ中ヨリ補充スルコトヲ得

第十章 雜則

第六百六十四條 士官候補生、現役見習醫官、現役見習藥劑官、現役見習獸醫官及現役見習軍吏ハ志願

兵トシテ入隊ノ日ヨリ兵籍ニ編入ス

第六百六十五條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ハ軍隊ニ在テハ屯營内ニ

學校ニ在テハ校内ニ居住セシム但シ其ノ居室ハ一般下士兵卒ト混同スルコトナシ

第六百六十六條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ハ各階級ニ於テハ本官等

下士兵卒ノ上位トス

第六百六十七條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ハ室内其ノ他諸物品ノ掃

除及馬具馬匹等ノ掃拭ヲ爲シハ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但シ士官候補生ハ馬具馬匹等ノ掃拭ヲ

習得スル爲ニハ自ラ之ヲ爲スモノトス

第六百六十八條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ハ情願ヲ以テ之ヲ免セサ

ルモノトス

第六百六十九條 臺灣憲兵ニ於ケル憲兵下士上等兵ノ補充ハ本條例第四章第一款第六款第一款ノ規

定ヲ準用シ又補充上ノ必要ニ依リ憲兵下士上等兵ヲ臺灣憲兵隊所屬ノ下士上等兵ト彼是轉換ス

ルコトヲ得

第七十條 將校會議又ハ衛生部士官選舉會議ニ於テ可決シタル者若クハ各部士官ニ任スヘキ資格アリト認メタル者ハ任官ニ至ル迄部隊ニ在テ士官ノ勤務ニ服セシム

第七十一條 下士候補名簿ハ認可決定ノ日ヨリ次年ノ候補名簿決定ノ日迄之ヲ用ウルモノトス

第七十二條 本條例ニ於テ下士ノ現役服役年月ノ起算及隊附勤務ニ服シタル年月ノ起算ハ上等兵ヨリ下士ニ任セラレタル者ハ入隊ノ日其ノ他ハ下士ニ任セラレタル日ヲ以テス

第七十三條 下士若クハ上等兵候補名簿ニ登載シタル者及下士上等兵若クハ樂手候補者ニシテ任用前候補者タラシムヘカヲサレ事由ヲ生スルトキ又ハ所屬ヲ轉換スルトキ若クハ身上異動ヲ生スルトキハ本人所屬長官ヨリ其ノ由ヲ關係アル部隊ノ長官ニ通知又ハ上申スヘシ但シ砲兵監護志願者ニシテ砲兵監護ノ定員オキ官衙ニ轉職シタルトキハ候補名簿ヨリ除名シ別ニ通知スルヲ要セス

附則

第七十四條 輜重兵科現役士官ノ補充ハ輜重兵科士官候補生ヲ以テ補充シ得サル間ハ他兵科ノ現役士官ヲ轉科セシメ補充スルコトヲ得

第七十五條 下士兵卒一年志願兵ニ及陸軍諸生徒ハ當分ノ内士官候補生ヲ志願スルコトヲ得但シ諸生徒ヨリ採用スル者ハ之ヲ命スルノ日直ニ退學セシム

第七十六條 當分ノ内本條例第七條第二第三ニ該ル者ニシテ入隊スヘキ隊長ノ承認ヲ得サル者ト雖採用スルコトヲ得

前項ノ者並ニ前條ノ下士兵卒及諸生徒ハ本條例第十二條ノ例ニ依リ各兵隊ニ配賦ス

第七十七條 豫備役後備役將校、同相當官ノ補充ハ當分ノ内豫備役後備役准士官下士中士官適用ス

任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルコトヲ得

士官適用證書ヲ所持スル者ヲ豫備役後備役ノ士官ト爲スニハ第五十八條第一ニ該ル者ノ例ヲ準用ス

第七十八條 上等兵及看護手ヲ以テ下士ヲ補充スルハ各本條ノ規定ニ依ルノ外當分ノ内再服役志願ニアラサル者ヲ以テスルコトヲ得

第七十九條 第四章第十款及第六章第一款ニ依リ軍吏部下士及憲兵上等兵ノ缺員ヲ補充シ得サル間ハ從前ノ規程ニ依リ補充スルコトヲ得

第八十條 砲臺監守ハ當分ノ内工兵監護ヲ志願スルコトヲ得其ノ採用ノ方法ハ第四章第五款ニ依ル

第八十一條 陸軍各兵科現役士官補充條例、陸軍衛生部現役士官補充條例、陸軍獸醫部現役士官補充條例、陸軍豫備後備將校補充條例、陸軍各兵科現役下士補充條例、陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例、陸軍工兵監護補充條例、陸軍砲臺監守補充條例、陸軍蹄鐵工下長補充條例、陸軍現役工長靴工長補充條例、陸軍衛生部現役下士補充條例、陸軍軍吏部現役下士補充條例、陸軍軍樂部下士兵卒補充條例、陸軍衛生部現役看護手補充條例、陸軍各兵科豫備後備下士補充條例、陸軍衛生部豫備後備下士補充條例、陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例、陸軍士官下士特別補充條例及明治二十一年勅令第九號、明治二十三年勅令第九十五號、明治二十七年勅令第二百二十八號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十一年八月二十勅令第九號ハ陸軍士官候補生志願者ハ當分ノ内總テ検査ノ上採用スルノ件、明治二十三年九月四勅令第九十五號ハ志願軍吏志願獸醫生ヲ陸軍軍吏部並ニ獸醫部豫備士官ニ補任スルノ件、明治二十七年九月二十勅令第二百二十八號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍監督部及軍吏部士官補充ノ件ナリ

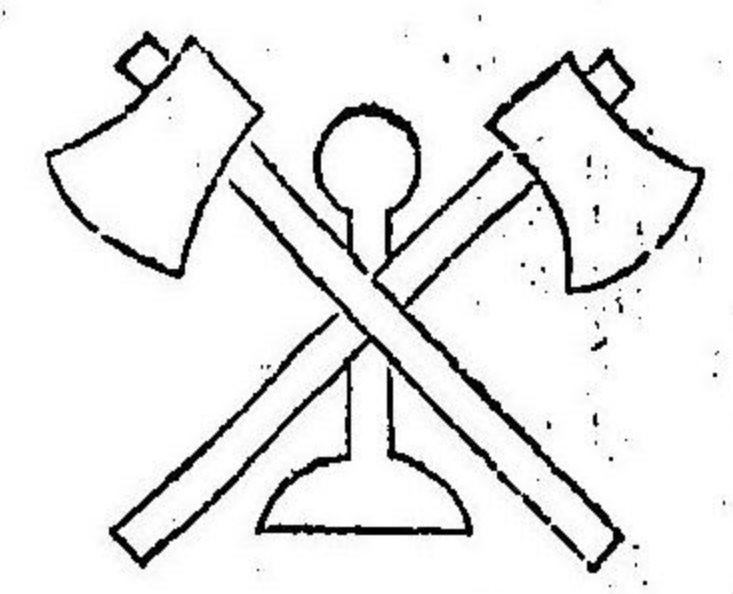
朕鐵道隊下士以下ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百八十號(官報十二月三日)
陸軍下士以下服制中鐵道隊ニ在テハ肩章ニ左ノ徽章ヲ附ス



朕陸軍管區表改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百八十一號(官報十二月四日)
陸軍管區表左ノ通改正シ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

陸軍管區

師管	聯隊區	警備隊區	管	近衛	第一	第二	第三	第四	第五	第六																								
木郷	水戸	佐倉	宇都宮	麻布	高崎	長野	小笠原島	東	仙臺	福島	新發田	柏崎	佐渡	新潟	津	豐橋	靜岡	大坂	和歌山	大津	京都	廣島	尾道	山口	濱田	隱岐	熊本	大村	鹿兒島	宮崎	大島	沖繩	五島	對馬
東京本郷區淺草區下谷區南葛區 所屬深川區南足立區北葛區	茨城水戸市東茨城郡西茨城郡 鹿島郡行方郡新治郡筑波郡	千葉	栃木茨城 宇都宮	東京四谷區小石川區牛込區芝區 麻布區麩町區神田區日本橋區 神奈川郡磯島郡	神奈川郡橫濱市久良岐郡鎌倉郡三 郡馬郡甲斐郡津久井郡足柄上 郡玉川郡大里郡	長野	東京小笠原島	宮城仙臺市宮城郡柴田郡刈田郡 黒川郡加美郡志田郡玉造郡	福島信夫郡安達郡安積郡岩瀬郡 郡大沼郡東白川郡石川郡田	新潟新潟市南蒲原郡北蒲原郡中 西蒲原郡東蒲原郡岩手郡古	新潟新潟市東蒲原郡中蒲原郡 魚沼郡三島郡北魚沼郡南魚 沼郡東頸城郡中頸城郡西	新潟佐渡郡	愛知名古屋市愛知郡知多郡 海東郡海西郡碧海郡	三重津市安濃郡桑名郡員辨郡三 郡飯南郡多氣郡度會郡志摩	愛知瀧美郡八名郡富田郡西加 郡南設樂郡北設樂郡額田郡	靜岡靜岡市安撫郡志原郡原 郡周智郡富士郡庵原郡濱原	大坂西區東區南區北區堺市東 郡中河内郡北河内郡泉北郡	和歌山奈真郡吉野郡 宇智郡	滋賀三重大津 名賀郡	京都上京區下京區愛宕郡葛野郡 伊賀郡宇治郡久世郡相樂郡	廣島廣島市安藝郡加茂郡豊田郡 沼田郡佐伯郡山縣郡高田郡	廣島御調郡世羅郡甲奴郡 神石郡沼隈郡深津郡 高田郡安藝郡美濃郡津和野郡	山口吉敷郡厚狹郡美濃郡大津郡 大島郡那賀郡美濃郡津和野郡	廣島松江市八束郡能登郡仁多郡 原郡鞆郡那賀郡美濃郡津和野郡	山口島根郡那賀郡美濃郡津和野郡 島根郡那賀郡美濃郡津和野郡	隱岐島根郡那賀郡美濃郡津和野郡 隱岐郡那賀郡美濃郡津和野郡	熊本熊本市熊本市宇土郡玉名郡 下益城郡八代郡宇都郡球磨郡	大村長崎市西彼杵郡東彼杵郡 浦上郡高來郡北高來郡杵築郡	鹿兒島鹿兒島市鹿兒島郡口置郡 鹿兒島郡伊佐郡薩摩郡	宮崎鹿兒島郡肝煎郡	大島鹿兒島郡大島郡	沖繩沖繩	五島長崎南松浦郡	對馬長崎上縣郡 下縣郡

明治二十九年十二月勅令第

陸軍管區表

Table listing military districts (管區) and their constituent prefectures (府) and counties (縣). Includes entries like 東京, 大阪, 京都, 神戶, etc.

Table listing military districts (管區) and their constituent prefectures (府) and counties (縣). Includes entries like 第一, 第二, 第三, etc.

明治二十九年十二月 勅令 第三十八十一號

朕朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二日

外務大臣伯爵大隈重信

勅令第三百八十二號(官報十二月四日)

明治三十五年勅令第十四號朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則中左ノ通改正ス

第十一條 朝鮮國在勤警部巡查ノ旅費ハ支度料、人馬船車料及日當トシ左ノ各項ニ依リ赴任公用

歸朝、賜暇歸朝其他公務ヲ帶ヒ旅行スル場合ニ於テ之ヲ支給ス

一 支度料ハ新ニ任用セラレタル者赴任ノトキニ限リ左ノ範圍内ニ於テ外務大臣相當ノ額ヲ定

メ之ヲ給ス朝鮮國ニ於テ新ニ任用セラレタル者就職スルトキ亦同シ其赴任前死亡又ハ官ノ

都合ニ依リ其官職ヲ免セラレタル者ニハ其半額ヲ給ス

警部 百圓以内

巡查 五拾圓以内

二 人馬船車料ハ外務大臣大藏大臣ト協議シテ定ムル所ノ定額ニ依リ之ヲ給ス其定額ナキ場合

ニ於テハ實費ヲ給ス但汽車、汽船等ノ實費ヲ給スルトキ其料金ニ等差アルトキハ警部ニハ

一等巡查ニハ二等ノ額ヲ給ス

三 日當ハ別表ニ依リ之ヲ給ス別表中規定ナキ場合ニ於テハ往返一日ヲ超エタル者ニ限リ出發

ノ日ヨリ到著ノ日マテ其日數ニ應シ一日ニ付警部ニハ壹圓八拾錢ノ割合ニ依

リ陸路ニ在テハ其全額海路ニ在テハ其半額ヲ給ス但海陸兩路ニ跨ルノ日及海路ト離別ニ其

四 食料ノ支拂ヲ要スルトキハ全額ヲ給ス
 非常急行ノ命令ヲ受ケタルトキ及已ムヲ得サル場合ヲ除ク外陸路ニ在テ一日ノ行程十二哩ニ滿タサルトキ又ハ人馬船車料定額アル場所ニ旅行スルモ現ニ其支拂ヲ要セサルトキハ人馬船車料ヲ給セス

五 人馬船車料定額及別表ノ日當ヲ給スル場合ノ外本邦内ニ旅行又ハ滞留スルトキハ人馬船車料日當ハ内國旅費規則ニ依リ之ヲ給ス但巡查ハ雇員ノ例ニ依ル

六 別表ノ日當ヲ給スル場合ニ於テ特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲メ中途ニ滞留シ豫定日數ヲ超過シタルトキハ其超過ノ日數ニ對シ本邦内ニ在テハ内國旅費規則外國ニ在テハ本令ニ依リ日當ヲ給ス但巡查ニ關シ本邦内ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

七 旅行中ニ死亡シタル者ニハ人馬船車料定額及別表ノ日當ヲ給ス但人馬船車料ハ定額ナキ場合ニハ既ニ支拂タル金額、日當ハ別表ニ規定ナキ場合ニハ死亡ノ日マテノ金額ヲ給ス

八 任所ニ於テ非職ヲ命セラレタル者又ハ旨ヲ諭シ其官職ヲ免セラレタル者ニハ其命令到達ノ日ヨリ二週間以内ニ出發歸朝スルトキハ本官若クハ前官職相當ノ人馬船車料及日當ヲ給ス但二週間ノ期限ハ交通不便ノ地ニ於テハ現ニ出發スルコトヲ得ル日ヨリ起算ス

九 東京外ニ於テ任用セラレタル者ニハ其現住地ヨリ任所マテノ旅費ヲ給ス歸朝中轉勤ヲ命セラレタル者ニハ本邦新任所間ノ人馬船車料及日當ヲ給ス

第十二條 特ニ危険ヲ冒シテ旅行セシムル場合ニ於テ外務大臣至當ト認ムルトキハ本令ノ日當ヲ四割以内増額スルコトヲ得

第十三條 第四ノ次ニ左ノ如ク追加ス

第五 任所若クハ赴任途中ニ於テ死亡シタル者ニハ其地ヨリ東京マテノ人馬船車料ノ額ヲ手當トシテ其遺族ニ給ス

第十五條 本令ノ施行ニ關スル細則ハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治二十九年十二月十五日ヨリ施行ス
(別表)

日當		豫定日數	警	部	巡	查
東京	釜山間	七	一	〇〇〇		六三〇〇
同	仁川間	一〇	一	五〇〇		九〇〇〇
同	京城間	一一	一	八〇〇		一〇八〇〇
同	元山間	一〇	一	五〇〇		九〇〇〇
同	神戶釜山間	五	七	五〇〇		四五〇〇
同	同 仁川間	八	二	〇〇〇		七二〇〇
同	同 京城間	九	一	五〇〇		九〇〇〇
同	同 元山間	八	二	〇〇〇		七二〇〇
馬關	釜山間	二	三	〇〇〇		一八〇〇
同	同 仁川間	五	七	五〇〇		四五〇〇
同	同 京城間	六	一	〇〇〇		六三〇〇
同	同 元山間	六	九	〇〇〇		五四〇〇

長崎	釜山間	五	四五〇〇	二七〇〇
同	仁川間	六	九〇〇〇	五四〇〇
同	京城間	七	一〇〇〇〇	七二〇〇
同	元山間	六	九〇〇〇	五四〇〇
釜山	仁川間	三	四五〇〇	二七〇〇
同	京城間	四	五〇〇〇	二七〇〇
同	元山間	三	四五〇〇	二七〇〇
仁川	京城間	一	三〇〇〇	一八〇〇

本表中金山仁川間釜山元山間ハ海路、釜山京城間ハ仁川經由海路ノ豫定ナルヲ以テ陸行ヲ要スル場
合ニハ本表ニ依ラズ現日數ニ應シ本令ノ日當ヲ給スルモノトス

〔參照〕

勅令第十四號朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則(明治二十五年二月三日官報)抄錄
 第十一條 朝鮮國在勤警部及巡查ノ旅費ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ニ依ル但巡查ハ總テ備員ノ例ニ依リ
 第十二條 旅費ハ警部及巡查ノ地位官用歸朝、歸國歸朝、任所替其他官務旅行ノトキニ限り給スルモノトス

朕判事檢事官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月九日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
 司法大臣 清浦奎吾

勅令第三百八十三號(官報十二月十一日)

明治二十七年勅令第十七號判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條ニ左ノ一項ヲ加フ

東京區裁判所判事ニシテ監督ヲ命セラレタル者ニハ特ニ七級俸又ハ六級俸ヲ給スルコトヲ得
 第十條ニ左ノ一項ヲ加フ
 東京區裁判所ノ上席檢事ニハ特ニ八級俸又ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第十七號判事檢事官等俸給令(明治二十七年二月十五日官報)抄錄
 第九條 區裁判所判事ニシテ其ノ裁判所監督ヲ命セラレタル者ハ八十八人ヲ限リ九級俸又ハ八級俸ヲ給スルコトヲ得
 第十條 地方裁判所及區裁判所檢事ノ中八十八人ヲ限リ九級俸又ハ八級俸ヲ給スルコトヲ得

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月三日

陸軍大臣 子爵高島綱之助

勅令第三百八十四號(官報十二月十五日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏、豫備役後備役見習士官、豫備役後備役見
 習醫官、豫備役後備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏、中央幼年學校官費生徒及ヒ
 獸醫學校生徒ニハ増賄料ヲ給ス其金額ハ第九表甲ニ依ル

第三十五條第二項中但書ヲ削リ同條第三項中「各兵科」ノ三字ヲ削リ「士官候補生」ノ下ニ「見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏」ノ十八字ヲ加ヘ「下士兵卒」ヲ「下士以下」ニ改ム

第三十八條第二項中「衛生部獸醫部士官候補生給與ノ現品及」ノ十七字ヲ削リ同條第五項中「士官候補生」ノ下ニ「見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏」ノ十八字ヲ加ヘ「下士兵卒」ヲ「下士以下」ニ改ム

第四表ヲ別表ノ如ク改ム

第十二表中「衛生部獸醫部士官候補生」ヲ總テ削除ス

第二十一表中「工兵科士官候補生」ノ次ニ左ノ一區畫ヲ加ヘ

見習醫官見習藥劑官 貳拾七圓七拾錢 貳圓參錢

同表備考中「各兵科」ノ三字ヲ削リ「士官候補生」ノ下ニ「見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏」ノ十八字ヲ加ヘ及同表備考ニ左ノ一項ヲ加フ

一 勤務演習ニ召集中被服保續料ノ定額ハ豫備役後備役見習士官ハ當該兵科下士ニ豫備役後備役見習醫官、豫備役後備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官ハ衛生部下士ニ豫備役見習軍吏ハ軍吏部下士ニ同シ

(別表)

第四表

士官候補生	見習士官	月 額	
		月	額
一二等軍曹階級中	四圓五錢	軍醫學校生徒	拾貳圓
兵卒階級中	貳圓六拾四錢	獸醫學校生徒	壹圓五拾參錢
	壹圓五拾參錢	要塞砲兵射擊學校生徒	八拾七錢
		數學學校生徒	

見習醫官	見習藥劑官	見習獸醫官	見習軍吏	幼年學校生徒	參拾錢	諸工生徒	
						陸地測量部修技所生徒	拾圓
四圓五錢	四圓五錢	四圓五錢	四圓五錢	四圓五錢	拾圓	陸地測量部修技所生徒	拾圓
						衛生部醫科大學依託學生	拾貳圓
						軍樂學校生徒	壹圓貳拾錢
						經理學校生徒	四拾貳錢
						衛生部醫科大學依託學生	拾貳圓
						陸地測量部修技所生徒	拾圓

(參照)

勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報)抄錄

第二十四條第二項

士官候補生豫備見習士官及幼年學校生徒獸醫學校生徒ニハ增賄料ヲ給ス其金額ハ第九表甲ニ依ル

第三十五條第二項

警外居住ノ下士以下被服ハ現品ト代金トニ分テ之ヲ給ス其員數ハ第十二表第十三表其金額ハ第十五表ニ依ル但衛生部獸醫部士官候補生ハ總テ現品ヲ給ス

同條第三項

各兵科士官候補生及幼年學校生徒ハ六週間現役兵被服ハ被服料ヲ給シ豫備役後備役下士兵卒召集中被服ハ被服保續料ヲ給ス其金額ハ第二十一表ニ依ル

第三十八條第二項

一 憲兵隊、軍樂隊、士官學校、幼年學校、戶山學校、經理學校、乘馬學校、砲兵射擊學校、獸醫學校、教導團、砲兵工科學校、軍樂學校、各病院並病室ニ在リテ下士以下給與ノ現品ハ現品ニ應シ備附品ハ定數ニ依リ地質ト金額トニ分テ之ヲ該所管ニ交付ス衛生部獸醫部士官候補生給與ノ現品及分遣隊所要ノ被服モ亦之ニ準ス

同條第五項

五 士官候補生六週間現役兵並教育ノ爲メ召集ノ第一補充兵給與ノ被服料及豫備役後備役下士兵卒並補充兵給與ノ被服保續料ハ現品ニ應シ定額ヲ軍隊ニ交付ス其被服ハ現品ヲ以テ給シ經理ヲ該隊ニ委任ス

朕警備隊條例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月九日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第三百八十五號(官報十二月十五日)

明治十九年勅令第七十五號警備隊條例ヲ廢止ス

朕臺灣總督府稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十一日

内閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣子爵高島鞞之助

勅令第三百八十六號(官報十二月十五日)

臺灣總督府稅關官制中左ノ通改正ス

第一條中「五箇所」ヲ「四箇所」ニ改メ「臺南」ノ二字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第九十二號臺灣總督府稅關官制(明治二十九年三月三十一日官報)抄錄
第一條 臺灣總督府稅關ヲ左ノ五箇所ニ置ク

淡水
基隆
安平
臺南
打狗

朕海軍軍人俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百八十七號(官報十二月十八日)

海軍軍人俸給令中左ノ通改正ス

第九條 下士卒ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ各其ノ有効期間一日五錢以內ノ加俸ヲ給

ス但同技術ノ證書證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ之ヲ給ス

一 善行章ヲ有スル者

二 教員ノ職ヲ奉スル者

三 信號適任證書ヲ有スル者

四 勅令ヲ以テ定メタル特殊ノ技術證書若クハ證狀ヲ有スル者

前項ノ加俸細別ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十條 削除

第十一條 削除

第十二條 削除

第十六條但書中第十三條ヲ第二十條ニ改ム

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫備後備ノ准士官以上召集ヲ解カレ事務引繼ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間

俸給及加俸ハ召集中ノ例ニ依ル但海軍高等武官進級條例第二十一條ニ依リ進級シタル者本項ノ場合ニ於テハ前官職ニ依リ其ノ俸給及加俸ヲ給ス

第二十條中依願歸郷ノ下ニ「留置」ノ二字ヲ加フ

第二十二條 准士官以上候補生及下士卒ニシテ請願休暇、依願歸郷、陸地療養、入院、留置、收禁、拘留、處刑、處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中若クハ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス但無罪若クハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス

公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ外國出張中陸地療養入院スルトキ及准士官以上候補生ニシテ處罰中勤務ニ服スルトキ若クハ下士卒ニシテ戴罪服務中ハ前項ノ例ニアラス

〔參照〕

- 勅令第二百五十二號海軍軍人俸給令(明治二十六年十二月十八日官報)抄錄
- 第九條 下士卒ニシテ善行章ヲ有スル者ニハ一線毎二日一錢ノ加俸ヲ給ス
- 第十條 下士卒ニシテ教員ノ職ヲ奉スル者ニハ一日三錢ノ加俸ヲ給ス
- 第十一條 下士卒ニシテ砲術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢、一等掌砲證書ヲ有スル者ニハ一日三錢、二等掌砲證書ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス
- 砲術教員適任證書及掌砲證書ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス
- 第十二條 下士卒ニシテ水雷術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢、一等掌水雷證書ヲ有スル者ニハ一日三錢、二等掌水雷證書ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス
- 水雷術教員適任證書及掌水雷證書ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス
- 第十六條 准士官以上ノ待命、休職、停職、豫備、後備、退役者若クハ免官廢官トナリタル者事務引續務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間俸給及加俸ハ在職ノ例ニ依ル但海軍高等武官進級條例第十三條ニ依リ進級シタル者本條ノ場合ニ於テハ前官職ニ依リ其ノ俸給及加俸ヲ給ス
- 第十七條 豫備、後備ノ准士官以上及豫備兵、後備兵、歸休兵召集中准士官以上ハ在職ニ準シ下士卒ハ現役ニ準シ俸給及加俸ヲ給ス
- 第二十條 下士卒ニシテ依願歸郷、收禁、拘留、處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ間俸給十分ノ二ヲ給ス但無罪若クハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス未決中死亡スルトキ亦同シ

下士卒ニシテ戴罪服務中ノ者ハ俸給全額ヲ給ス

第二十二條 准士官以上候補生及下士卒ニシテ請願休暇、陸地療養、入院、留置、收禁、拘留、處刑、處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中若クハ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス但准士官以上及候補生ニシテ處罰中勤務ニ服スルトキ若クハ下士卒ニシテ戴罪服務中ハ加俸ヲ給ス

御名 御璽

明治二十九年十二月十六日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
農商務大臣 子爵 榎本武揚

勅令第三百八十八號(官報十二月十八日)

府縣農事試驗場農事講習所及水産講習所職員並農事巡迴教師及水産巡迴教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ニ關スル明治二十七年勅令第三百八十七號中左ノ通改正ス

第八條 府縣農事試驗場農事講習所及水産講習所職員並農事巡迴教師及水産巡迴教師ニシテ委任
文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等
官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

奏任文官又ハ判任文官若クハ之ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニシテ同時ニ府縣農事試驗場農事講習
所及水産講習所職員並農事巡迴教師及水産巡迴教師ニ任用セラレタル者ノ官等等級配當方ハ本
官官等等級若クハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル

本令ニ依リ待遇ヲ受クル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ
別表ノ中奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル府縣農事試驗場農事講習所長及水産講習所長並農事巡
迴教師及水産巡迴教師官等配當表左ノ通改ム

六等	年俸 千二百圓以上	七等	年俸 八百圓以上 千二百圓未満	八等	年俸 六百圓以上 八百圓未満
----	-----------	----	--------------------	----	-------------------

〔參照〕
勅令第八十七號(明治二十七年十一月二日官報)抄錄
第八條 府縣農事試驗場農事講習所及水産講習所職員並農事巡迴教師及水産巡迴教師ニシテ委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應ジ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス
(別表)

奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル府縣農事試驗場農事講習所 長及水産講習所長並農事巡迴教師及水産巡迴教師官等配當表					
六等	年俸 千二百圓以上	七等	年俸 九百圓以上 千二百圓未満	八等	年俸 七百圓以上 九百圓未満
九等	年俸 五百圓以上 七百圓未満	任			

朕臺灣總督府稅關監吏補俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十六日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
拓殖務大臣 子爵高島鞆之助

勅令第三百八十九號(官報十二月十八日)
臺灣總督府稅關監吏補ノ月俸ハ二十五圓以下十二圓以上トス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕高等教育會議規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
文部大臣 侯爵蜂須賀茂韶

勅令第三百九十號(官報十二月十八日)
高等教育會議規則

- 第一條 高等教育會議ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ教育ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス
- 第二條 高等教育會議ハ教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ具申スルコトヲ得
- 第三條 高等教育會議ハ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 一 帝國大學總長及各分科大學長
 - 二 文部省各局長
 - 三 高等師範學校長及女子高等師範學校長
 - 四 高等商業學校長東京工業學校長及東京美術學校長
 - 五 高等學校長一人
 - 六 學識アル者又ハ教育事業ニ閱歷アル者七人以内
- 前項議員ハ職務上當然議員タル者ヲ除ク外文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 文部大臣ハ必要ニ依リ前條ノ外部下高等官ヲ高等教育會議ノ會議ニ臨時出席セシムルコトヲ得

トヲ得但シ可否ノ數ニ加ハラズ

第五條 高等教育會議ニ議長ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ議員中ニ就キ之ヲ勅命ス

議長事故アルトキハ議員ニ於テ議長代理者ヲ互選ス

第六條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ具申ス

第七條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 高等教育會議ハ秘密會トス

高等教育會議ハ職務ヲ以テ臨席スル者ノ外傍聽ヲ許サズ

第九條 高等教育會議ノ日時ハ文部大臣ニ於テ必要ニ應シ隨時之ヲ定ム

第十條 議長及議員ノ任期ハ三箇年ヲ以テ一期トス

第十一條 議長及議員ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 第十條及第十一條ノ規程ハ職務上當然議員タルモノニハ之ヲ適用セス

第十三條 高等教育會議ニ書記一名ヲ置キ議長ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及會務ニ從事セシム

附則

第十四條 此ノ勅令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

朕監軍部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

勅令第三百九十一號(官報十二月十九日)

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島鞞之助

監軍部條例中左ノ通改正ス

第十四條中「各兵監副官」ヲ「各兵監部副官」ニ改ム

〔參照〕

勅令第三百九十九號監軍部條例(明治二十九年五月十六日官報)抄録

第十四條 各兵監副官ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス

朕陸軍士官學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

勅令第三百九十二號(官報十二月十九日)

陸軍士官學校條例中左ノ通改正ス

第四條中教官ノ下「中少佐大尉」ヲ「中少佐大尉及尉官相當官」ニ改ム

朕陸軍中央幼年學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

勅令第三百九十三號(官報十二月十九日)

陸軍中央幼年學校條例中左ノ通改正ス

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第五條 生徒教育ノ責ニ任ノ下「ス」ヲ「シ」ニ改メ其下ニ「東京陸軍地方幼年學校ヲ管轄ス」ノ十四字ヲ加フ

第二十六條 中「而シテ之レカ」召募ニ就テハ明治二十二年勅令第九十號陸軍幼年學校生徒召募條例ヲ適用ス「ノ」四十字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第二百十二號陸軍中央幼年學校條例(明治二十九年五月十六日官報)抄録
第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第二十六條 明治三十二年以前召募ノ中央幼年學校生徒ハ其卒業ニ至ル迄左ノ各條ニ據リ取扱フ而シテ之レカ召募ニ就テハ明治二十二年勅令第九十號陸軍幼年學校生徒召募條例ヲ適用ス

朕陸軍地方幼年學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百九十四號(官報十二月十九日)

陸軍地方幼年學校條例中左ノ通改正ス

第五條 中監軍ニ隸シノ下ニ「東京陸軍地方幼年學校校長ニ在テ」ノ割註ヲ加フ

第十條 中校長ノ下ニ「東京陸軍地方幼年學校校長ニ在テ」ノ割註ヲ加フ

第十二條 中陸海軍士官ノ下「孤兒」ヲ「兒子」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百十三號陸軍地方幼年學校條例(明治二十九年五月十六日官報)抄録

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第十條 生徒教育課程ハ校長ヲ具シ監軍之ヲ定ム

第十二條 生徒中戰死者及將校同相當官ノ孤兒ニ對シテハ特ニ前條ノ納金ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス
生徒中陸海軍士官ノ孤兒ニ對シテハ前條ノ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

朕陸軍戶山學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百九十五號(官報十二月十九日)

陸軍戶山學校條例中左ノ通改正ス

第四條 中教官ノ下「中少佐大中尉」ヲ「中少佐大中尉及大中尉相當官」ニ改ム

第五條 中學術進步ノ責ニ任ノ下「ス」ヲ「シ」ニ改メ其下ニ「陸軍軍樂學校ヲ管轄ス」ノ十字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第二百十五號陸軍戶山學校條例(明治二十九年五月十六日官報)抄録
第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

朕陸軍教導團條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百九十六號(官報十二月十九日)

陸軍教導團條例中左ノ通改正ス

第四條中生徒隊長ノ下「少佐」ヲ「少佐大尉」ニ改ム

朕陸軍乘馬學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月十七日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第三百九十七號(官報十二月十九日)

陸軍乘馬學校條例中左ノ通改正ス

第三條中教官ノ下「少佐大尉」ヲ「少佐大尉及大尉相嘗官」ニ改ム

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ明治二十九年勅令第二百四號廢止ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二十一日

- 内閣總理大臣兼 大藏大臣 伯耆松方正義
- 海軍大臣 侯爵西鄉從道
- 外務大臣 伯爵大隈重信

勅令第三百九十八號

明治二十九年勅令第二百四號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

大日本帝國憲法(抄錄)

第八條 天皇ハ公共ノ安寧ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊需ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

勅令第二百四號(明治二十九年五月十一日官報)

文武官其ノ他官職ノ命ニ依ル者ノ外日本臣民ハ管轄地方廳ノ許可ヲクシテ朝鮮國ニ渡航スルコトヲ禁ス犯ス者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕師團司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

- 農商務大臣 子爵榎本武揚
- 拓殖務大臣兼 陸軍大臣 子爵高島鞞之助
- 內務大臣 伯爵樺山資紀
- 遞信大臣 子爵野村靖
- 司法大臣 清浦奎吾
- 文部大臣 侯爵蜂須賀茂韶

明治二十九年十二月二十一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百九十九號(官報十二月二十二日)

師團司令部條例第十八條ヲ左ノ通改正シ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十八條 未タ師團司令部ヲ置カサル師管ニ於ケル師團長ノ職務ハ師團司令部ヲ置ク迄第八師管ニ在テハ第二師團長第九師管ニ在テハ第三師團長第十師管ニ在テハ第四師團長第十一師管ニ在テハ第五師團長第十二師管ニ在テハ第六師團長之ヲ行フ

〔參照〕

勅令第二百五號師團司令部條例(明治二十九年五月十二日官報)抄錄
第十八條 近衛師團ノ徵兵事務召集事務其他地方ニ係ル事項ハ營分ノ内從前ノ規定ニ據ル

朕大審院東京控訴院及東京地方裁判所並其ノ管内區裁判所ノ書記司法屬ニ兼任ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二十二日

內閣總理大臣伯爵松方正義

司法大臣 清浦奎吾

勅令第四百號(官報十二月二十四日)
大審院東京控訴院及東京地方裁判所並其ノ管内區裁判所ノ書記ヨリ司法屬ニ兼任スル場合ニ於テ其ノ兼任者ハ同省屬定員外トス

朕茲ニ故從一位勳一等公爵毛利元德國葬ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十九年十二月二十六日

內閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第四百一號

從一位勳一等公爵毛利元德國葬ニ付特ニ國葬ヲ行フ

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年十二月二十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第四百二號(官報十二月二十八日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十六條第二項中「避病院ニ詰切ヲ命シタルトキ」ヲ「病院ニ詰切ヲ命シ交通ヲ遮斷シタルトキ」ニ改ム

第四十八條第二項中「心得勤ヲ命シタル者」ノ下「又ハ上長官士官ヲ以テ充ル職ニアル士官ノ乗馬ヲ飼養スル者」ノ二十七字ヲ削ル

第五十六條 軍隊及軍隊新設増設中若クハ海外等ニ一部派遣ノ爲メ全隊ヲ成ササルモノハ其ノ間ニ於ケル消耗品料ノ定額ハ第二十六表ニ依ル

第六十條中第二十八表第二十九表第三十表ノ十四字ヲ削ル

第六十一條中「第二十八表第二十九表」ノ十字ヲ削リ「第三十一表」ヲ「第二十八表」ニ改ム
 第六十二條中「第三十一表」ヲ「第二十八表」ニ改ム
 第六十三條 軍隊及軍樂隊新設増設中若クハ海外等ニ一部派遣ノ爲メ全隊ヲ成ササルモノハ其ノ間ニ於ケル陣營具永續料ノ定額ハ第二十八表ニ依ル
 第六十四條中「第三十一表」ヲ「第二十八表」ニ改ム
 第九表甲糧食ノ區畫中「函館」ノ二字ヲ削リ「沖繩分遣隊」ノ下ニ「及札幌屯在隊」ノ六字ヲ「高崎」ノ下ニ「及函館」ノ三字ヲ「赤間關」ノ下ニ「靜岡、弘前、秋田、山形、福知山、舞鶴、敦賀、鯖江、村松、濱田、山口、鹿兒島、大村、久留米、波止濱、吳、長崎、佐世保、鳴門、深山、鳥取、高知、忠海、大里」ノ五十二字ヲ加ヘ備考中長崎分遣隊ノ賄料ハ熊本屯在隊ノ定額ニ「ノ十八字ヲ削ル
 第十二表表號ノ下ニ「甲」ノ一字ヲ加ヘ同表中第二種衣袴ノ區畫中「教導團騎重兵科生徒」ヲ「獸醫學校生徒」ニ改メ「獸醫學校附蹄鐵工長」下長同校學生生徒ニメリヤヌ製手套ノ區畫中「青森屯在」ヲ「札幌、函館、青森、弘前屯在」ニ「步兵兵卒」ヲ「步兵(要塞)工兵兵卒」ニ「靴」下ノ區畫中「青森屯在」ヲ「札幌、函館、青森、弘前屯在」ニ「步兵兵卒」ヲ「砲(要塞)工兵特務曹長」ニ「營內居住步兵曹長軍曹」ヲ「營內居住步兵(要塞)工兵曹長軍曹要塞砲兵隊附火工曹長軍曹」ニ「營內居住銃縫靴工長」下長「一、二、三等看護長同書記」ヲ「營內居住監護鞍銃木鍛工長」下長「一、二、三等看護長同書記」ヲ「工兵縫靴工長」下長ニ「步兵兵卒同縫靴工看護手」ヲ「步兵(要塞)工兵兵卒縫靴工看護手」ニ改メ「防塞用厚毛布」(二枚)ノ區畫ヲ削リ備考ノ末ニ左ノ一項ヲ加フ
 一、下志津原、高崎、松本、仙臺、新發田、村松、函館、札幌、青森、弘前、秋田、山形、金澤地方ニ屯在スル軍隊學校等ニ在テハ營內居住特務曹長下士以下ノ爲メ防塞用厚毛布(二枚)一組宛備附寢具ニ充テ

シム其ノ供用期限ハ二十四年トス
 第十二表甲ノ次ニ別表第十二表乙ヲ加フ
 第十五表中「監視區長」ノ四字ヲ削リ「砲(要塞)兵曹長軍曹」ヲ「砲(要塞)兵曹長軍曹步兵兵縫靴工長」下長ニ「工兵曹長軍曹」ヲ「工兵曹長軍曹縫靴工長」下長ニ「騎兵蹄鐵工長」下長ヲ「騎兵蹄鐵縫靴工長」下長ニ「砲重兵蹄鐵工長」下長ヲ「砲重兵蹄鐵工長」下長ニ改メ備考ノ末ニ左ノ一項ヲ加フ
 一、豫備役後備役下士ニシテ聯隊區司令部書記トナリタル者ノ被服料ハ本表ノ定額ニ依ル
 第二十表中「砲(要塞)工兵縫靴工長」下長同縫靴工長ヲ「砲(要塞)工兵縫靴工長」下長縫靴工長ト改メ依ル
 卒ニ「看護手輜重輸卒樂生」ヲ「看護手砲兵輸卒輜重輸卒樂生」ニ改ム
 第二十一表備考中「第二師管」ヲ「第二、第七及第八師管」ニ改ム
 第二十六表中「兵種」ヲ「名稱」ニ改メ「工兵隊」ノ區畫ニ「鐵道隊」ノ三字ヲ加フ
 第十四表第十六表第十七表第十八表第二十四表第二十五表第二十七表第二十八表ヲ別表ノ如ク改ム
 第二十九表第二十表第三十一表ヲ廢止ス
 附則
 明治二十九年新設増設ノ軍隊ニ係ル給與ハ其ノ新設増設ノ月ヨリ本令ニ依リ支給ス
 (別表)

第十二表乙

區分	品名	稱	給與期限	給與區別
第一種	帽	砲兵助卒	一箇九年	初度一箇給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス
大前	立同		一箇九年	

被服		小		被服		被服	
第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下
同	同	同	同	同	同	同	同
一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組
初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス
自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス

第十四表

被服		小		被服		被服	
第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下	夏襦袢袴下	冬襦袢袴下
同	同	同	同	同	同	同	同
一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組
初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス	初度一組ヲ給ス
自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス	自六月至九月間ハ初度二組ヲ給シ其ノ期外ハ六月ニ於テ之ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス

所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用	
枕	敷布	蒲團	包布	厚毛布	枕	敷布	蒲團	包布	厚毛布	上靴	散靴	狂表	帶	親表	縮入病衣	病衣	病衣	病衣	病衣	病衣	
六年	二年	六年	八年	四年	六年	二年	六年	八年	四年	一年	二年	三年	二年	二年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	
五十七	五十七	五十七	五十七	五十七	百三十一	百三十一	百三十一	百三十一	百三十一	八百二	八百二	八百二	八百二	八百二	七百四	七百四	七百四	七百四	七百四	七百四	
二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	九十九	九十九	九十九	九十九	九十九	三百五	三百五	三百五	三百五	三百五	二百二	二百二	二百二	二百二	二百二	二百二	
					九十九	九十九	九十九	九十九	九十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	
					四	四	四	四	四	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	七十七	七十七	七十七	七十七	七十七	七十七	
					三	三	三	三	三	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	
					三	三	三	三	三	十九	十九	十九	十九	十九	五十八	五十八	五十八	五十八	五十八	五十八	
					二	二	二	二	二	十八	十八	十八	十八	十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	
					二	二	二	二	二	十四	十四	十四	十四	十四	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	
					二	二	二	二	二	九	九	九	九	九	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	
					九	九	九	九	九	四	四	四	四	四	十八	十八	十八	十八	十八	十八	
					三	三	三	三	三	十一	十一	十一	十一	十一	十五	十五	十五	十五	十五	十五	
					三	三	三	三	三	七	七	七	七	七	十一	十一	十一	十一	十一	十一	

第二十四表

所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用		所用	
枕	敷布	蒲團	包布	厚毛布	枕	敷布	蒲團	包布	厚毛布	上靴	散靴	狂表	帶	親表	縮入病衣	病衣	病衣	病衣	病衣	病衣	
六年	二年	六年	八年	四年	六年	二年	六年	八年	四年	一年	二年	三年	二年	二年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	
五十七	五十七	五十七	五十七	五十七	百三十一	百三十一	百三十一	百三十一	百三十一	八百二	八百二	八百二	八百二	八百二	七百四	七百四	七百四	七百四	七百四	七百四	
二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	九十九	九十九	九十九	九十九	九十九	三百五	三百五	三百五	三百五	三百五	二百二	二百二	二百二	二百二	二百二	二百二	
					九十九	九十九	九十九	九十九	九十九	四十九	四十九	四十九	四十九	四十九	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	
					四	四	四	四	四	三十九	三十九	三十九	三十九	三十九	七十七	七十七	七十七	七十七	七十七	七十七	
					三	三	三	三	三	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	六十八	
					三	三	三	三	三	十九	十九	十九	十九	十九	五十八	五十八	五十八	五十八	五十八	五十八	
					二	二	二	二	二	十八	十八	十八	十八	十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	四十八	
					二	二	二	二	二	十四	十四	十四	十四	十四	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	三十八	
					二	二	二	二	二	九	九	九	九	九	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	
					九	九	九	九	九	四	四	四	四	四	十八	十八	十八	十八	十八	十八	
					三	三	三	三	三	十一	十一	十一	十一	十一	十五	十五	十五	十五	十五	十五	
					三	三	三	三	三	七	七	七	七	七	十一	十一	十一	十一	十一	十一	

一 蚊帳ノ供用期限第二第七及第八師管ニ在テハ十六年トス
 一 下志津原、高崎、松本、仙臺、新發田、村松、函館、札幌、青森、弘前、秋田、山形、金澤地方ニ在テハ替護用
 一 履具ノ定數ニ應シ防禦用厚毛布(二組一組宛備附其ノ供用期限ヲ二十四年トス
 一 看聽用ノ上靴ハ患者用ノ定數中ニ包含ス

軍樂隊 五圓七拾壹錢七厘 四拾五錢五厘 貳圓貳錢五厘

第二十八表

名稱	陣營具 永續料 乘率 月額		同	一週日額
	營中隊中府	隊中府		
步兵	四錢七厘	四厘	壹錢壹厘	壹厘
騎兵	五錢貳厘	五厘	參錢壹厘	參厘
野戰砲兵	五錢貳厘	六厘	參錢四厘	參厘
要塞砲兵	五錢七厘	五厘	參錢四厘	參厘
工兵	五錢壹厘	四厘	參錢壹厘	參厘
輜重兵	五錢五厘	五厘	參錢四厘	參厘
鐵道	六錢九厘	五厘	參錢壹厘	參厘
對馬警備隊	六錢貳厘	六厘	參錢八厘	參厘
軍樂隊	拾壹錢九厘	九厘	拾六錢九厘	九厘
備考	軍樂學校ハ軍樂隊ノ金額ニ依ル 營外居住ノ者ニ在テハ庖厨ノ金額ヲ給セス			

〔參照〕

勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報)抄錄
第二十六條第二項

准士官以上及營外居住ノ下士以下傳染病流行ノ際病院ニ詰切ヲ命シタルトキハ食料ヲ給ス其金額ハ第九表甲ニ依ル
軍屬モ亦之ニ準ス

第四十八條 少佐及少佐相當官ニシテ初テ職ニ就クトキハ馬匹手當ヲ給シ其副馬ヲ要スル職ニ就クトキハ別ニ之ヲ給ス其金額ハ第二十三表ニ依ル

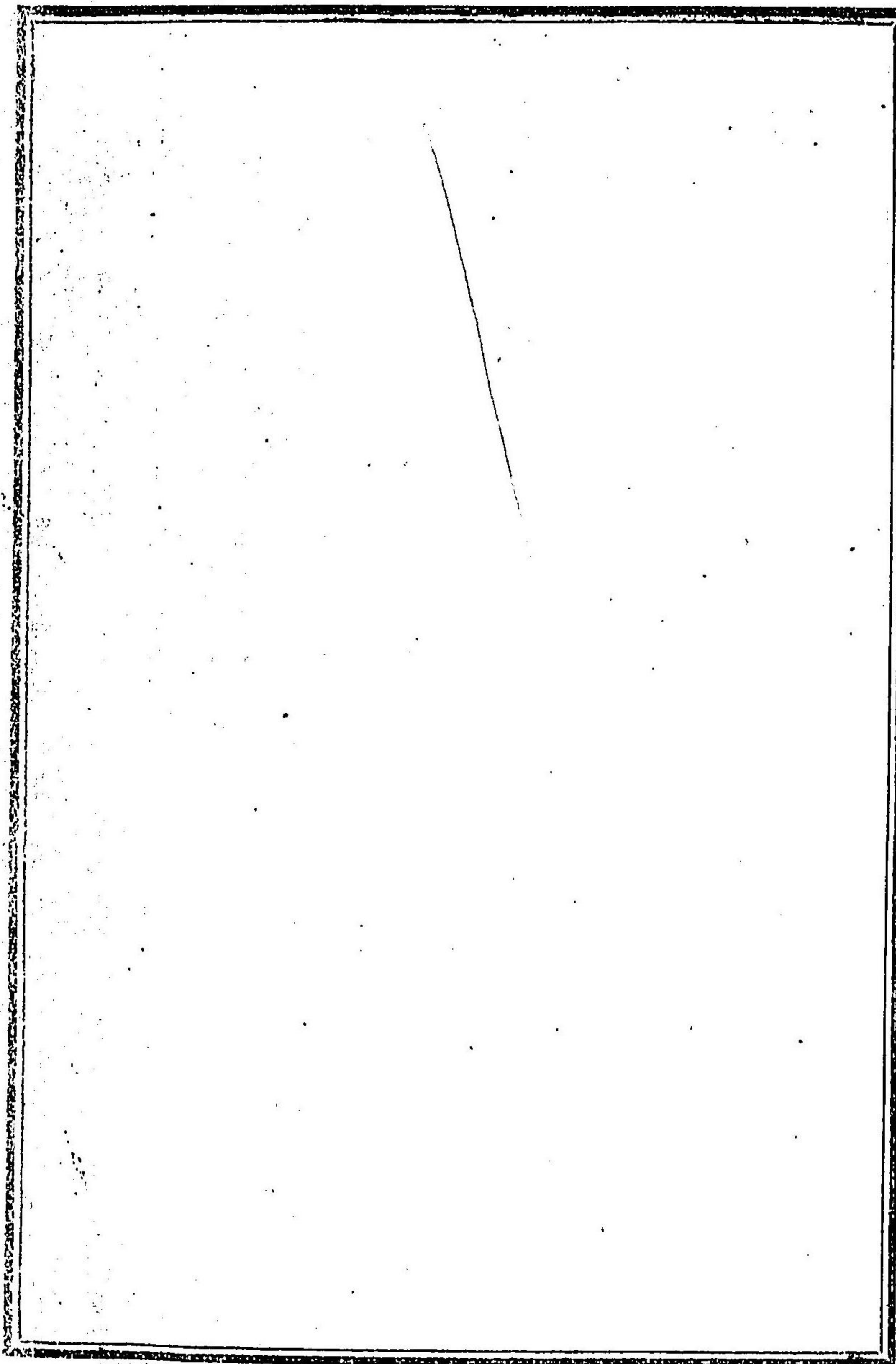
上長官ノ職務心得勤ヲ命シタル者又ハ上長官士官ヲ以テ充ル職ニアル士官ノ乘馬ヲ飼養スル者ハ前項ニ準ス

前二項ノ手當ハ一回限り之ヲ給ス

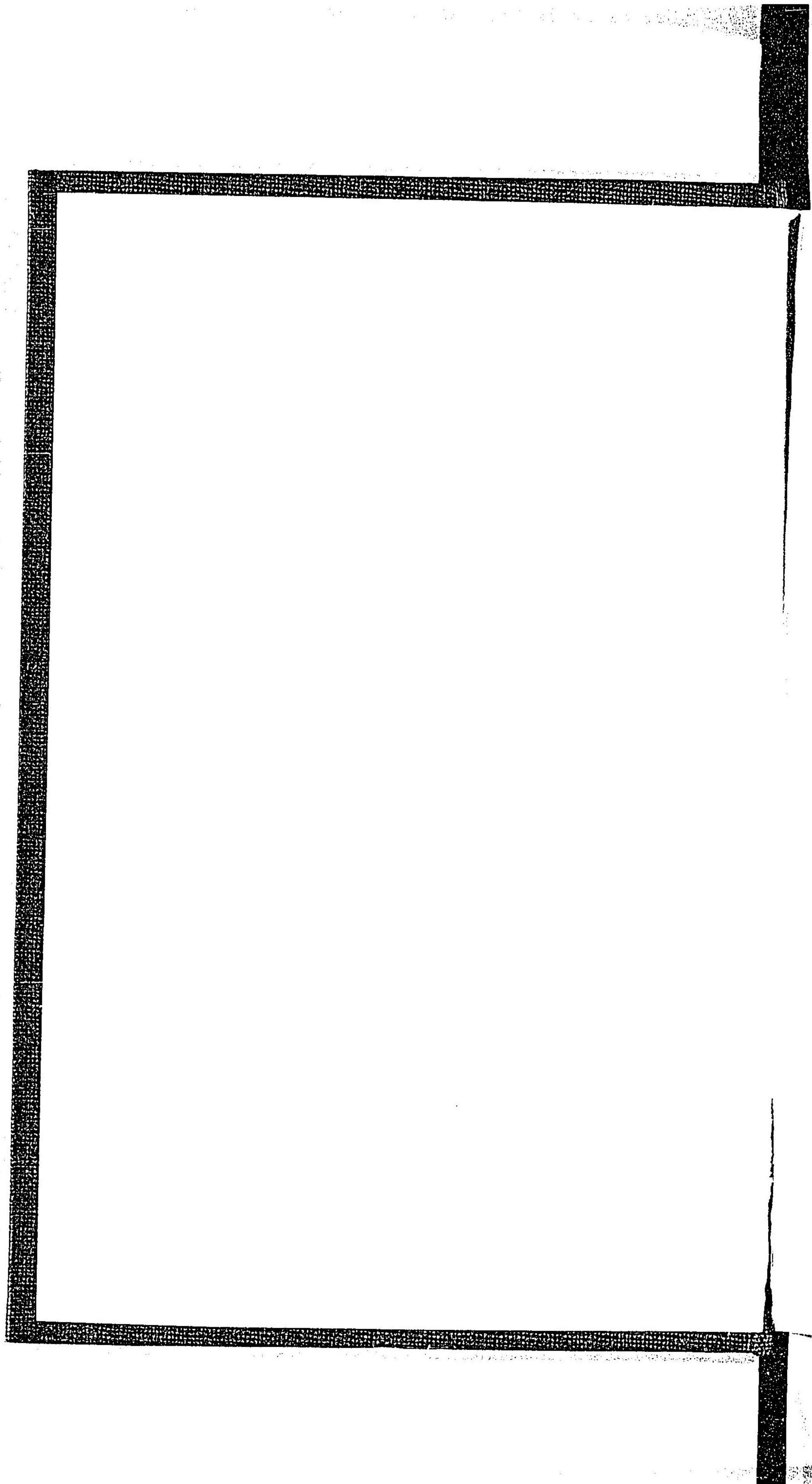
第五十六條 軍隊及軍樂隊新設中ニ係リ全隊ヲ成サハルモノハ其新設中ニ限り消耗品料ノ定額ハ第二十六表ニ依ル

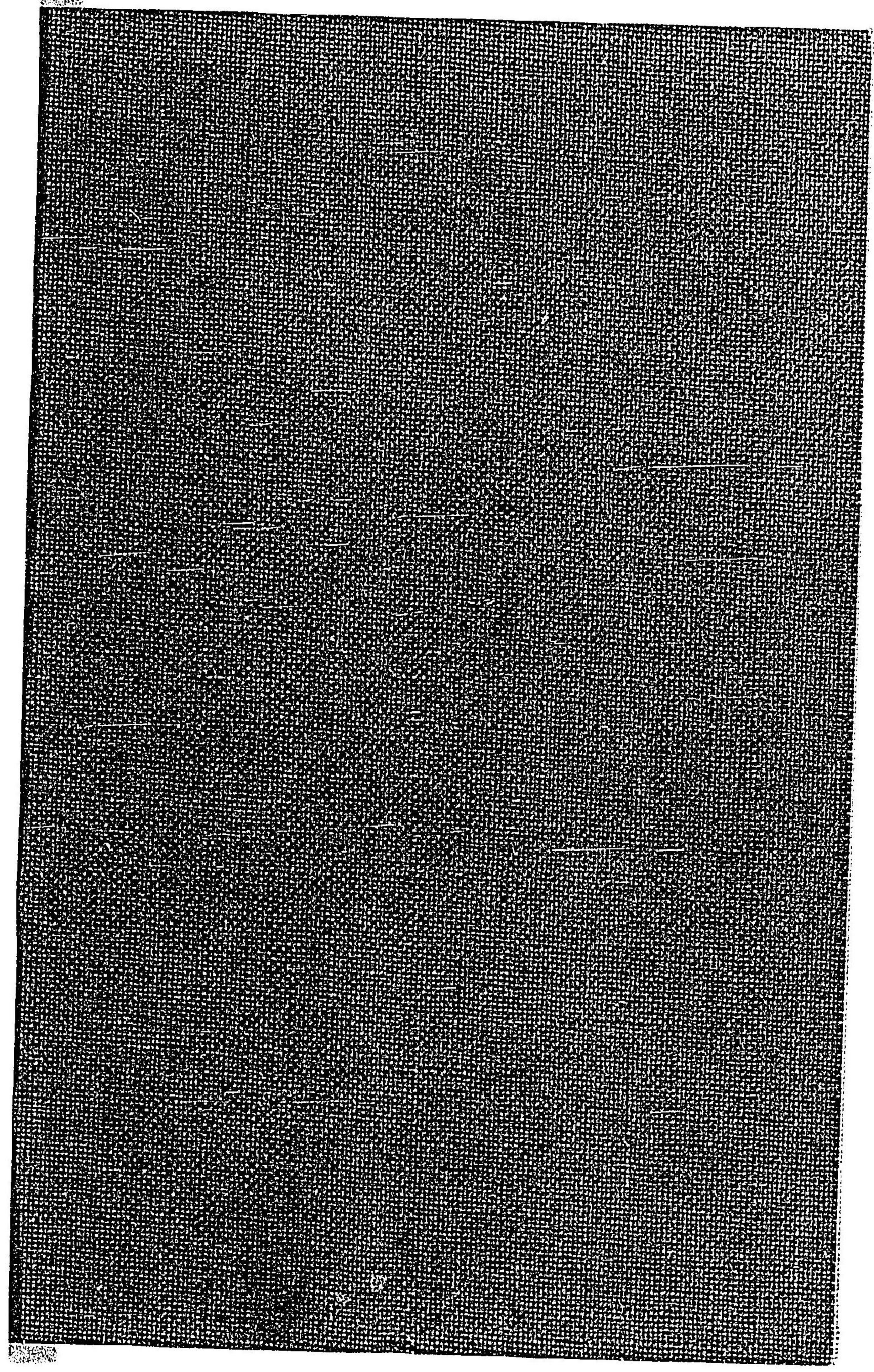
第六十三條 軍隊及軍樂隊新設中ニ係リ全隊ヲ成サハルモノハ其新設中ニ限り陣營具永續料ノ定額ハ第三十一表ニ依ル

34
+C-31



明治二十九年十二月 勅令





031130-054-5

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1013



